

UsbManage Ver7.7ダウンロード
<https://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManagePlus7.7.zip>
※Ver7.7-7.8共通

Ver 7.8

※Windows11 24H2(2024/10)はVer7.8以上で対応
Windows11で動作しない場合はUSBメモリの更新が必要です。
※XP/Vista/7/8/10(32)でも動作しますがサポート対象外



HYPER PLUS

user's manual

Version 7.8



機能別目次

項目	ページ
設定の流れ（はじめに）	8-12
ファイルが開かない	43
空き容量が無い	7,13,25
管理ソフトでエラー	10
管理ソフトのダウンロード	9
書き込みができない	42
対応できる形式	22
ファイルコピーが禁止されない	38,42
USBが反応しない	75-76
エラーが表示される	15-16
動画の設定	95
PDFの設定	89-90
配布用ソフトウェアの設定	92-93
MT4の設定	98-104
フォルダを見えなくする	52
暗号化でセキュリティを高める	49
破損に備えてバックアップする	29
安全な取り外し操作	59
管理パスワードを忘れてしまった	20,46
削除しても良いファイルは？	64
標準ユーザー（制限アカウント）での利用	28,62
フォーマットをしてしまった。	72-74
1ファイル4GB以上の保存	74
利用期間の設定	38,48
トラブルシューティング	25
お問い合わせ方法	12,53
ClickView クリックビュー	105
UsbReset簡易復元	118
設定を戻したい(バックアップの復元)	32
設定がまったくわからない	122
デジタルコンテンツの販売	85

よくあるご質問

はじめてご利用の場合、空き容量が少ない（無い）、コンテンツを入れる前に設定を行い書き込みロックしてしまった。等のご質問があります。

最初に商品パッケージの裏面の説明付属のPDFマニュアル2ページ
本マニュアルP.8～12の5ページを参照してください。

お問い合わせ

管理ソフトUsbManangelにお問い合わせ機能があります。
「優先サポート」タブからお問い合わせをいただくと、ご利用になっているUSBメモリの製品名、バージョンや設定内容がサポート担当で確認することができます。

お使いのセキュリティソフトの影響や何かの理由で「優先サポート」タブが利用できない場合は、support@abroad-sys.comまでお問い合わせ下さい。
お問い合わせの時に、製品名やバージョンが不明の場合はお答えができない場合があります。

お問い合わせは、「優先サポート」タブ又はメールのみの対応になります。電話サポートはありません。

サポート受付時間
平日 10:00～18:00
※当日または翌営業日までに回答をしています。

コピーガードUSBメモリの開発

■最初はコピーガードCDから

当社アブロードシステムズは2001年創業。当初はデータ処理、オフショア開発（海外ソフト開発）、CD/DVDの光学メディアの製造・販売を行っていました。コピーガードUSBは2010年1月に発売を開始していますが、開発を始めたのは2008年後半です。USB製品の前は光学メディアのコピーガードを取り扱っていました。

光学メディアのコピーガードは自社の技術ではなく、外国技術のライセンス供与を受けての取り扱いです。光学メディアでのコピーガードの欠点は、量産化できる方式はコピーガードのレベルは低くカジュアルコピーの防止程度になってしまう事、ガードレベルが高い方式は、再生互換性が100%ではない事、量産化しづらいという欠点がありました。特にデータ形式のコピーガードは難しく1枚づつマスタディスクを作る感じで手間や時間がかかり価格も高価になってしまいました。

■コピーガードUSBの自社開発

2008年はリーマン・ショックという世界規模の金融危機が発生した年で当社でも何らかの対応に迫られた時です。市場では光学ドライブがない軽量で低価格のノートパソコン登場し、インターネットを使ったコンテンツ配信も普及しCD/DVDの出荷量も落ちた時でした。光学メディアのライフサイクルが終わり成熟期から衰退期に移ったと感じていました。当時CDのコピーガードライセンスを提供していた外国メーカーでもUSBのコピーガード製品の開発計画の話もありましたが企画段階だった事や「他社に頼るとCDと同じで大量生産が考慮されない」「量産化が大変で高価で売れづらい商品になる」という考えがあり自社開発に踏み切りました。

■開発当初はネガティブ意見が大半

開発コンセプトは、設定が簡単、どんなコンテンツでもコピーガード可能、高速で動作、低価格など玉虫色でしたが社内でネガティブ意見が続出し製品化は懐疑的でした。ですが、社内からこういった意見がでるという事は、作りづらい製品で競合が現れないと判断し開発を進めました。それよりも、リーマンショックの影響で倒産件数も多く暗いニュースが続いており自社商品開発が避けられない状況でした。

開発コンセプト

- ・短納期対応ができるように国内製造にする
（お客様で過度な在庫を持たないように）
- ・低価格で提供するため大量生産の仕組みが必要
- ・コピーをしようとするとエラーが表示される演出効果



2010年度版 コンテンツガードVer1.0 初代

- ・強力なコピーガード機能
- ・コンテンツ販売用とする
- ・利用者が簡単に設定ができる事

これらの目標を掲げ開発に取り組みましたが、社内の懐疑的意見の問題、ソフトウェア開発、USBのハードウェア部分の製造の問題などクリアすべき問題は多かったように思います。

Ver1の販売が始まり、マスコミ数十社に取り上げていただいた事や徐々に販売数が増えてきた事で批判的意見は一掃されました。

■開発経緯

Ver1 2010/1 コンテンツガードUSBメモリ公開

新聞、雑誌、ネットニュースで取り上げられる

受注生産対応、MOQ 1000本～ XP対応

Ver2 ユーザーカスタマイズ機能UsbManage登場

ユーザーカスタマイズ機能で1本からの販売に対応

Ver3 2010/8 Windows7 32bit対応

ロコミやメディア露出で認知度が上がり出荷数が増える。大企業向けの制限アカウントでも利用可能にするために付属ソフトUsbQuickStartを開発

Ver4 Windows8対応、64bitOS 対応

制限緩和と外国出荷の為、暗号化ロジックを廃止
コピー強度は下がるが利便性が向上した。

Ver5 Windows8.1対応

ドラッグ&ドラッグでコピーロック機能。Hyperシリーズ公開

Ver6 Windows10対応

amazon販売開始、キャップ無しケースに変更

Ver7 保守機能強化 10 Creatos Update版対応
バックアップ機能

フラッシュメモリの製造ロット問題解決
ライセンス管理機能（利用台数制限）など

Ver7.5 Windows11対応



目次

はじめに

機能別目次	2
コピーガードUSBの開発	3
特徴と主な機能	6
設定を行う前の基礎知識	7
設定の流れ	8
管理ソフトをダウンロードしてみよう	9
管理ソフトを起動してみよう	10
コンテンツを保存する UsbStart	11
優先サポートで問い合わせ	12
はじめてのご利用でよくある質問	13
2系統のバックアップ機能	14
エラーレポート画面	15
エラーレポートを送信する	16
管理ソフト／トラブルシューティング	17

仕様／設定の流れ

USBの機能	19
2つのパスワード管理	20
1本のUSBに2つの領域	21
動作検証済のソフトウェア	22
対応OS／利用できない環境	23
仕様一覧	24
認識しない／トラブルシューティング	25

UsbSetting

① UsbSettingからUsbStartを実行する	27
② USBの自動起動 UsbQuikStart	28
③ イメージバックアップで破損に備える	29
④ 内部バックアップで破損に備える	30
⑤ バックアップ／トラブルシューティング	31
⑥ イメージバックアップの復元	32
⑦ バックアップの復元／トラブルシューティング	33
⑧ チェックディスク／非保護領域の破損検査	34

UsbManage／簡易設定

UsbManage／簡易設定	36～37
簡易設定ではできない項目	38

UsbManage／詳細設定

① UsbManage／同じ設定のUSBを作る	40
製品情報	41
② UsbManage／禁止設定	42
③ UsbManage／許可ソフトウェア	43
ホワイトリスト登録	44
システム設定されている禁止プロセスの解除	45
④ UsbManage／別名保存禁止	46～47
⑤ UsbManage／パスワード	48
⑥ UsbManage／言語	49
⑦ UsbManage／起動設定	50
⑦ UsbManage／起動設定／暗号化	51-52
⑦ UsbManage／起動設定／解除コード	54
⑧ UsbManage／日付検査	55
⑨ UsbManage／フォルダ保護	56
⑩ UsbManage／優先問い合わせ	57
⑪ UsbManage／ライセンス	58-59
利用許諾文書の表示	60



目次

付属ソフト／注意事項	
UsbPw／ユーザーパスワード変更	61
UsbRemove／Usb安全な取り外し	62
UsbBack／非保護領域の切り替え	63
AutoStart／自動実行	64
UsbQuickStartのセットアップ	65
UsbQuickStartの自動実行キャンセル	66
付属ソフトについて	67～68
ご利用にあたっての注意事項	69
非表示フォルダを表示する	70
輸出書類について	72
USBメモリバージョンと対応Windows	73
トラブルサポート対応	
FAQ(よくある質問と回答)	74
フォルダやファイルの文字化け	75
保護領域のフォーマット	76
フォーマットで使われる用語と意味	77
USBメモリが急に認識しなくなった	78～79
エラーメッセージに(RC)が表示される	80～81
ウイルスセキュリティソフトの誤検知	82
ライセンス登録操作画面	83
デバイス更新エラー	84
Macでの利用	85
フラッシュメモリの寿命	86～87
名入れとパッケージ	
コンテンツの販売	89
コンテンツ販売／USBマーキング	90
コンテンツ販売／コンテンツコピー	91
コンテンツ販売／利用事例	92
設定例	
PDFの設定	94～95
ユーザーアプリケーションソフト(開発系)	96～97
ファイルやフォルダの非表示化	98
書き込み禁止USBへ強制書き込みを行う	99
動画の設定	100
ClickView(クリックビュー)の使い方	101～113
ClickView/ExeMakerについて	114～122
UsbStealth USBステルスの使い方	122～124
UsbReset(USBリセット)の使い方	125～127
設定でお困りの場合	128



特徴と主な機能

■ハイパープラスの特徴

ハイパープラスは、出張やテレワークなどで社外への持ち出しを規制したいデータの持ち運びに便利なセキュリティUSBメモリです。

動画などを渡した場合でも、利用者はコピーができません。また、exFATを採用した事で1ファイルで4GBを超える大きなファイルを保存できるようになりました。

特徴

- コピーガード機能がある
- パスワードを知っていてもコピーができない
- パスワードロック機能があり紛失時にも安心
- 保存されたデータは意識せずに暗号化保存される
- 保存するだけでコピーロックがかかる
- 管理ソフトで機能を変える事ができる
- USB3.0 (3.1) 規格の採用で読み書きが早い
- 1ファイル4GBを超えるファイルの対応
(他のUSB製品は上限1ファイル4GBになります)

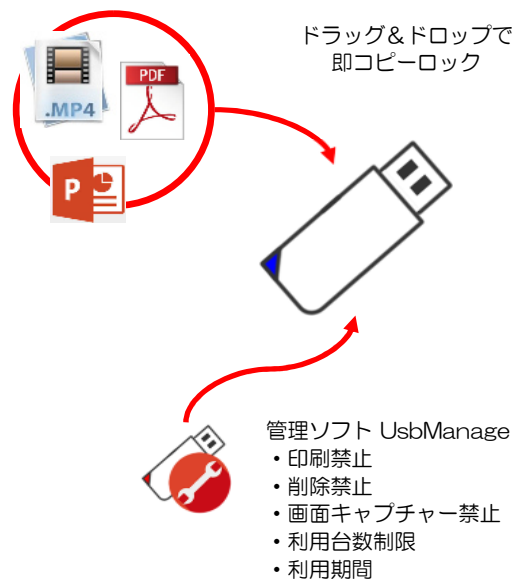
■特定のパソコンでのロック解除

ハイパープラスは、ロック解除機能があります。
(他のコピーガードUSBメモリには、コピーガードを解除する機能はありません)

USBメモリに保存されているデータを取り出す時には特定のPCに解除コードを設定します。

特定のパソコンでコピーガードや禁止設定を解除したい場合は、etuセフォルダ付にある付属のUsbQuickStart_Admin.exeをセットアップします。このときに解除コードを数字8桁で設定します。

USBメモリ側にも同じ解除コードを設定します。
管理ソフトUsbManangeを使い「起動設定」タブの解除コードに同じ番号を設定します。



パソコン側に設定された解除コードとUSBメモリに設定されている解除コードが一致する場合、パスワード以外の印刷禁止や別名保存禁止、コピーガード機能など一切の保護機能は解除されます。

■2つの領域

本USBメモリは1本のUSBメモリに2つの領域があります。非保護領域と保護領域の2つです。領域が2つあるのは一般的なUSBメモリと比べると大きな違いです。領域はどちらか一方が表示されています。最初に表示されているのは非保護領域です。**この最初に表示されている非保護領域には空き容量はほとんどありません。**

UsbStartを実行すると「しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に、保護領域に切り替わります。コンテンツはUsbStartを実行して保



設定を行う前の基礎知識

ハイパープラスはコピーガード機能付きUSBメモリの上位モデルです。保存したファイルはコピーができなくなります。

書き込み禁止、ファイルコピー禁止、印刷禁止など基本的なコピーガード機能に加え、ハイパープラスで拡張された機能は、特定のパソコンで禁止設定を解除できる機能（解除コード設定）、細かなコピー制御機能、利用許諾書の表示や利用台数を制限する（ライセンス管理機能）、2つのバックアップ機能、指定フォルダを見えなくする（フォルダ保護機能）、ドラッグ&ドロップ操作で即コピーロックさせる事もできます。

また、exFATやUSB3.0規格を採用する事でハイビジョン動画など4GBを超える大きなファイルも取り扱いができるようになりました。特に保存時間はUSB2.0に比べて10倍程度の書き込み時間の短縮が期待できます。（USB3.0規格で接続した場合、ご利用PCによる）

本USBメモリは1本のUSBメモリに2つの領域があります。非保護領域と保護領域の2つです。

領域が2つあるのは一般的なUSBメモリと比べると大きな違いです。領域はどちらか一方が表示されています。最初に表示されているのは非保護領域です。**この最初に表示されている非保護領域には空き容量はほとんどありません。**UsbStartを実行すると「しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後に、保護領域に切り替わります。コンテンツはUsbStartを実行して保護領域に保存します。

■流れ

- ①管理ソフトのダウンロード
- ②UsbStartを実行して先にコンテンツを入れる
- ③管理ソフトで設定を行う

※詳しくは次のページ参照してください

※書き込み禁止を設定するとコンテンツ追加ができなくなります。コンテンツを入れてから設定を行って下さい。

※1本のUSBに2つの領域があります。非保護領域と保護領域と呼んでいます。コピーガードが働いていると設定変更ができません。設定するときには非保護領域を表示している必要があります。

■よくある質問

- ・空き容量がない
→ UsbStartを実行して下さい。
- ・管理ソフトが動かない
→ 保護領域を表示している（コピーガードが働いており設定ができない）
→ 設定するUSBメモリを挿入していない。またはUSBが正しく挿入されていない。
USBの挿入を確認してから、もう一度、管理ソフトを実行します。

■注意（重要）

- ・管理パスワードは、初期値は”admin”になっています。管理パスワードを初期設定の状態で配布するとコピーガードが解除されますので必ず変更して下さい。
- ・初期出荷状態では、基本的な設定で出荷されています。コピーガードUSBは必ず設定が必要です。セキュリティを強化する為に禁止する設定項目を確認して下さい。



設定の流れ

●2つの領域を知る

コピーガードUSBメモリは、1本のUSBメモリの中に2つの領域があります。この箇所が一般的なUSBと大きく違います。USBメモリを挿入したときは非保護領域を表示します。保護したいコンテンツはUsbStartを実行して保護領域に切り替えてから保存します。表示する領域はどちらか一方で附属ソフトを使って切り替えます。

●自動実行ソフトは設定しない

付属ソフトにUSBを挿入すると自動実行ができるUsbQuickStart(USBクイックスタート)が付属します。USBメモリの設定を行うパソコンには、この自動実行ソフトをセットアップしないようにして下さい。自動起動が設

定されているパソコンで管理ソフトUsbManage(USBマネージ)は動きません。

(重要) 設定でよくある間違い

ファイルが追加できない。

設定には順番があります。ファイルを保存する前に設定を行うと書き込みが禁止され、ファイル追加ができなくなります。順番は先にコンテンツを入れてから設定を行います。ファイル追加ができない場合は、管理ソフトで禁止設定タブを確認して、“書き込み禁止”のチェックを外します。ファイル追加を行い、その後、もう一度管理ソフトを使って設定を戻します。

設定の順番

1. 管理ソフトをダウンロードします。⇒P.9

ダウンロードファイルはZIP圧縮されています。解凍してデスクトップなどにUsbManage (USBマネージ)を配置します。
(※ダウンロードと解凍のみで実行はまだ行わないで下さい。)

2. UsbStartを実行して保護領域を表示します。⇒P.11

「しばらくお待ちください」のメッセージが消えたらUSBを開いてください。

3. コンテンツの追加

USBを開いてドラッグ&ドロップ操作でUSBメモリへファイルを保存します。初期設定状態では、USBへファイルを保存するとコピーロックし取り出せない状態です。コンテンツ(内容物)とは目的の保護したいファイルです。

4. 付属ソフト“USBの安全な取り外し”を実行してからUSBを取り外します。

USBメモリの取り出しには操作が必要です。特にデータを書き込んだ後は、必ず取り外し操作を行って「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを抜いてください。複数を設定する場合は、先に全てのUSBにコンテンツをコピーします。

5. 設定を行う為にUSBをもう一度パソコンに挿入します。

6. 上記1の操作でダウンロードした管理ソフトUsbManageで設定を行います。

設定するUSBメモリを挿入してUsbManageを実行します。初期パスワード“admin”はじめて管理ソフトを実行すると簡易設定画面が表示されますが(⇒P.36)一旦画面を閉じて設定できる項目を確認する為に「禁止設定」タブを確認して下さい。

左下の簡易設定ボタンは推奨設定を行う事ができます。

複数本に同じ設定を行う場合は「設定コピー」機能が便利です。⇒P.40

USBマスタとコピー先USBの2本差しの状態で連続して設定をコピーします。



はじめに管理ソフトをダウンロードしよう

..... UsbManage (USBマネージ) のダウンロード



① UsbStart

USBの設定をするには管理ソフトUsbManageが必要です。
管理ソフトは製品には付属していません。
下記手順でダウンロードして下さい。

OR

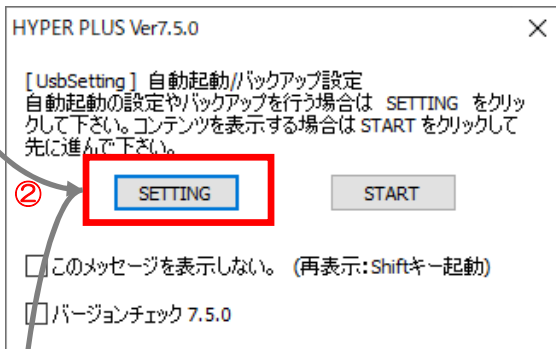


setup



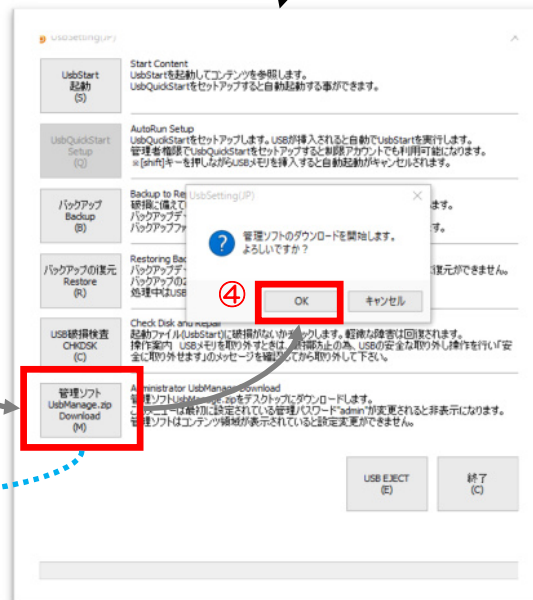
UsbSetting.exe

この画面は管理ソフトの起動設定で表示しない事もできます。(初期値は表示)
⇒P.51 起動設定
この場合はsetupフォルダのusbSettingを直接実行して下さい。



②

UsbSetting.



③

USBの管理パスワードを“admin”以外に変更すると管理ソフトのダウンロードボタンは表示されません。

setupフォルダ内にあるUsbSettingを直接起動する事もできます。

SETUPフォルダにある UsbSettingをダブルクリックで起動します。
画面が表示されたら 管理ソフト UsbManageV7.5のダウンロードを選択します。
管理ソフトは**デスクトップにダウンロードされます**。
ダウンロードできましたら UsbManageV7.5を解凍します。
管理ソフトのダウンロードボタンは管理パスワードを設定すると非表示になります。

手動でダウンロードするにはブラウザに以下のURLを入力します。
<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManageV7.7.zip>



管理ソフトを起動してみよう

.....

管理ソフトのダウンロードができれば実行してみましょう

保護領域を表示していると管理ソフトは動きません。UsbStartを実行しないで設定をしてください。

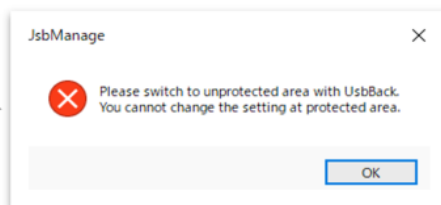
1. 設定するUSBメモリがパソコンに挿入されている事を確認します。
2. デスクトップなどに保存してあるUsbManageV7を起動します。

コピーガードが働いている場合に、UsbManageを実行すると表示されるエラーメッセージ



UsbManage

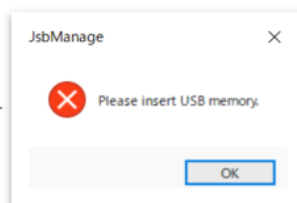
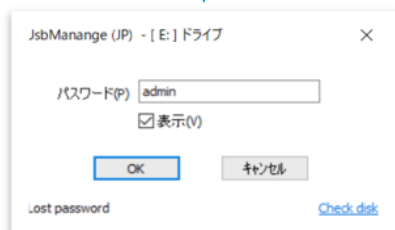
ERROR



設定はUsbStartを実行する前に
行います。保護領域を
表示していると設定が
できません。TOOLフォルダの
UsbBackを実行して非保護
領域を表示して下さい。
⇒P.64

OK

設定するUSBが見つからない場合に表示されるエラーメッセージ



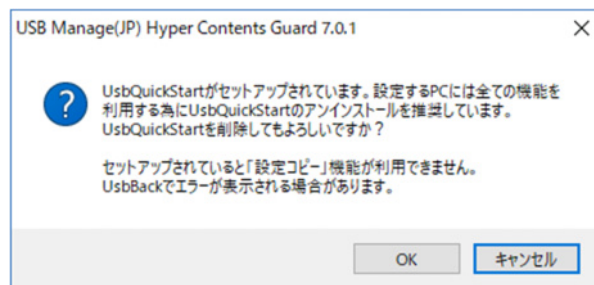
管理ソフトUsbManageで設定する場合は
先に設定するUSBを挿入してから、もう
一度UsbManageを実行します。
※管理ソフトUsbManageは設定するUSB
メモリ内からの実行はできません。デスク
トップなど他のドライブから実行します。

※設定するUSBが見つからない場合は、設定されている表示言語が確認できないので英語のエラーメッセージが表示されます。USBメモリには日本語、英語、中国語、韓国語のメッセージデータが設定されています。

3. USBメモリに設定してある管理パスワードを入力します。(初期パスワード：“admin”)

設定ができないケース

1. 自動実行UsbQuickStartがセットアップされているパソコンではアンインストール画面が表示されます。(右画面→)
設定するパソコンにはUsbQuickStartを設定しないようにして下さい。
2. 設定バージョンの不一致 管理ソフトのバージョンVer7と設定するUSBメモリのバージョンは一致している必要があります。
UsbManageV7でバージョンが違うUSBメモリVer6は設定ができません。
3. 管理ソフトUsbManageV7はUSBメモリからは起動できません。デスクトップやCドライブのフォルダなどから実行して下さい。
4. コンテンツを表示(保護領域を表示)しているとコピーガード機能が有効になる為、管理ソフトは起動できません。
UsbStartを実行する前に設定をしてください。





コンテンツを保存する UsbStart

保護領域の表示

USBメモリの中に保存するデジタルコンテンツの内容物の事を「コンテンツ」と呼びます。コンテンツはUsbStartを実行して保護領域に切り替えてから保存します。

自動起動

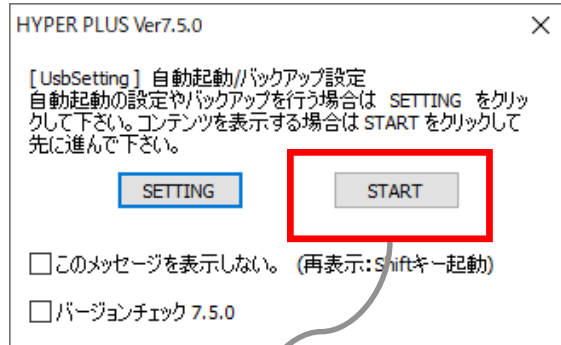


UsbQuickStart

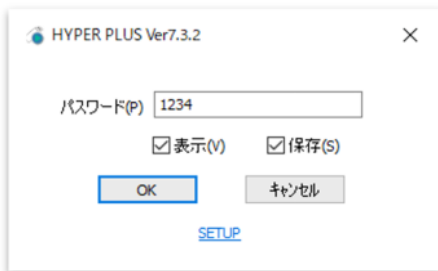
パソコンにUsbQuickStartをセットアップするとUsbStartが自動実行します。ただし、**設定を行っているパソコンには自動起動は行わないようにして下さい。**自動起動のUsbQuickStartをセットアップしているパソコンでは管理ソフトUsbManagerは動きません。
⇒P.28 P.64



UsbStart



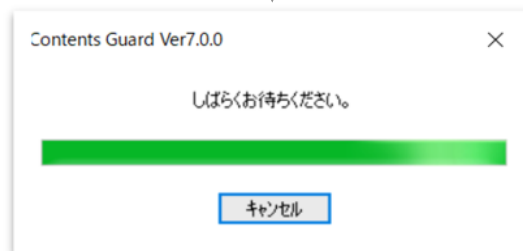
パスワード画面



ユーザーパスワード (任意)

パスワードは、ユーザーパスワードと管理パスワードの2つがあります。この画面では、ユーザーパスワード以外に管理パスワードでも許可されます。

初期設定ではユーザーパスワードが設定されていませんのでパスワード画面は表示されません。⇒P.49 P.62



保護領域が表示されます。ボリューム名“PROTECT_USB” USBを開いてコンテンツをドラッグ&ドロップ操作で追加して下さい。



“Usb安全な取り外し”を実行して「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを抜いてください。



優先サポートで問い合わせフォーム

.....

管理ソフトの問合せ機能を使うと優先的に回答

お問い合わせフォーム

著作者／コンテンツ管理者の方

管理ソフトUsbManageのお問合せ画面からご質問をお送りください。この画面からの質問は優先して回答をしています。

右記のお問合せ画面より質問ができない場合は、一般サポートへメールでご質問下さい。この場合、必ず以下の内容をお知らせください。

1. お名前、会社名
2. ご利用のUSB製品名（必須）
3. 製品バージョン
4. ご利用コンテンツ種類（必須）

■一般サポート

製品購入前のご質問やエンドユーザー様からのご質問はサポート専用窓口にてメールでお問い合わせをお願いします。

support@abroad-sys.com

※電話サポートはありません。

管理ソフトUsbManageから
問い合わせを行うと優先的に回答

USB Manage(JP) HYPER PLUS 7.5.0 - [i:] ドライブ

製品情報	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止
パスワード	UsbServer設定	言語	起動動作
レスキュー	フォルダ保護	お問い合わせ	日付検査
			ライセンス

お名前 your name 宛先のメールアドレス support@abroad-sys.com

返信先のメールアドレス your E-Mail 添付ファイルリスト

CCのメールアドレス

質問のカテゴリ (100)エラー対応

質問内容 *同時にUSBの設定内容も送信されます

お問い合わせ機能⇒P.57

フォルダやファイルの文字化け

⇒P.76

USBメモリが急に認識しなくなった

⇒P.79-80

ウィルスセキュリティソフトの誤検知

⇒P.83



はじめての利用でよくある質問

.....

空き容量がない？

1. ハイパープラスは、1本のUSBメモリの中に2つの領域があります。USBを挿入して表示される領域は非保護領域と呼ばれます。この領域は、コンテンツを保存する保護領域に切り替えるためのUsbStart.exeやSetupフォルダなど保守管理ソフトがあります。非保護領域の容量は全体で15M程度と小さく空き容量は小さなPDFファイルが保存できる程度でありありません。コンテンツを保存する場合は、UsbStartを実行して保護領域に切り替えてからコンテンツを保存して下さい。詳しくは⇒P.21 「1本のUSBに2つの領域」を参照して下さい。

2. 管理ソフトUsbManageの管理パスワードを入力後、最初に表示される画面に「空き容量をゼロにする」という機能があります。このチェックを外すと空き容量が表示されますが、非保護領域側には大きなファイルは保存できません。

管理ソフトがダウンロードできない。

管理パスワードを設定すると管理ソフトのダウンロードメニューが非表示になります。手動でダウンロードをしてください。⇒P.17

はじめからコンテンツを起動できないか？

付属ソフトのUsbQuickStartとAutoStartの2つを組み合わせるとUSBが挿入されると指定のファイルを開く事ができます。

ただし、自動実行には制限がありますので詳しくはUsbQuickStartについての説明をご参照ください。⇒P.28 P.65

USBがまったく認識しなくなった

USBを取り外す時には操作が必要です。書き込みを行って操作をせずにUSBを抜いてしまった場合は、Windowsデバイスマネージャーで一時的に利用を停止される場合があります。この場合は復帰操作が必要です。⇒P.76-77

→認識はするがファイル名やフォルダ名が文字化けしている場合は、インデックス領域が壊れている場合があります。この場合は、バックアップデータの復元または保護領域側のフォーマットが必要になります。⇒P.73-74

2系統のバックアップ機能

イメージバックアップとUsbBackup

ハイパープラスには、2つのバックアップ方法が用意されています。
コンテンツを配布後、利用者がはじめて使う場合はイメージバックアップの実行をお願いします。
バックアップの復元は同じ個体のUSBにしか戻せません。

■イメージバックアップ



UsbSetting.exe

メリット : 完全にデータ復活が可能
デメリット : バックアップ時間が長い

処理時間 例) 64GB : バックアップ1時間 復元処理 : 2時間程度
書き込みデータが多いためハードディスクの書き込み速度や
データ保存後の圧縮はパソコン速度に影響します。
SSDなどの場合は早く、圧縮は高性能パソコンほど早く終わります。

※一時的にUSBメモリと同じ容量のイメージデータをCドライブに作成します。
空き容量にご注意下さい。データは最終的に圧縮されます。
※バックアップ回数や台数など制限はありません。
※データはドキュメントフォルダの“UsbSetting”フォルダに作成されます。
※復元はバックアップを行った同じ個体のUSBメモリにしかできません。

⇒P.29

■UsbBackup



UsbBackup.exe

メリット : バックアップ時間が短い
デメリット : USB全体の破損など状況によっては復元できない場合がある

タイミング : コンテンツの内容が変わった時
※データ書き込みを行うソフトで実行します。

日々のバックアップはUsbBackupを使います。
書き込みを行っていないコンテンツはイメージバックアップのみ行って下さい。
バックアップデータは同じUSBメモリ内に保存されます。

⇒P.30

■破損の原因

ファイル書き込み中にUSBを取り外すとファイルが破損します。画面上で書き込みが終わっていたと見えても実際にはタイムラグがあり数秒程度遅延があります。

USBメモリを取り外すときは、USBの安全な取り外し操作を行って、取り外しのメッセージが表示されてから抜いてください。

※書き込みを行っていないと思われる場合でもWindowsが復元情報の書き込みを行っています。
軽微なものは修復できますがタイミングが悪いと保存ファイル全部が読めなくなる事があります。

マニュアルの緑色の文字はHyperシリーズのみの機能です。




エラーレポート画面

エラーが発生した場合は、エラーレポート画面が表示されます。
エラー情報を送信すると原因を調査する事ができます。

エラーレポート送信後にサポート窓口に質問をお送りください。
サポート窓口： support@abroad-sys.com

Hyper Contents Guard Ver7.0.0

 処理はキャンセルされました。

エラー情報を送信後 サポート番号AX-XXXXXを記載して
support@abroad-sys.comへお問い合わせ下さい。

サポート番号:AX-01676

著作権者
コンテンツ名
連絡先

Product:Hyper Contents Guard Ver7.0.0
UsbStart.exe:7.0.0.8
UsbQuickStart:none
OS
Microsoft Windows 10 Home
Version:10.0.17101
CSD Version:
Japanese
USB Information:13FE-1000-AX20170117216070B716F08153E35
USB Controller
USB xHCI 対応ホストコントローラー

[UsbError.dat](#)保存

エラー送信が出来ない場合はUsbError.datをメール添付で送信して下さい。
送信先:support@abroad-sys.com

☐ バージョンチェック(次回接続時)

メールアドレスなどのコンタクト情報(任意)

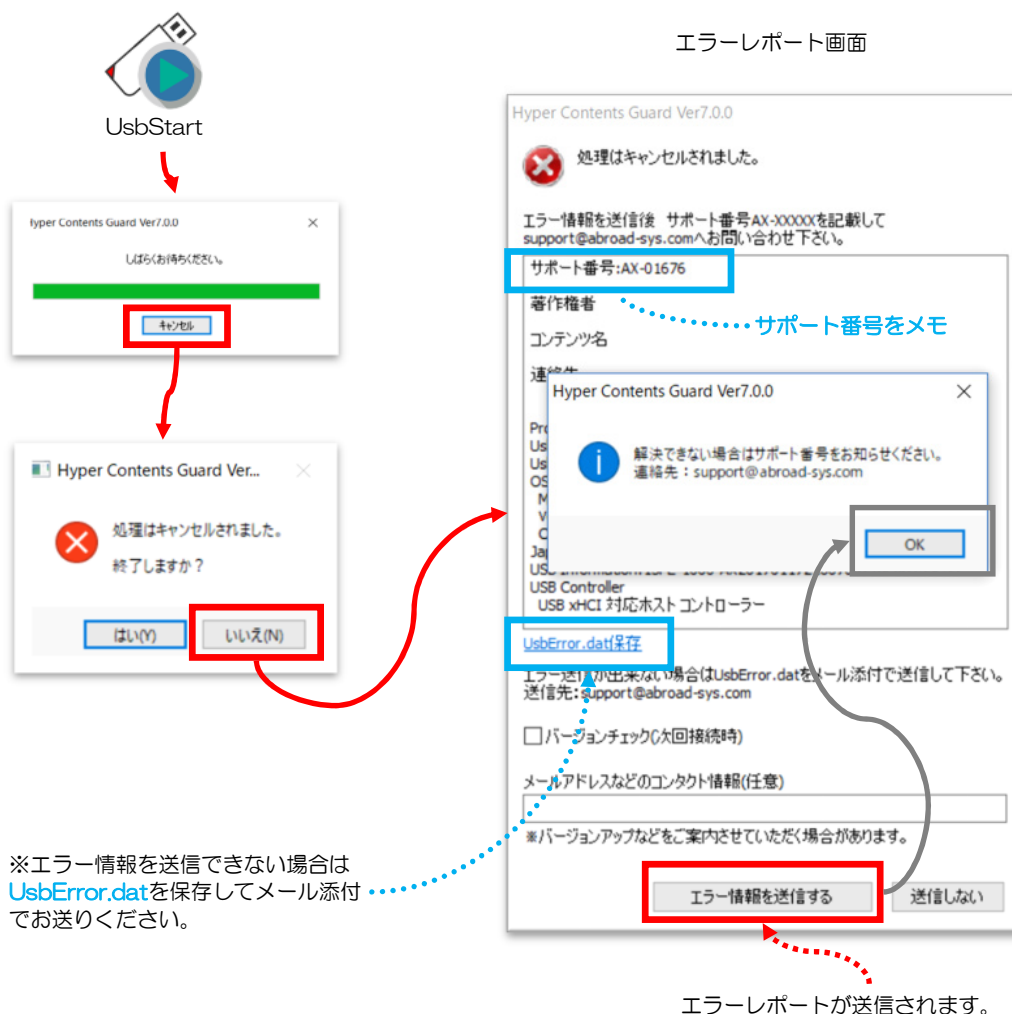
※バージョンアップなどをご案内させていただく場合があります。



エラーレポートを送信する

■手動でエラー送信画面を表示する方法

エラーなどが発生した場合、エラーレポート画面が表示されます。エラーレポートが送信できなかった場合は、手動でエラーレポートを表示する事ができます。手動でエラー情報を送信した場合、調査に必要なWindowsのバージョンやハードウェア情報が含まれていますがエラー直後の情報が含まれていません。エラー情報を送信した後にサポート番号とエラーが発生した状況を詳しく support@abroad-sys.com にお知らせください。



上記手順でエラーレポートを送信してから
現象とAX-12345 などのサポート番号をメールでお知らせください。

support@abroad-sys.com



管理ソフト／トラブルシューティング

管理ソフトがダウンロードできない

原因：①ダウンロードメニューが表示されていない。②セキュリティソフトでダウンロードが止められている

解決：①管理パスワードが” admin” 以外に変更されると管理ソフトのダウンロードボタンは表示されません。

ブラウザに以下のURLを入力して手動ダウンロードして下さい。

<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManageV7.7.zip>

※全て半角、大文字・小文字ピリオドも正確に入力してください。

間違っているとダウンロードできません。Windowsのダウンロードフォルダに保存されます。

ブラウザによってはダウンロードボタンの表示がわかりずらい場合があります。違うブラウザでお試し下さい。②他のパソコンでダウンロードして下さい。製品サポートにお問合せいただければメール添付で送信も可能です。ただし、セキュリティソフトの誤検知などでダウンロードができない場合はメール添付でも受け取る事ができないケースがあります。

SETUPフォルダが見つからない

原因：保護領域を表示している。

解決：SETUPフォルダは非保護領域にあります。

UsbStartを実行すると保護領域に切り替わりますのでSETUPフォルダは見えなくなります。SETUPを参照する場合はUsbStartを実行しないで下さい。

自動起動のUsbQuickStartをセットアップしていると、USBが挿入されると自動でUsbStartを実行します。この場合、USBが挿入されると保護領域を表示します。TOOLフォルダがある場合は UsbBackを実行します。 自動起動UsbQuickStartをセットアップしておりUsbBackも無い場合は、USBを挿入して「しばらくお待ちください」のメッセージ画面で「キャンセル」ボタンをクリックします。UsbStartの自動実行はシフトキーが押されているとキャンセルされます。USBメモリを挿入するときにシフトキーを押しながら挿入する方法でも自動実行をキャンセルする方法もあります。

管理ソフトが動かない

原因：①USBと管理ソフトのバージョン不一致②保護領域を表示している③設定するUSBメモリが挿入されていない

解決：①USBメモリバージョンと同じ管理ソフトバージョンを利用してください。

UsbStartを実行して「しばらくお待ちください」のタイトルメニューにUSBメモリのバージョン情報が表示されています。②設定は非保護領域で行います。設定する前にUsbStartを起動しない③先にUSBメモリを挿入してから管理ソフトを実行する。

非保護領域を表示できない（保護領域が表示されてしまう）

原因：①UsbQuickStartをセットアップしている。②UsbStartを実行している

解決：①USBを挿入するときにシフトキーを押しながら挿入すると自動実行はキャンセルします。「しばらくお待ちください」の表示でキャンセルボタンをクリックする。

UsbQuickStartを設定するパソコンに設定すると設定が面倒になります。

SetupフォルダにあるUsbQuickStartをもう一度実行するとアンインストールします。

②設定はUsbStartを実行する前に行います。保護領域にTOOLフォルダがある場合はUsbBackを実行すると非保護領域を表示する事ができます。

仕様／設定の流れ



USBの機能

ドラッグ&ドロップで即コピーロック

初期設定ではUSBへファイルを追加すると即コピーロックします。ファイルを差し替えるときは、USBメモリ内のファイルをDELキーで削除するか、上書きをしてください。設定により、ファイル追加を禁止したりファイルの削除を禁止する事もできます。

フォルダを見えなくする「フォルダ保護機能」

指定されたフォルダを利用者から見えなくする設定ができます。この場合、利用者がファイルをダブルクリックで開く事ができません。この場合は付属のビューワーソフト（ClickView：クリックビュー）から再生をしてください。ClickViewは各種のデータ形式を再生できるビューワーソフトです。P.103

許可ソフトウェアの設定

USBメモリへアクセスするソフトを限定する機能があります。設定された場合、登録されたソフト以外のアクセスを禁止にします。これにより、保護機能を解除するソフトの利用やダビングを

設定は管理ソフトの必要項目にチェックを入れる。
または、簡易設定ボタンで利用ソフトを選択をします。

禁止設定タブ

コンテンツを入れた後に設定を行う
管理ソフトの「禁止設定」タブに
必要なチェックを入れる。



簡易設定ボタン

コンテンツ種類を選ぶだけでも設定ができます。
簡易設定ボタンでは推奨値が設定されます。印刷は許可したい等、細かな設定は上記の詳細画面で行います。

2つのパスワード管理

.....
 UsbManage管理パスワード/UsbStartユーザーパスワード

パスワードはユーザーパスワードと管理パスワードの2つのパスワードがあります。
 パスワードは何も設定をしなれば表示されません。
 管理パスワードは初期値で” admin” が設定されています。
 ユーザーパスワードは初期値は設定されていません。



ユーザーパスワード

- ユーザーパスワードが設定されていない場合は、パスワード画面は表示されません。
- ユーザーパスワードとコピーガードは関係がありません。ユーザーパスワードを設定しなくてもコピーガードは働きます。
- ユーザーパスワードは、最後に入力したパスワードをパソコンに保存できます。
- ユーザーパスワードを忘れた場合は、管理ソフトUsbManageで再設定できます。
- ユーザーパスワード欄はユーザーパスワード、管理パスワードどちらでも許可されます。



管理パスワード

- 管理パスワードは設定変更に必要なパスワードでユーザーパスワードとは別に管理されています。
- 管理パスワードはミス入力回数が設定されています（最大20回）。ミス回数を過ぎるとそれ以降、正しいパスワードが入力されても無視されます。パソコンの再起動でリセットされます。

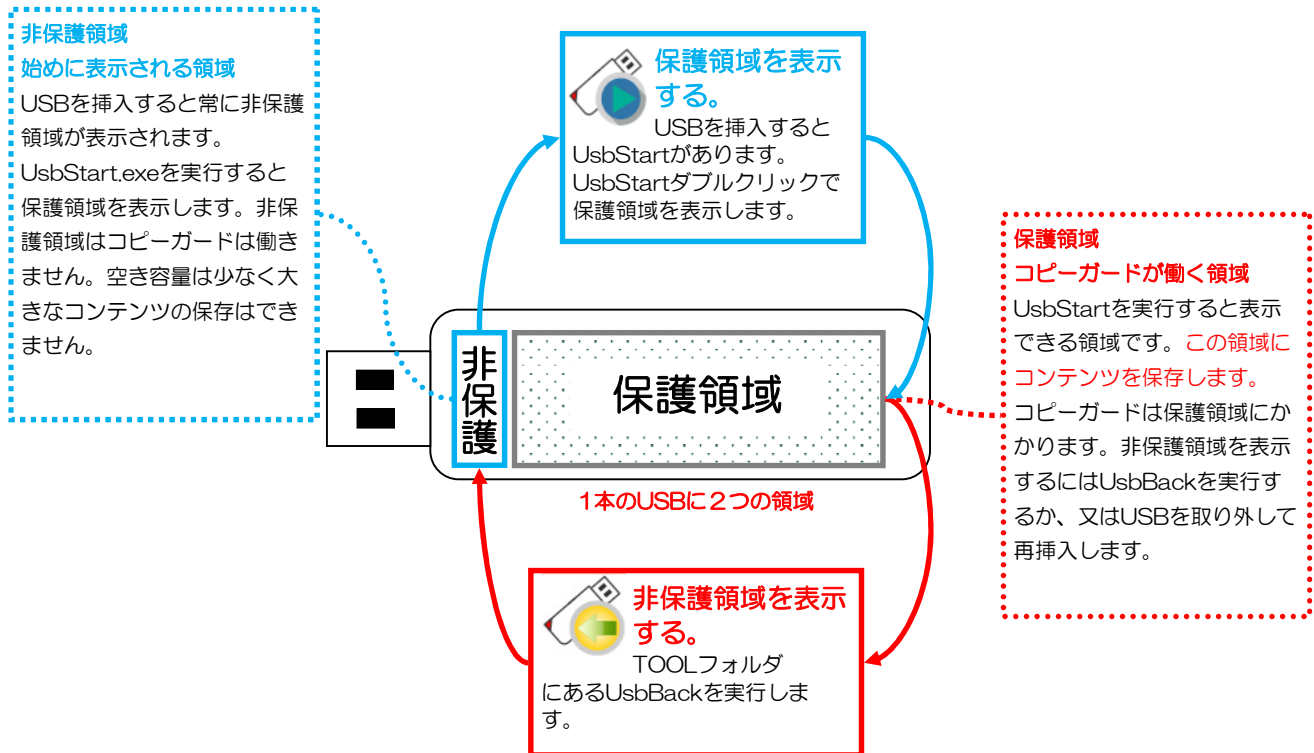
Lost Password

管理パスワードを忘れた場合は、あらかじめ登録されている管理者メールアドレスへ送信することができます。送信するには、事前に登録されている管理者メールアドレスの入力が必要です。



1本のUSBに2つの領域

2つの領域を切り替えて、どちらか1つの領域が表示されています。



1本のUSBメモリに2つの領域

本USBメモリは1本のUSBメモリを2つの領域に分けられています。初めてパソコンにUSBメモリを挿入すると空き容量が少ない非保護領域が表示されます。2つの領域はUsbStartを実行する事で切り替えて利用します。UsbStartは保護領域を表示するソフトです。逆に非保護領域へ戻るにはTOOLフォルダのUsbBackを実行します。

運用方法

最初にUSBを挿入するとUsbStartを実行します。コンテンツの入っている領域が表示されますので、コンテンツをダブルクリックで開きます。頻度が激しいコンテンツの場合は、付属ソフトのUsbQuickStartをセットアップすると便利です。UsbQuickStartがセットアップされたパソコンでは直ぐにコンテンツを表示できます。

自動実行は管理者パソコンには設定しない

UsbQuickStartはUSBの設定を行う管理者にはセットアップしないで下さい。UsbStartが自動実行されると設定が面倒になります。



動作検証済みのソフトウェア

■動作確認済みソフトウェア一覧(※1)

Adobe Acrobat Reader、Adobe Acrobat std/Pro、Note Pad(メモ帳)、Microsoft Excel、Microsoft Excel Viewer、Microsoft Word、Microsoft Word Viewer、Microsoft Access(mdb)、Microsoft PowerPoint、Microsoft PowerPoint Viewer、Microsoft Publisher、Microsoft Word Mobile、Microsoft Excel Mobile、Microsoft PowerPoint Mobile、Microsoft Edge、Microsoft Internet Explorer、Mozilla Firefox、Opera Internet Browser、Google Chrome、Apple Safari、Windows Media Player、GOM PLAYER、VLC media player、Media Player Classic(MPC-HC)、ClickView、Microsoft Paint、Microsoft Word Pad、OpenOffice.org、HWP、JUST一太郎 2008-2014、JUST花子 2008-2014、JUST 三四郎、JW_CAD、Windows Reader、JW_CAD、FileMaker Pro、SumatraPDF (PDF Reader)、MetaTrader4

■別名保存の禁止機能 検証済ファイル形式

Movie Format	avi、wmv、flv、mp4、mov
HomePage	htm、html、mht
Photo/Image File	bmp、jpg、jpeg、gif、tif、tiff、png
TEXT File	txt、csv、prn
プレゼンテーション	ppt、pps、odp、sxi、odg、otp
ドキュメント形式	pdf、doc、docx、pdf、odf、docm、odt、sxw、rtf、txt
表計算形式	xls、xlsx、xlsb、xlsm、ods、sxc、xml、csv、txt
Music File	mp3、aac、aiff、wav、wma
Just 一太郎形式	jtcd、jttdc、jtt、jttdc、odt、jfw、txt、jfw、jvw、jbw、juw、jaw、jtw、jsw、doc、ppt、rtf
Just 花子形式	jhd、jhdc、jth、jthc、jbh、juh、dwf、dxf、svg、ppt、pptx、sxd、odg
Just 三四郎	jsd、jsdc、jst、jstc、jac、jtc、xlsx、xls、123、wk4、wk3、wj3、wj4、ods、txt、csv、slk
CAD形式	pdf,jww,jwc,dwg,dwf,dxf,skp,stp,ste,step,p21,sfc,sxf,igs,iges

【注意事項】

別名保存の禁止機能(※2)は上記確認ソフトウェア以外では未対応場合があります。
※プラグインソフト利用や新しいバージョンでも対応できるようになっておりますが、全ての機能での動作や保護の確認は行っておりません。

※1) 許可ソフトウェアの一覧に表示されるソフトです。この一覧にない場合は、個別登録を行います。

※2) 別名保存の禁止は、ソフトウェアの作り方に依存します。Windowsで提供されている標準的な保存処理を行っている場合は対応ですが、トラブル対応などで独自に保存処理を行っている場合は個別対応する必要があり、検証済みでないソフトウェアの場合は別名保存の禁止機能が働かず確認して下さい。



対応OS／利用できない環境

本USBメモリはWindows専用です。以下の環境は未対応で動作できません。

対応OS

Windows 8.1/10/11

※2020/6以降のWindows10バージョンをご利用の場合、古いUSBメモリバージョンでは動作しません。Windows10 2004/20H2/21H1以降はUSBメモリのバージョンVer7.4以降に更新する必要があります。https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_2004.html

※WindowsXP/Vista/7でも動作しますがサポート対象外になります。マイクロソフト社およびセキュリティソフトの誤検知で動作できないトラブルの場合、対応ができません。

対応できない環境

本USBメモリはスタンドアロン（1台のパソコン）環境で利用します。

ネットワーク経由で共有する事はできません。Windows以外のMacやUNIX系のOS、USB対応の家電製品は未対応です。ご利用になれません。未対応OSの場合は、原則動作保証がありません。コンテンツが保存されている保護領域を表示できません。

仮想実行環境について

●動作確認を行っているもの、サポート対象内

- Intel Mac系でBoot CampでのWindows10
- Intel Mac系でParallels DesktopでのWindows10（メモリ搭載16GB以上必要）

●動作ができないもの、サポート対象外

- Windows Insider Preview 版は全て動作保証外になります。

仮想環境は一部の機能は動作する可能性ありますが当社での動作保証をしておりません。商用版の仮想実行環境でUSBメモリがサポートされている場合は動作ができると思われます。

- Intel系Mac、M1 Mac共にWindows11は動作ができません。

Windows11はハードウェア仕様でセキュリティーチップTPM2.0が必須ですがMacはTPMチップが未搭載なので動作しません。ParallelsのソフトウェアTPM2.0は、一応は動作できますがマイクロソフト社で非対応となっています。

- M1 Macでの利用

M1 MacでのWindows10/11は動作保証しておりません。基本的には動作しません。

ネット情報でセットアップができない処理を回避する方法や研究開発用のARM版Windowsを動作させる方法を見つけるができますが正式な物ではないので通常のご利用で運用するものではありません。

WindowsはIntel社のCPU専用のOSです。M1チップはARM社のCPUの為、通常のIntel版Windowsは動作しません。研究開発中のARM版のWindowsで一応は動作できますがOSの完成度の問題で不具合が多い事、ARM版のWindowsは正式版ではないので非推奨及びサポート対象外になります。

• Hyper-V（Windows標準仮想実行環境）での利用 USBがサポートされていないので動作できません。

• Ubuntu 20.04/VM Ware7.0/Windows10で起動できる事を確認していますがサポート対象外になります。（LINUX系のWindowsアプリを動作させるWineではご利用できません。USBの保護機能が動作しません）

仮想実行環境やサポート対象外のものは、高い確立で何らかの障害が発生すると思われます。バージョンアップなどでご利用ができなくなる事もありますので通常の運用ではご利用されないようにお願いします。

仕様一覧

項目	説明
製品名	HYPER PLUS ハイパープラス Ver7
寸法・重量	スライド式 キャップレスタイプ 長さ 55.4mm X 幅 21.5 mm X 厚み 9.5mm 重量:14g
材質	Aluminum / PS樹脂
刻印	レーザーマーキング
フラッシュメモリ	NAND型フラッシュメモリ PCBA (Printed Circuit Board Assembly)
インターフェイス	USB 3.0 / 3.1規格 / Aタイプ ※製品ロットによりUSB3.1になる場合があります。規格上の転送速度はUSB3.0に比べ3.1の方が高速ですが、実際の読み書き速度は内部のフラッシュメモリの反応速度に影響されるので大きな差はありません。 ※2015年以前のPCでASROCKマザーボードなど(ETRON製EJ186)が使われている場合、USB3.0規格に準拠しておらず互換性がないためご利用になれません。EJ186のファームウェア更新で認識は可能になりますが認識に時間がかかったり、読み書き速度が遅くなります。USB3.0で認識できない場合は、USB2.0の接続口での利用してください。
製品保証期間	ご購入から1年間／無償修理または同等品との交換 ※保存されているデータの保証はありません。復元処理を行う為にイメージバックアップを実行して下さい。
データ保持期間	約5～10年 ※利用状態により異なる
動作環境	推奨利用温度 5℃～40℃ (70℃以上にならない事) 推奨利用湿度 5%～90% (静電気が起きない事、結露が起きない事) ※冬場など静電気でUSB端子でスパークを起こし内部の回路が破損する事故があります。 ※高温の状態での長期利用は寿命が短くなります。
書き換え回数	約1,000～10,000回 ※容量や利用状態により異なる
注意事項	【静電気】強い静電気で内部の部品が破損する事があります。大量にUSBメモリを取り扱う場合は乾燥した室内を避け帯電防止対策を行って下さい。 【耐水性】なし。本製品を水に濡らさないで下さい。一部、COBタイプ(ミニサイズ)では耐水性のものとありますが完全乾燥が必要です。濡れたままでの利用はできません。
フォーマット	exFAT
容量	16G,32G,64G,128GB
対応OS	Windows 8.1/10/11 ※対応OS(Windows)以外では動作しません。 ※Windows XP / Vista / 7 も動作しますがマイクロソフト社のサポートが終了していますのでサポート対象外となります。古いバージョンのUSBをご利用の場合、2020/5以降に公開された新しいWindows10に未対応で動作しない場合があります。バージョンアップ https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_2004.html ※Windows Update/サービスパックは最終バージョンを適用して下さい。
対応していない機能	●対応していないOSや機器にはご利用できません。 ●コピーガード機能はあくまでローカル使用でスタンダード用です。ネットワーク経由のご利用には対応していません。 ●Windows以外のUNIX系、MacなどのOSやフォトフレーム等のデジタル機器には対応していません。 ●一部のセキュリティソフトウェアの誤検知でのシステムファイル削除や競合があり同時使用はできない場合があります。この場合は当社のサポートまでお知らせください。セキュリティソフトベンダへ当社サポートより改善申し入れを行います。
免責事項	●本製品のコピーガード機能はWindowsの基本操作でコピーができない事を確認しておりますが、全てのアプリケーションソフトや解析手法において絶対にコピーができない事は保証しておりません。 ●別名保存の禁止機能は、全てのソフトウェアで禁止できる事を確認していません。確認を行っていないソフトでは、別名保存の禁止が働かない場合があります。 ●USBメモリは書き換え回数やデータ保持期間は無限ではなく寿命があります。Windows ReadyBoostやキャッシュなどに類する激しく読み書きを繰り返す様な利用方法には対応していません。キャッシュ利用や類似する動作のソフトウェアのご利用は保証対象とはなりません。



認識しない／トラブルシューティング

安全な取り外し

USBメモリを取り外す場合は、操作が必要です。いきなり抜くとUSBが認識しなくなったり、保存されているファイルが破損する事があります。特にUSBのインデックス領域書き込み中にUSBが取り外されると全体が読めなくなる可能性があります。これを防ぐためにUSBの取り外し操作を行って下さい。

フォルダ名やファイル名の文字化け

原因：FATのインデックス領域に破損

解決：①バックアップの復元より修復②禁止設定を解除後、保護領域をフォーマットする。バックアップされていない場合は保護領域側のコンテンツは復元はできません。

特定のパソコンでUSBメモリが認識しない⇒P.79-80

原因：非保護領域を認識しているUSBドライバが一時的に停止されている

解決：Windowsのデバイスマネージャーを表示してエラーの出ているドライバのプロパティを開き「このデバイスを有効にする」ボタンをクリックする。

特定のパソコンでUsbStar実行後にUSBが認識しない

原因：保護領域側を認識しているUSBドライバが一時的に停止されている

解決：UsbStartを実行後、USBが認識していない状態でWindowsのデバイスマネージャーを表示してエラーの出ているドライバのプロパティを開き「このデバイスを有効にする」ボタンをクリックする。

複数のパソコンでUSBが認識しない

原因：USBのシステム領域の破損

解決：バックアップを行っている場合は、バックアップの復元を行う。バックアップを行っていない場合はお客様側で復帰できる方法はありません。修理扱いでメーカーサポートにお問合せ下さい。通常の取り扱いでは破損しません。ご利用されているソフトが原因の場合があります

空き容量がない

原因：①管理ソフトUsbManageの「空き容量をゼロにする」がONになっている。②非保護領域になっている

解決：①管理ソフトUsbManageの「空き容量をゼロにする」のチェックを外す。②UsbStartを実行して保護領域を表示します。USBは1本に2つの領域があり切り替えて表示しています。USBをパソコンに挿入して最初に表示されている領域は非保護領域と呼んでいます。この領域は、コンテンツを保存する領域ではありません。空き容量をゼロにする機能があり空き容量がありません。UsbStartを実行すると保護領域に切り替える事ができます。

UsbSetting設定

バックアップ
バックアップ復元
自動起動
チェックディスク

26

UsbSettingからUsbStartを実行する

UsbSetting/UsbStart



コンテンツが保護されている領域を表示するには、USBメモリ内のUsbStartを直接ダブルクリックで実行する。又は

UsbSettingを表示している場合は、メニューの” UsbStart起動” を選んで下さい。

UsbSetting.exe



UsbStart

USBの自動起動 UsbQuickStart

UsbSetting/UsbQuickStart

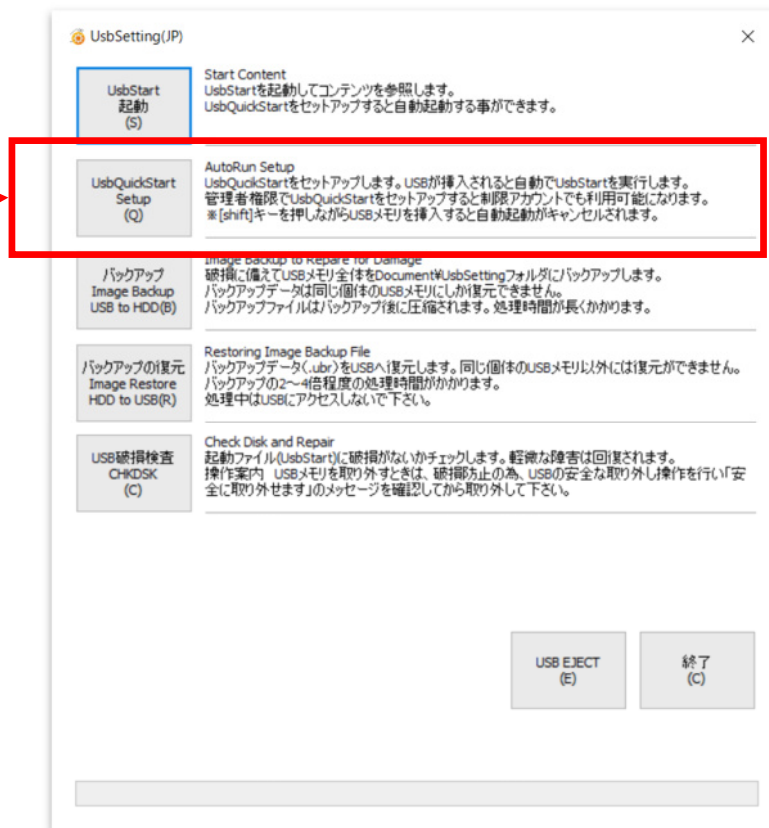


UsbSetting.exe

自動起動させたい場合はUsbQuickStartをセットアップします。
UsbQuickStartは各パソコンに設定します。
制限アカウント（※１）のパソコンは管理者権限でUsbQuickStartをセットアップして下さい。

UsbQuickStartの セットアップ

管理パスワードが初期値“admin”の場合は選択できません。
設定するパソコンには自動起動は設定しないで下さい。



（※１）制限アカウント（標準ユーザー）

大きな企業や学校では、LOGINアカウントに制限をかけて運用されている場合があります。ソフトウェアのセットアップや実行を制限されている場合は制限のあるアカウントで利用されています。この場合、UsbQuickStartをパソコンに設定すると制限アカウントでも利用できるようになります。UsbQuickStartをセットアップする場合、管理者権限（管理者パスワード）が必要ですのでパソコンを管理している情報システム部門にご相談いただくか、制限のかかっていないパソコンでご利用下さい。⇒P.59

UsbQuickStartの直接セットアップ／アンインストール

SETUPフォルダにあるUsbQuickStartがあります。直接実行するかUsbSettingメニューから実行して下さい。既にセットアップされているパソコンで実行するとアンインストールされます。
※ネットワークで複数端末に設定する場合は、コマンドラインより /Nをつけて実行すると応答メッセージを表示しません。UsbQuickStart.exe /N

管理者パソコンにはUsbQuickStartを設定しない

管理ソフトUsbManageを実行するパソコン、つまりUSBを設定するパソコンは自動起動は設定しないで下さい。管理パスワードが“admin”になっている場合は、UsbQuickStartは設定できません。また、UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは管理ソフトUsbManageの実行ができません。

イメージバックアップで破損に備える

UsbSetting/イメージバックアップ



1. SETUPフォルダ内にあるUsbSettingを実行します。
2. メニューの“バックアップ/Image Backup”を選択します。
3. バックアップ終了までUSBにアクセスせずにお待ちください。

UsbSetting.exe



イメージバックアップ

ファイル破損や初期状態に戻したい場合に備えてバックアップを行います。バックアップは処理時間が長くなります。4GBのUSBメモリの場合5～20分ほどかかります。(パソコン速度、保存されているコンテンツ量に影響します。)

■破損の原因

ファイル書き込み中にUSBを取り外すとファイルが破損します。USBメモリを取り外すときは、USBの安全な取り外し操作を行って、取り外しのメッセージが表示してから抜いてください。※書き込みを行っていないと思われる場合でもWindowsが復元情報の書き込みを行っています。軽微なものは修復できますがタイミングが悪いと保存ファイル全部が読めなくなる事があります。

29

バックアップ

ファイル破損に備えてイメージバックアップ（セクタ単位の全バックアップ）を行います。設定情報を含めすべてがバックアップされます。バックアップファイルは、圧縮して保存されますがCドライブには一時的にUSBと同じ空き容量が必要です。

バックアップデータの保存場所

ドキュメントフォルダのUsbSettingフォルダ内に拡張子(.ubr)で保存されます。
C:\Users¥(アカウント名)\Documents¥UsbSetting

処理時間

一度、USBメモリと同じ容量のイメージデータのバックアップを取ります。その後、圧縮されます。バックアップはHDDよりはSSDの方が速く、圧縮は速いパソコンの方が時間短縮ができます。

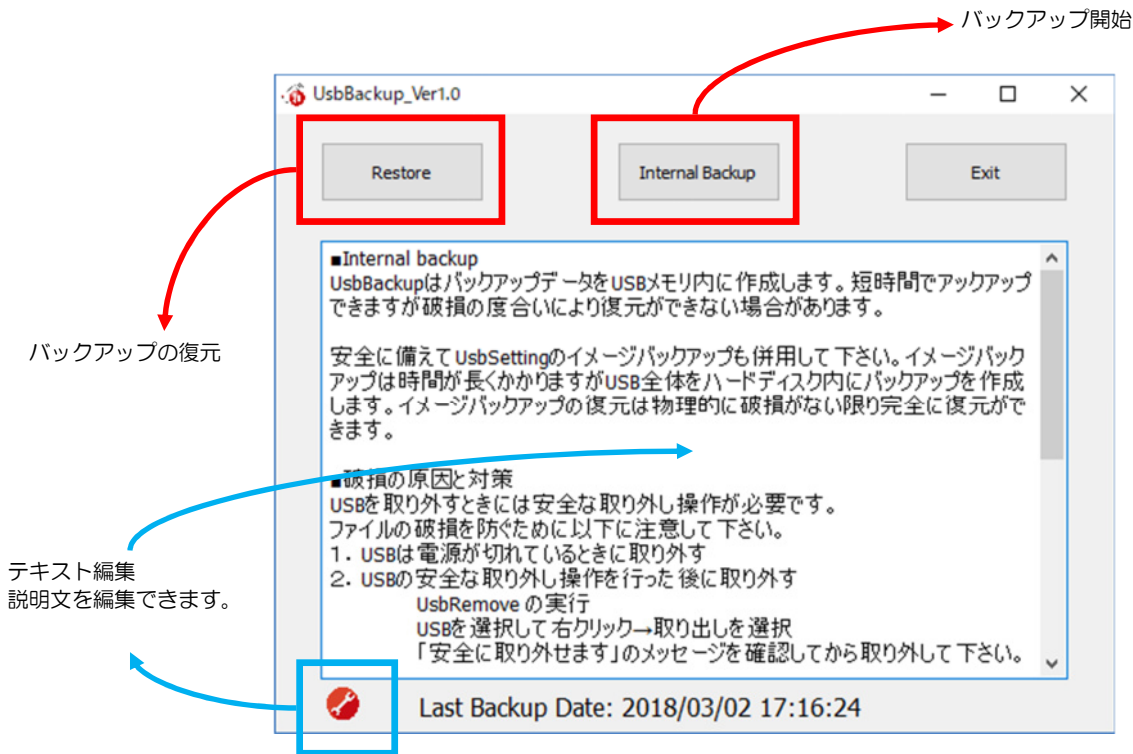
内部バックアップで破損に備える

.....
TOOLフォルダ/UsbBackup.exe



バックアップや復元を開始する場合、USBメモリのファイルは全て閉じて下さい。処理中はUSBにアクセスしないでください。

1. TOOLフォルダ内にあるUsbBackupをダブルクリックで実行します。
2. “Internal Backup” ボタンをクリックしてバックアップを開始します。
3. “Backup Completed” (バックアップ完了)の表示を待ちます。



30

保護領域にある全てのコンテンツをバックアップします。

- | | |
|-------|--|
| メリット | : バックアップ時間が短い |
| デメリット | : USBの全ファイルが読めなくなる全体の破損（インデックス領域破損の場合）
の場合は復元ができません。設定情報や非保護領域はバックアップされません。 |
| 保存場所 | : USBメモリ内非表示フォルダ “.resetフォルダ” |

フォーマットを行うと、.resetフォルダが消えてしまうのでご注意ください。

UsbBackupで復元できない場合はイメージバックアップで復元ができます。

イメージバックアップはUsbBackupに比べバックアップに時間がかかります。初回のみ実行し

UsbBackupはデータの修正があった場合に実行して下さい。

バックアップデータは圧縮されますが、USBメモリ内に保存されますので空き容量が必要です。



バックアップ／トラブルシューティング

SetupフォルダまたはUsbSettingが見つからない

原因：保護領域を表示している。

解決：UsbSettingの実行は、UsbStartを実行する前に行います。

UsbStartを実行されるとコンテンツ領域に切り替わるのでsetupフォルダはありません。自動起動のUsbQuickStartをセットアップしていると、USBが挿入されると自動でUsbStartを実行します。この場合、TOOLフォルダがある場合は UsbBackを実行します。

バックアップデータが無い（見つからない）

原因：ドキュメントフォルダ/UsbSettingフォルダに保存されています。

解決：ドキュメントフォルダは通常Cドライブですが設定で他のドライブに設定された場合はどのドライブを探して下さい。

C:\Users\%(ログインID名)\Documents\Usbsetting\%xxxxxxxxx.ubr

拡張子.ubrが無い場合は最後に行ったバックアップが途中で中断されています。

バックアップファイルは他の場所へ移動できますが、復元するときには元の位置に戻して下さい。

バックアップが失敗する

原因：①USBメモリのファイル破損②USBメモリの物理的な破損③UsbSettingのバージョン問題またはお使いのセキュリティソフトでUsbSettingの動作が止められている。

解決：①CHKDSKを行い修復を試みる。軽微な場合は修復できます②新しいUSBメモリに交換してコンテンツの入れ直しが必要です。一部分の破損の場合は破損クラスタ検査などで修復できる事もありますがメーカー修理が必要です。③UsbSettingのバージョンアップ/入れ直しやセキュリティソフト側の設定（誤検知登録/復元操作など）

バックアップ処理に長く時間がかかる

原因：①バックアップ処理が途中で止まっている②パソコンが遅くなっている。③32G/64Gなど大容量USBの場合

解決：①バックアップが途中で止まっていないか、保存先のデータファイルのサイズを確認して下さい。方法は以下の通りです。

①ー1. ドキュメントフォルダを開きUsbSettingフォルダを開きます。

①ー2. バックアップデータ(.ubr)を確認してファイルサイズが増えているか確認して下さい。

②バックアップはバックアップデータのイメージデータ全てを保存先にコピーします。USBメモリと同じ大きさのイメージファイルを圧縮します。パソコンによって速度差が大きくなります。HDDよりもSSDの方が処理は早くなります。

③記憶容量が大きなUSBメモリ（32GB/64GB）は2～4時間程度のバックアップ時間がかかります。バックアップ中にパソコンがシャットダウンやWindowsUPDATEが入るとバックアップが失敗します。失敗した場合はもう一度バックアップを実行して下さい。

バックアップ中、USBメモリへアクセスをしなければ、ホームページ閲覧、メール受信など他のパソコン操作は可能です。

イメージバックアップの復元(リストア処理)

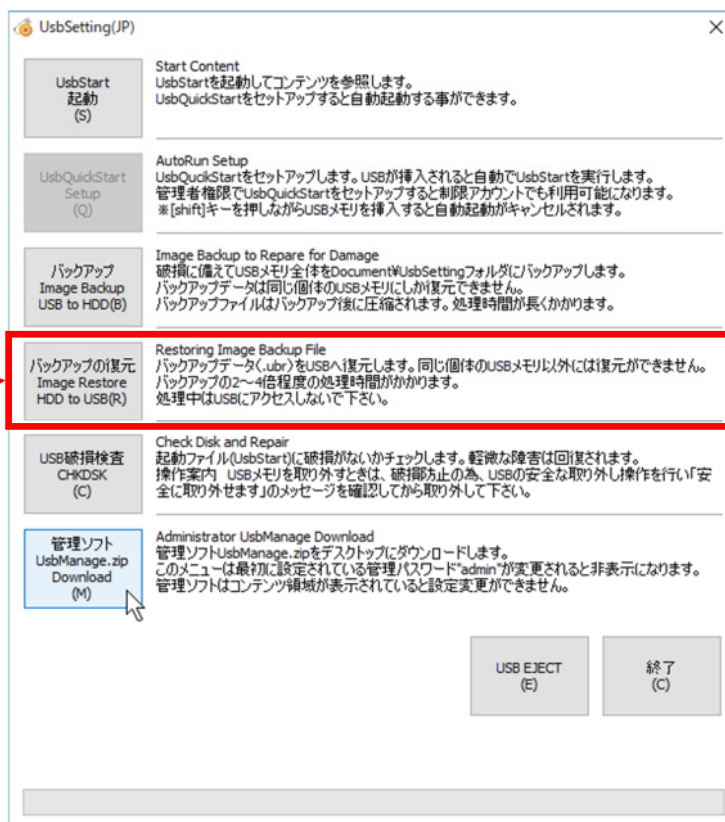


ファイルの破損などでバックアップデータを復元する場合は以下の方法で行います。

1. SETUPフォルダ内にあるUsbSettingを実行します。
2. メニューの“バックアップの復元/Image Restore”を選択します。
3. 復元処理が終わるまでUSBにアクセスせずお待ちください。

UsbSetting.exe

復元



バックアップの復元処理

復元はバックアップした同じ個体のUSBメモリにバックアップデータを戻します。同じタイプのUSBで複数のバックアップを行っても個別にバックアップデータが作られています。同じ個体のバックアップデータが使われますので選択する必要はありません。

USBメモリはメディアの特性で読み込みは速いのですが書き込みが遅いので復元処理の方が時間がかかります。復元にかかる時間は暗号化圧縮を解凍する時間と書き込みを行う時間になります。書き込み時間は同じですが速いパソコンでは解凍時間が短いので合計の復元時間は短くなります。

バックアップを行った同じ個体にしか戻せません

バックアップデータはUSBの個体単位で管理されています。強制的に書き込んでも動きませんので同じタイプ、同じ容量でも個体が違っていると復元はできません。

バックアップデータの復元

バックアップファイルは、圧縮して保存されています。復元するとき解凍されますのでCドライブには一時的にUSBと同じ空き容量が必要です。空き容量がないとエラーになります。

バックアップデータの保存場所

ドキュメントフォルダのUsbSettingフォルダ内に拡張子(.ubr)で保存されます。

C:\Users¥(アカウント名)\Documents\UsbSetting



バックアップの復元／トラブルシューティング

イメージバックアップで復元できない

原因：①バックアップデータとUSBメモリの個体番号が違う②復元するバックアップデータが規定のフォルダにない③保護領域を表示している。④USBが物理的に破損している。

解決：①バックアップを行った同じ個体のUSBメモリに復元してください。他の個体には復元できません。

②バックアップデータは次の場所にあります。ドキュメントフォルダ／UsbSettingフォルダ 拡張子（.ubr）のファイルがある事を確認して下さい。

③UsbStartを実行せずに非保護領域の状態で復元をしてください。

④復元先のUSBメモリが物理的に破損している場合は復元ができません。この場合はメーカー修理を依頼してください。お問合せ先 support@abroad-sys.com

複数のバックアップデータがある

原因：違う個体のUSBメモリのバックアップを行った。問題はありません。

解決：バックアップを行った同じUSBメモリへ復元されます。1台のパソコンで複数のバックアップ管理ができます。

復元時間が長すぎる

処理時間はバックアップした時間の2～4倍程度かかります。4GBのUSBメモリの場合は40～60分程度の時間がかかります。64GBの復元は2～4時間時間がかかります。保存コンテンツが少ない場合は復元時間は短くなります。数時間あっても処理が終わらない場合は、復元するUSBメモリの物理的な破損が考えられます。support@abroad-sys.com にご相談下さい。

処理時間は 圧縮ファイルの解凍時間＋USBメモリへ書き込み時間が必要です。

圧縮ファイルの解凍は保存されているコンテンツ量やパソコンの処理速度に影響します。書き込み時間はUSB2.0タイプのUSBメモリの場合はバックアップの4倍程度、USB3.0の場合は2倍程度の時間がかかります。

USB2.0 書き込み速度 約4Mbps

USB3.0 書き込み速度 約40Mbps

最初のバックアップデータに戻せない

原因：最後にバックアップしたデータのみが保存されます。毎回、1つ前のバックアップデータに上書きされますので世代管理はできません。

解決：ドキュメントフォルダ／UsbSettingフォルダにバックアップは作られます。

世代管理を行いたい場合は、毎回常に同じ名前の上書きされますので、次のバックアップ前に他へコピーしてください。復元時にもとの位置に戻せば復元できます。

UsbBackup／インターナル（内部）バックアップ

“Internal Backup” ボタンが表示されない → ハイパープラス以外で実行すると表示されません。

復元(Restore)ができない → バックアップデータが無い、バックアップデータが破損している、フォーマットやUSBの管理領域破損でバックアップ保存先の“.reset” フォルダが消えている。この場合は“イメージバックアップの復元”を行って下さい。



チェックディスク 非保護領域の破損検査



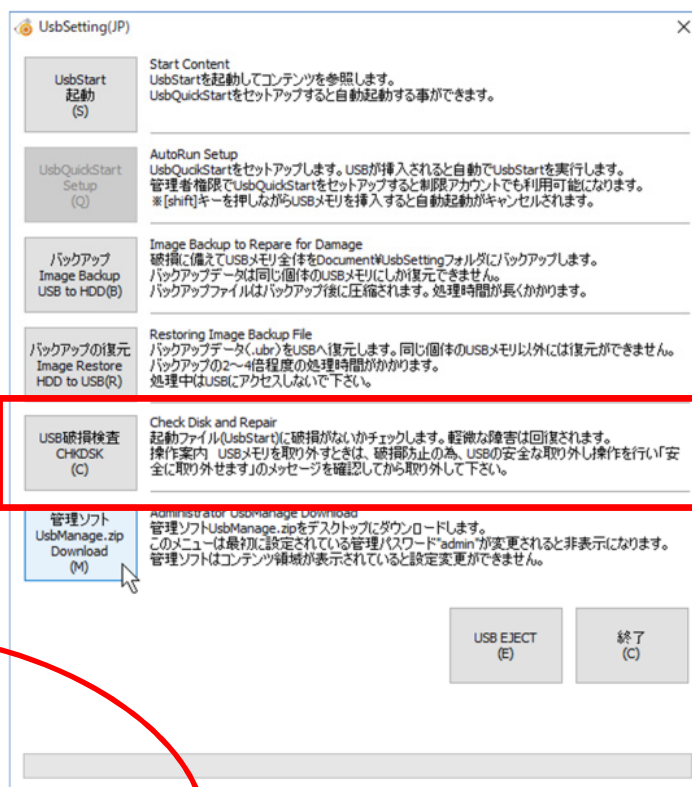
UsbStartを含むデータ領域の破損検査を行います。

破損検査は2つの起動方法があります。

利用者が検査する場合 → UsbSetting「USB破損検査」メニュー

管理者が検査する場合 → 管理ソフトUsbManageのパスワード画面、右下

UsbSetting.exe



破損検査

破損検査は起動ドライブ（非保護領域）のUsbStartを含むUSBのシステムファイルの検査、修復機能です。

コンテンツ側（保護領域）の破損検査はできません。

保護領域を含む全体の普及はバックアップ/バックアップの復元で行います。

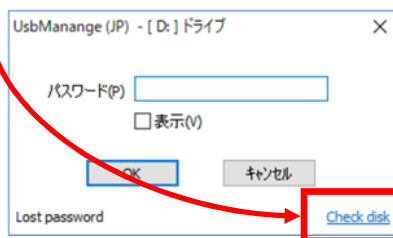
破損する原因

USBへファイル書き込みを行った場合、USBの安全な取り外しの処理が完全に終了していないときに、USBを抜くとインデックスデータが不整合になり、設定コピーやUsbStartの実行ができない場合があります。

書き込みを行っていない場合でもWindowsが復元情報の書き込みなどを行っています。軽微な破損はチェックディスク機能で回復できます。



管理ソフト
UsbSetting.exe



非保護側にファイルが追加できない場合に検査を行います。追加できないケースは、空き容量が無い（空き容量ゼロ）場合とファイルの一部が破損している場合です。空き容量が無い場合は、追加してから前回データが削除される為、上書き保存もできません。

CHKDSK（チェックディスク）

設定コピー機能やセキュリティソフトの誤検知でUsbStartが移動されるとタイミングによりファイル位置を管理するインデックスデータが破損する事があります。

CHKDSKでは破損検査を行い、実際のファイル位置からインデックスを作り直します。

※CHKDSKは保護領域（保存したコンテンツ）の修復機能はありません。

UsbStart等のUSBのシステムファイル検査に有効です。

管理ソフト UsbManageの使い方

簡易設定

35

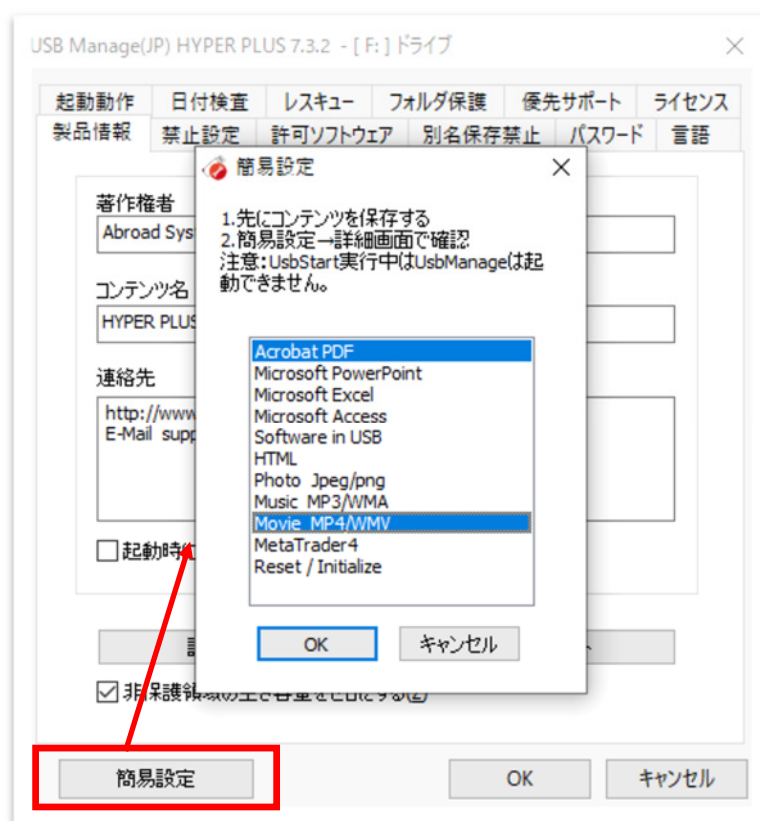


UsbManagae／簡易設定

はじめての設定／簡易設定画面

簡易設定は、保存するコンテンツ種類を選ぶだけで基本的な設定ができる機能です。コンテンツは複数選択できます。コンテンツ種類、管理パスワード、管理者メール登録の3つを設定します。設定後は詳細画面を参照し著作権情報や簡易設定で設定されない項目を確認します。

- はじめて管理ソフトを実行した場合は「簡易設定」画面が表示されます。
- 詳細画面で著作権情報や利用期限、利用回数など追加の設定を行います。
- Reset/initializeを選択すると既に設定されている禁止項目がリセットされます。



注意事項

コンテンツを保存してから設定を行ってください。設定を行うとコンテンツの追加ができなくなります。

保護領域を表示していると設定できません。UsbStartを実行する前に設定して下さい。

- 管理パスワードが未設定の場合は最初に「簡易設定」画面が表示されます。
- 保存するコンテンツ種類を選択します。



UsbManagae／簡易設定

はじめての設定／簡易設定画面

- 管理パスワードは設定変更に必要です。
- 管理者メールを登録するとパスワードを忘れた場合、メールで設定情報を受け取れます。
- 設定変更をするときに管理パスワードが必要です。

USB Manage(JP) HYPER PLUS 7.3.2 - [F:]ドライブ

製品情報 禁止設定 許可ソフトウェア 別名保存禁止 パワロ... 言語
起動動 管理パスワード、メールアドレス登録

新しいパスワードを設定して下さい。

パスワード(P)

再入力(C)

☐ 表示(V)

パスワードを忘れた時のためにヒントを設定して下さい。

ヒント(H)

管理者メールアドレス

テスト送信(T)

※管理パスワードを忘れた場合に登録されたメールにお知らせします。
※カンマ区切りで複数入力可能

OK キャンセル

簡易設定 OK キャンセル

- 管理パスワードを設定します。
- 表示チェックボックス：見ながら管理パスワードを設定します。
- ヒント：管理パスワードのヒントを入力します。(任意設定)
- 管理者メールアドレス：パスワードを忘れた場合に登録されているメールアドレスに設定情報送信します。
- テスト送信ボタン：設定されたメールアドレスに設定情報が届くかどうかテストします

簡易設定は、詳細画面に推奨される初期設定を行う機能です。管理パスワードを設定すると自動表示されません。

再設定を行う場合は「簡易設定」ボタンをクリックします。

簡易設定では推奨値が設定されます。

基本的な設定は簡易設定で設定ができます。

管理パスワードが変更されていない場合は簡易設定が自動的に表示されます。



簡易設定ではできない項目

著作権者の登録は簡易設定では設定されません

著作権者／コンテンツ名／連絡を「製品情報」タブで設定してください。表示／非表示は設定できます。製品情報は非表示でも登録は必要です。

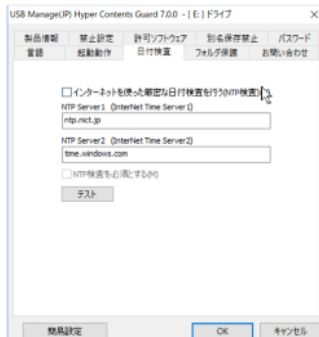
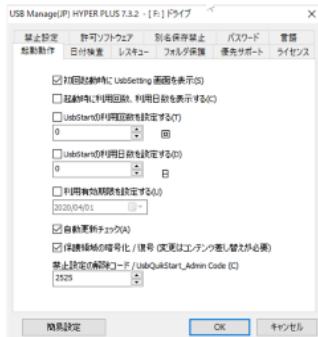


著作権情報、コンテンツ名の登録を「製品情報」タブで設定して下さい。

製品情報はライセンス設定（利用台数制限）を設定するは必須です。また、USBのメーカーサポートを受ける際に必要です。非表示にする事もできますので、できるだけ登録するようにして下さい。

利用制限の設定

利用回数、利用日数、有効期限の設定は簡易設定では設定されていません。これらの設定は「起動設定」タブで行います。また、日付チェックを行う場合は、「日付検査」タブで厳密性を設定します。

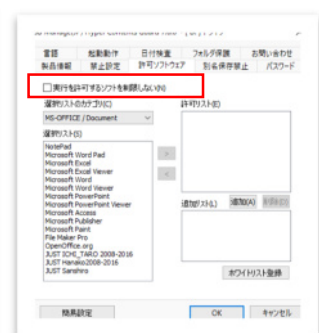


利用日数、利用回数、指定期日の制限を設定できます。

日付チェックも柔軟に設定
インターネットを使った日付の厳密
チェック、オフラインでの柔軟性を持た
せた設定

コピー許可フォルダ／利用ソフトのアクセス制限解除

- ・コピー禁止はUSB全体に適用されます。コピー許可フォルダは、渡したい説明書などを保存するフォルダです。コピー許可フォルダを使うとコピー禁止中でも指定されたフォルダにあるファイルは全てコピー禁止が解除されます。この設定は簡易設定ではできません。
- ・USBをアクセスするソフトを設定する必要があります。これによりコピーを目的にしたソフトを排除しています。アクセス制限を解除するには「実行を許可するソフトを制限しない」をチェックします。



■コピー許可フォルダ
コピーを許可するフォルダの設定

■利用ソフトを制限しない
許可ソフトの登録を解除する。

管理ソフト UsbManageの使い方

詳細設定



同じ設定のUSBを作る

設定コピー機能

製品情報タブにある「設定コピー」ボタンをクリックすると設定情報が複製できます。

準備と確認

1. 設定情報の複製のみで保護領域にあるコンテンツはコピーされません。先に全てのUSBメモリにコンテンツをコピーして下さい。
2. 管理パスワードチェック
コピー先の管理パスワードが違っているとコピーができません。コピーができるのは、2本が同じ管理パスワードまたはコピー先が” admin” になっている場合です。

手順

1. マスタUSBにあたるコピー元のUSBを挿入してUsbManageを実行します。管理パスワードを入力して「製品情報」タブを開きます。
2. 設定をコピーするコピー先USBメモリをパソコンに挿入して2本差しの状態にします。
3. 起動設定タブにある「設定コピー」をクリックします。OKをクリックするとコピー元からコピー先へ設定情報がコピーされます。

連続した設定コピー

コピーが終わるとコピー先USBメモリに対して安全な取り外し処理が行われます。そのままコピー先USBを抜いて、次の新しいUSBメモリを挿入してからOKボタンをクリックします。この操作を繰り返します。

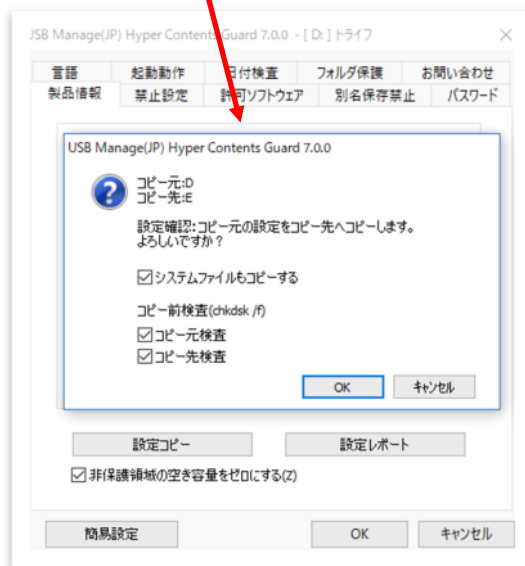
システムファイルをコピーする

コピー元のシステムファイルをコピーすると同じバージョンに統一できます。非保護領域側にPDFなどのファイルがある場合は、それらもコピーされます。

コピー先検査、コピー元検査

コピー先USBメモリとコピー元USBメモリに対してチェックディスクを実行します。書き込んだUSBメモリに対して安全な取り外しがされなかった場合、軽微な破損が発生しファイルの書き込みが正しくできないことがあります。これを補正します。(Ver7.1以降は自動検査になり選択はできません。)

※コピー先のUSBは、USBの延長ケーブルを使うと作業がやりやすく、間違いも軽減できます。



設定コピーができないケース

- コピー先が” admin” 以外のUSBメモリ
- コピー先の管理パスワードがコピー元と違う場合は設定コピーはできません。
- バージョンが違う場合
※バージョン以外の少数点以下のリビジョン番号が違う場合は設定コピーができます。



UsbManage／製品情報

.....
 著作権情報の登録／設定コピー／設定レポート

**製品情報はライセンス
 （利用台数制限）機能を使
 う場合には必ず設定が
 必要です。P.58**

製品情報の登録

著作権者／コンテンツ名／連絡先を登録します。

「起動時に製品情報を表示する」のチェックボックスをONにします。製品情報の表示は任意ですが、USBメモリのメーカーサポートを受ける際に必要な情報です。製品情報は必ず登録して下さい。

非保護領域の空き容量を ゼロにする。

ウィルス感染やUSBメモリでのデータ持ち出しが懸念する場合は、非保護領域の空き容量をゼロにします。ファイルを追加するときは一時的にOFFにしてファイル追加を行い、もう一度ONに戻します。

利用者がUSBメモリを利用するときに表示されます。

「起動時に製品情報を表示する」にチェックを入れるとUsbStart実行時に表示されます。表示をしない場合でも製品情報の登録は行って下さい。

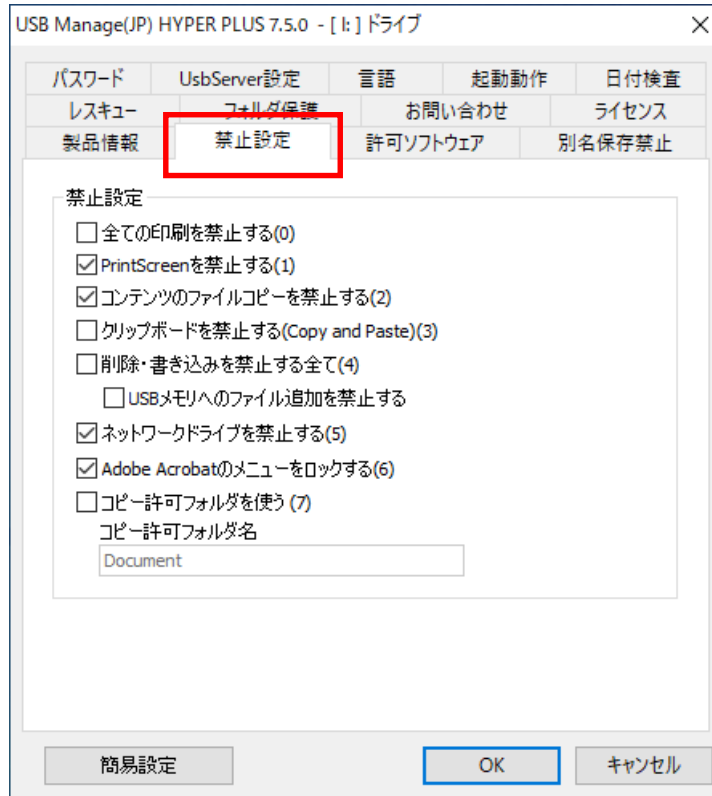


UsbStart



UsbManage／禁止設定

コピー禁止の設定



禁止設定

禁止事項のチェックボックスにチェックを入れると、その動作が禁止されます。利用していたファイルを閉じてUSBを取り外すと禁止設定は解除されます。

必要最低限の禁止を推奨

禁止動作を不要に行うとパソコンが使いずらくなります。
USB利用中全ての操作に影響します。禁止は必要最低限を設定して下さい。

例えば、クリップボードを禁止すると全ての操作でコピー＆ペーストの操作ができなくなります。動画閲覧でクリップボードの禁止や印刷禁止は不要です。

●全ての印刷を禁止する・・・USBメモリ利用中は印刷を禁止します。USBメモリ以外のファイルの印刷も禁止されますのでご注意ください。動画など印刷禁止が不要な場合はOFFにします。PDFはPDFセキュリティで印刷禁止を設定できますのでコンテンツ別に印刷禁止を設定して下さい。USBメモリの印刷禁止はコンテンツ単位で印刷禁止を制御できません。

●プリントスクリーンを禁止する・・・画面キャプチャー機能を停止にします。画面キャプチャーソフトも禁止した場合は、別名保存の禁止設定でImageを保存禁止にして下さい。

●コンテンツのファイルコピーを禁止する・・・USB→HDDなどのファイルコピーを禁止します。ハイパープラスではHDD→USBは許可されています。禁止したい場合は書き込みを禁止します。

●クリップボードを禁止する・・・コピー＆ペースト操作をできない状態にします。

●削除・書き込みを禁止する全て・・・USBメモリへの書き込みを禁止します。

●USBメモリへのファイル追加を禁止する・・・USB内で実行するソフトの書き込みを許可して、USBヘドラッグ＆ドロップ操作でのファイル追加を禁止します。

●ネットワークドライブを禁止する・・・USBを共有設定してコピーされる事を禁止します。常にONにしてください。OFFにするとネットワーク経由でのコピーが許可されます。

※本USBメモリはスタンドアロン用の製品です。ネットワーク公開するとネットワーク先のパソコンでのコピー防止には対応していません。フォルダ保護機能と併用するとネットワーク公開してコンテンツを守る事ができる場合があります。

●Adobe Acrobatのメニューをロックする・・・PDFコンテンツの場合はONにしてください。

●コピー許可フォルダ・・・ファイルコピーの禁止を行っている状態でも、指定フォルダのコピーは許可できます。初期値”Document” 配布したいコンテンツを保存します。この機能はOFFにできます。



UsbManage／許可ソフトウェア

許可したソフトウェア以外のアクセスを禁止します。

重要：この設定を行わないとUSBのファイルを開く事ができません



USBメモリへアクセスするソフトを登録します。この機能でダビングを目的としたソフトのアクセスを排除します。

USBから実行するソフトは設定不要

USBメモリ内から実行するソフトは許可ソフトとして自動許可されます。登録の必要はありません。許可リストに登録するのは、USB以外から実行されるソフトウェアです。

追加リスト

選択リストにないソフトやオリジナルのソフトは、追加リストに設定します。実行形式(.exe)を登録して下さい。

●「**実行を許可するソフトを制限しない**」・・・全てのソフトからのアクセスを許可します。(非推奨)
この機能はハイパープラスのみの機能です。利用ソフトが指定できない場合にONにします。

- 製品リストのカテゴリ・・・コンテンツ種類を選んで選択リストに表示します。
- 選択リスト・・・予め登録してあるソフトウェアの一覧を表示します。
- 許可リスト・・・現在許可されているソフトウェア
- [>]・・・追加ボタン、選択リストを選択してクリックすると許可リストに追加されます。
- [<]・・・削除ボタン、許可リストを選択してクリックすると選択リストに戻ります。
- 追加リスト・・・選択リストにないソフトを登録します。拡張子.exeのみ登録できます。
- ホワイリスト登録・・・許可ソフトが大量にある場合に設定します。



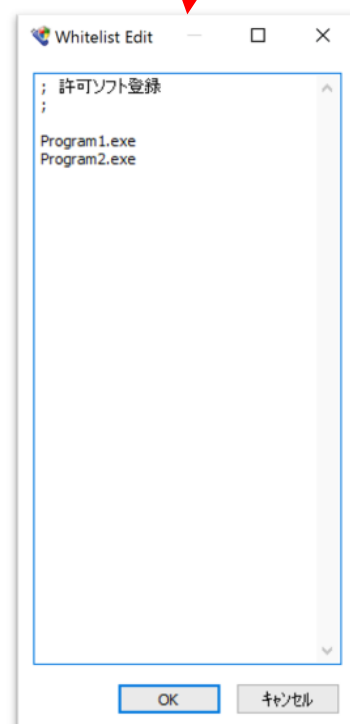
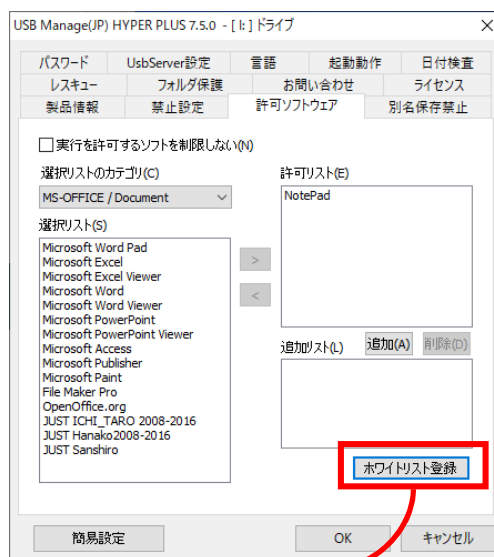
UsbManage／ホワイトリスト登録

許可ソフトウェア登録

ホワイトリストの登録

許可ソフトの登録数には制限があります。登録できる数が設定内容により変化しますが10～20程度が限界です。

「実行を許可するソフトを制限しない」機能を使うと全てのソフトのアクセスを許してしまいダビングを目的としたソフトのアクセスも許してしまいます。これを防ぐための沢山の許可ソフトを登録できる機能がホワイトリスト登録です。



ホワイトリスト

登録するのは、拡張子が.exeのみです。DLLや各スクリプトファイルは、本体の実行形式(.exe)からアクセスされるので登録は必要はありません。WhiteListの登録文字数制限は2000バイトです。先頭文字が半角のセミicolon; と半角//はコメント行と見なします。

この機能は特殊なソフトウェアの起動で関連プログラムが複数あり、どのソフトがUSBメモリへアクセスするのか不明な場合に設定します。

許可リストとしてユーザーソフトウェアなどのプロセス名称(exe名称)を登録します。追加リストとの違いは、選択リストや追加リストはユーザーにアクセスできないUSBメモリの管理領域に保存されますのでフォーマットなどの影響を受けません。WhiteListで登録された許可プロセスは設定ファイルとして非保護領域内に保存されます。非表示ファイルで保存されていますので利用者からは見ることはできませんがフォーマットなどの操作を行うと削除される可能性があります。



システム設定されている禁止プロセスの解除

.....
 バッチファイルの実行、タスクマネジャーを許可する、画面キャプチャーソフトの利用を許可する

■システムで禁止されているプロセス

本USBメモリは固定で以下のプロセスが禁止されています。**許可ソフトウェア設定で明示的に許可すると**USBシステムの禁止プロセスが解除できます。

●禁止されているプロセス

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| ・タスクマネジャー禁止 | [Ctrl]+[Alt]+[DEL]キー禁止 |
| ・画面キャプチャーソフト禁止 | (SnippingTool、Screenpresso) |
| ・ストリーミング配信禁止 | (OBS Studioなど) |
| ・バッチファイルの実行 | (コマンドプロンプト) |
| ・ターミナル、システムコマンド | (PowerShell、pwsh) |

■禁止プロセスの解除

1. USBメモリの本体バージョンが7.8以上になっている事を確認
<https://www.abroad-sys.com/CG/support/>
2. 管理ソフトUsbManageの「許可ソフトウェア」タブを開く
 2-1. 選択リストカテゴリを”USB System Protection “を選択
 2-2. 許可するプロセスを選択リストに追加する。
 (“実行を許可するソフトを制限しない “がONの場合は一時的に解除する。)

対応バージョン

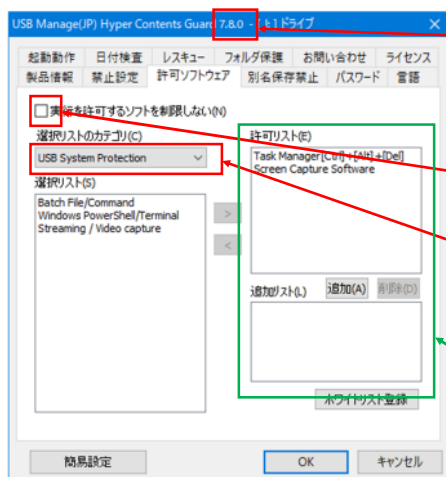
USBメモリ本体バージョンがVer7.8以上になっている必要があります。

最新版ではない場合は、更新ソフトまたはオンライン更新でのバージョンアップが必要です。

■利用シーン

- ・画面のスクリーンショットを取りたい。
- ・アプリでタスクマネジャー操作が必要
- ・操作を録画して動画マニュアルを作成する必要がある。
- ・バッチファイルの実行が必要

45



USB本体バージョンはVer7. 8以上 (Windows11 24H2対応なので全てのUSBでバージョンアップ推奨)

チェックが付いている場合は設定ができないので一時的に外す。最終的にONでも影響はありません。

選択リストのカテゴリ “USB System Protection” を選択

許可するプロセスを許可リストまたは追加リストに設定する保護が弱くなる為、許可は必要最低限にします。

■保護のリスク

禁止プロセスを許可する場合、保護が弱くなります。他の方法も検討して下さい。

- ・画面キャプチャー、配信許可は画面情報がリスクにならない場合は許可して下さい。
- ・バッチファイルは、Windows標準のアプリの “iexpress “や他ソフトでEXE化する事ができます。ただし、セキュリティソフトで誤検知されるケースがあるためデジタル署名（コードサイン証明）を付ける方が望ましい。

・禁止プロセスの解除は一時的な利用が望ましいので特に必要がない場合は設定を行わないでください。

・タスクマネジャーでUSBの保護プロセスを解除した場合、フリーズやUSBの認識ができなくなりPCの再起動が必要になります。

● “実行を許可するソフトを制限しない “の解除

設定で “実行を許可するソフトを制限しない “がONの場合でも上記プロセスは禁止されています。 “実行を許可するソフトを制限しない “を設定している場合、選択リストの追加ができない為、一時的にチェックを外します。設定後にチェックを戻して下さい

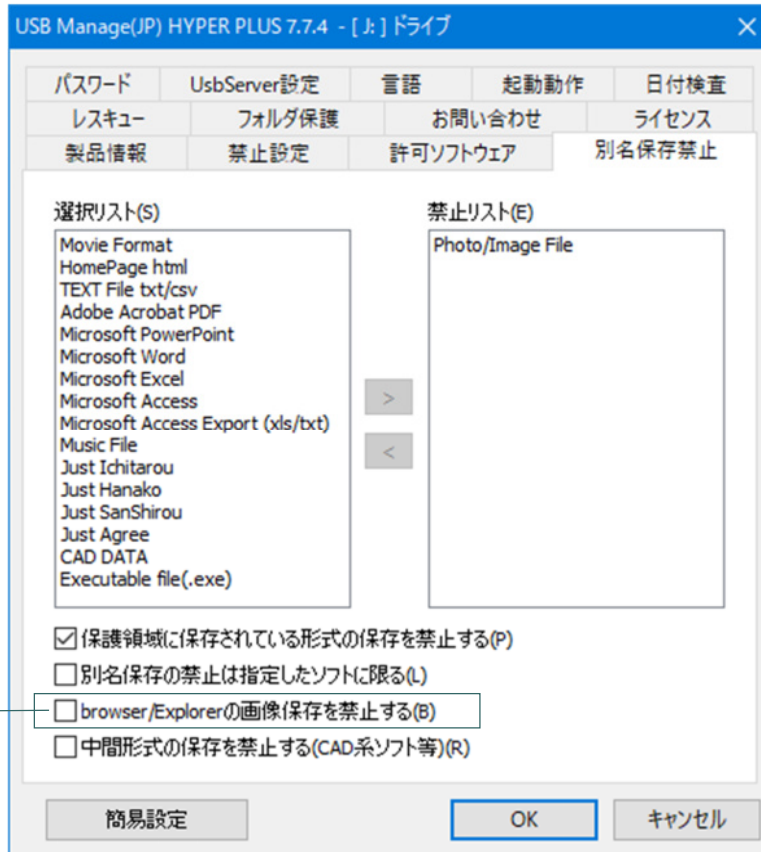
●USBのバージョンアップ

UsbバージョンVer7.8はWindows11 24h2対応と上記の禁止プロセス解除対応になります。古いUSBにVer7.8以降のUsbStart.exeのみ上書き更新するとWindows11 24H2で動作しますが上記の設定を行う場合は更新ソフトまたは自動更新で正式にバージョンアップが必要です。
<https://www.abroad-sys.com/CG/support/>



UsbManage／別名保存禁止

.....



●ブラウザ対策
コンテンツがHTML
の場合で画像の保存
禁止する場合に
チェックを入れます。
※禁止リストに
" Photo/Image File"
がないと選択できま
せん。

※別名保存の禁止で
画像を選択した場合
でも、特定のブラウ
ザで画像をドラッ
グすると保存できる
ケースがあります。
。このスイッチは、
それに対応するもの
です。

各ソフトにある、別名保存の
機能を禁止します。

この機能は指定された形式の
保存を全面的に禁止します。

USBと関係のないデータファ
イルの保存も禁止されますの
で設定にはご注意ください。

別名保存の設定ヒント

動画：“Movie Format” を
設定すると、動画キャプ
チャソフトを使った画像抜
き取りにも対応できます。

PDF：すべてのソフトでPDF
の保存が禁止されます。PDF
は印刷メニューで生成でき
るのでこの機能は有効です。
ただし、メール添付でPDFがあ
る場合も保存ができませんの
でエラーになります。USBを
抜いてから再受信するように
ご案内ください。

- 「実行を許可するソフトを制限しない」・・・全てのソフトからのアクセスを許可します。（非推奨）
- 製品リストのカテゴリ・・・コンテンツ種類を選んで選択リストに表示します。
- 選択リスト・・・予め登録してあるファイル種類の一覧が表示されています。
- 禁止リスト・・・現在設定されているファイル形式のリストです
- [>]・・・追加ボタン、選択リストを選択してクリックすると禁止リストに追加されます。
- [<]・・・削除ボタン、禁止リストを選択してクリックすると選択リストに戻ります。

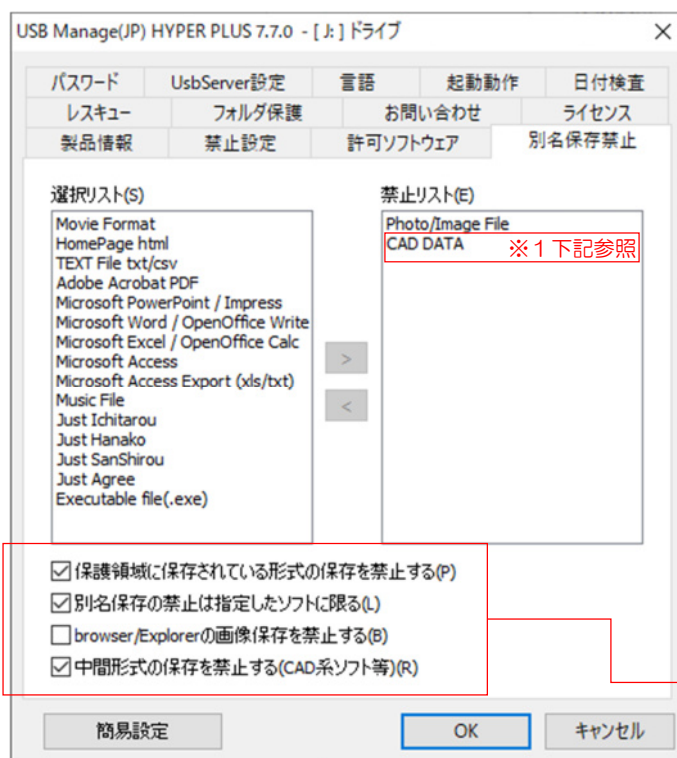
■保護領域に保存されている形式の保存を禁止する

別名保存を禁止する場合は、基本的には禁止リストに登録して下さい。この指定はファイル追加を許可した場合に、事前にファイル形式の指定ができない場合に利用されます。
USBメモリに保存されている形式をデスクトップなど他ドライブへの保存が禁止されます。USBメモリへの保存は「禁止設定」タブの指定に従います。

USBメモリに保存されている形式を認識するのはフォルダ表示が必要です。表示されていないフォルダにあるファイル形式は禁止になりません。**フォルダ内を表示せずに禁止する場合は「保護フォルダ」で指定されているフォルダに保存して下さい**(Ver7.7.3～)。
保護フォルダは指定されたフォルダを見えなくする機能です。このフォルダに保存されているファイル形式は直ぐに保存禁止形式として認識されます。
詳しくはP.56「フォルダ保護」の解説もご参照下さい。



別名保存禁止が働かない



■別名保存スイッチのデメリット パソコン操作全体への影響する

別名保存の禁止は、デスクトップなどへの保存を禁止しますが、USBメモリ以外のファイル形式にも影響します。

例えば、PDFを禁止した場合はPDFファイルの保存を一切禁止されます。メール添付でPDFがあった場合にも保存が禁止されてしまいます。これを防ぐには、許可ソフトの設定で **USBへアクセスするソフトを指定する事です**。又は、USB付属のクリックビューなど別名保存や印刷がないソフトを使うなどを推奨しています。

許可ソフトの設定がされていない場合や禁止リスト項目の設定により選択できない項目があります。

47

・・・選択リストにない場合に、該当のファイル形式をUSBメモリの適当なフォルダに入れてONにします。

□別名保存の禁止は指定したソフトに限る・・・許可ソフトで個別設定した場合に選択できます。PDFの場合（※1）は、許可ソフトにAdobeAcrobatを設定し、このチェックボックスをONにするとAdobeAcrobatのみPDF保存を禁止できます。

□Browser/Explorerの画像保存を禁止する（UsbManage7.5以降）

コンテンツがHTMLで画像保存を禁止する場合はチェックを入れます。許可ソフトにブラウザが選択されている場合で且つ、画像の保存禁止が選択されている場合に指定ができます。

□中間形式の保存を禁止する（CAD系ソフト等）（UsbManage7.7以降）

一部のCAD系ソフトでは、一旦中間形式のデータを保存しリネームする方法がとられています。中間形式の保存を禁止するとファイルが開けなくなる為、禁止指定形式への名前変更を禁止します。この動きは、主にCADや動画キャプチャソフトで使われている場合があります。

このスイッチを選択される場合は許可ソフトの登録を行って下さい。許可ソフトを登録されていない場合は保護が弱くなります。また、登録時に警告メッセージが表示されます。

※1）別名保存で“CAD DATA”を禁止

別名保存で“CAD DATA”を選択した場合は以下の形式の保存が禁止されます。

pdf/jwww/jwvc/dwg/dwfp/dxf/skp/stp/ste/step/p21/sfc/sxf/igs/iges

ide/iam/ipn/ipn/idw/x_t/xmt_txt/x_b/xmt_bin/iges/igs/sat/smt/icad/zen

（次ページにつづく）

別名保存の禁止(CAD形式)

■CAD で使われているデータ形式

データをUSBメモリ内への保存はできるが、デスクトップなど他のドライブへ保存を禁止するには「別名保存の禁止」タブで行います。別名保存の禁止は、指定形式を他ドライブへの保存を禁止する機能ですが、USBメモリ内のファイルのみを対象としていません。つまり、保存を禁止した形式はUSBを利用中に全てのソフトで保存ができなくなります。例えば、PDFの別名保存を禁止した場合、メール添付にPDFがある受信が失敗します。メールの場合は、正常に受信がされない場合は、USBを取り外してから再受信する必要があります。

CADで使われるデータ形式は、利用しているソフトの独自形式が多く互換性がありません。この為、データを保存する場合に、以下のデータ形式が保存される場合があります。

他のソフトに受け渡すときに使われるCADデータの形式

<2Dデータの受け渡しで使われる形式>

DXF (.dxf) 数多くのCADに対応している2D CADの一般的な中間ファイル
バージョンにより一部3Dデータもサポートされる。

DWG (.dwg) AutoCAD形式 2D

<3Dデータの受け渡しで使われる形式>

Parasolid (.x_t(.xmt_txt)/.x_b(.xmt_bin)) パラソリッド

ソリッド形式の3Dデータで利用される。互換性が高い

.x_t . . . テキストスクリプトで記述

.x_b . . . バイナリスクリプトで記述(ソフト生成)

IGES(.iges/.igs) アイジェス 日本自動車工業会のJAMA-IS規格 の3D CAD形式。主にサーフェス形式

STEP(.step/.stp) ステップ ISO 10303規定の2D/3D形式、ソリッド形式

ソリッド形式は立体物の材質や密度情報も設定できる3D形式 Parasolid形式、STEP形式

サーフェス形式は面で構成される3D形式 IGES形式

CAD形式の別名保存を禁止する

別名保存の禁止設定リストで、“CAD DATA”を設定した場合、以下の形式の保存ができなくなります。

pdf/jww/jwc/dwg/dwf/dxf/skp/stp/ste/step/p21/sfc/sxf/igs/iges

ide/iam/ipn/ipn/idw/x_t/xmt_txt/x_b/xmt_bin/iges/igs/sat/smt/icad/zen

※この形式以外を禁止する場合は、USBの保護領域の適当なフォルダに該当形式を保存して、“保護領域に保存されている形式の別名保存を禁止する”（前ページ参照）をONにします。

中間形式の保存を禁止

標準的な別名保存の禁止では禁止にできないソフトがあります。この場合、一旦独自の中間形式で保存して保存が正常終了したときに、目的の形式を生成またはリネームで保存されます。ソフトの中間形式の保存を禁止するとファイルが開けなくなる場合があります。中間形式の生成が許可されています。**中間形式の保存を禁止**が選択されている場合は、目的の形式を生成またはリネームで保存する動作を禁止します。



UsbManage／パスワード

.....
管理パスワード／ユーザーパスワード 2つのパスワード設定

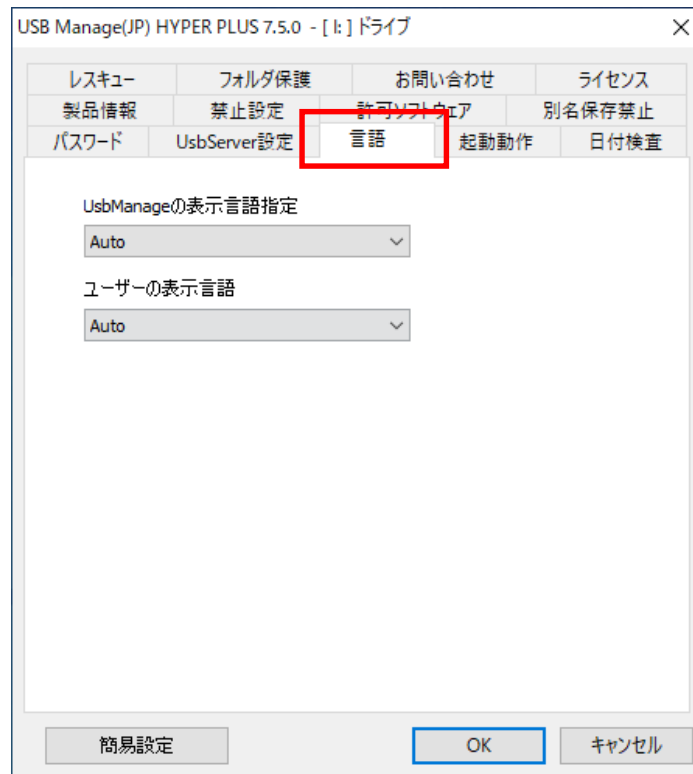
利用者がユーザーパスワードを設定する場合は、保護領域のTOOLフォルダにあるUsbPWを使います。
⇒P.62

- 英数混在・・・ユーザーパスワードを変更する場合、英語と数字混在を必須とします。パスワード文字数指定もできます。
- 不適合ロック回数・・・パスワードのミス回数を設定します。ミス回数を超えるとUSBがロックします。解除するには、回収してUsbManageでリセット操作が必要になります。
- パスワード・・・UsbStartを実行したときに表示するパスワードを設定します。**何も設定していない場合はユーザーパスワード画面は表示されません。ユーザーパスワードは管理パスワードでも許可されます。**
- パスワードヒント・・・ユーザーパスワードの画面でチップヘルプを表示できます。
- 管理パスワードの変更・・・管理パスワードを設定します。(必須入力項目)
管理パスワードは必ず“admin”以外に変更してください。
- 管理者メールアドレス・・・メールアドレスを事前に登録しておく管理パスワードがわからなくなった場合にお知らせする機能があります。Lost Password機能
Lost Password機能を使うには事前登録されているメールアドレスの入力が必要です。
[複数メールアドレスの登録](#)
メールアドレスは半角で入力します。複数メールを登録する場合は半角カンマで区切ります。スペースや全角文字などメールアドレスで利用できない文字が入っているとエラーになります。



UsbManage／言語

日本語／英語／韓国語／中国語の切り替え



エラーメッセージなどの表示 言語設定

管理ソフトとユーザー表示の言語を別々に設定できます。

通常は”Auto”を選択してください。言語によってサポートが困難になる場合は個別の言語を設定するとメッセージが統一できます。

50

言語設定はユーザー言語とUsbManageの動作が違いますのでご注意ください。

UsbManageの言語設定

指定した言語で強制的に表示します。例えば、日本語を選択した場合、中国語Windowsを使っている場合でも強制的に日本語で表示します。Autoの場合は適切な言語を自動判別します。未対応言語は英語で表示されます。

ユーザーの言語表示

Autoの場合はユーザーメッセージを適切な言語で自動判別します。未対応言語は英語で表示します。国によってメッセージが異なるとサポートなどで面倒です。この場合は指定言語を設定してください。

表示言語を指定すると利用するWindowsの言語が一致している場合に指定言語で表示します。不一致の場合は全て英語表記になります。例えば、ユーザー言語に日本語が設定されている場合、日本語Windowsのみエラーメッセージなどを日本語で表示しますが、未サポート言語を含め韓国語や中国語Windowsを利用すると全て英語が表示されます。日本語Windowsをはじめ全て英語表示が良い場合はEnglishを選択します。



UsbManage／起動設定

UsbStartの初期動作／利用回数の制限

USB Manage(JP) HYPER PLUS 7.5.0 - [I:] ドライブ

レスキュー	フォルダ保護	お問い合わせ	ライセンス
製品情報	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止
パスワード	UsbServer設定	言語	起動動作
			日付検査

☒ 初回起動時にUsbSetting画面を表示(S)

☐ 起動時に利用回数、利用日数を表示する(C)

☐ UsbStartの利用回数を設定する(T)

0 回

☐ UsbStartの利用日数を設定する(D)

0 日

☐ 利用有効期限を設定する(U)

2021/08/04

☒ 自動更新チェック(A)

☒ 保護領域の暗号化 / 復号 (変更はコンテンツ差し替えが必要)

禁止設定の解除コード / UsbQuickStart_Admin Code (C)

2525

簡易設定 OK キャンセル

起動動作はUsbStartの開始時の動作を設定します。

UsbSetting画面の表示、利用回数、利用日数、自動更新チェックなどを行う事ができます。

日付のチェックは、パソコンの時計と比較されます。厳密な日付検査が必要な場合は「日付検査」タブで設定できます。

●初回起動時にUsbSetting画面を表示・・・UsbStartを実行したときに右記の画面を表示する。表示させない場合はチェックボックスのチェックを外します。ただし、パソコンにより制限アカウントの場合でUsbQuickStartのセットアップが必須の場合は、このスイッチに関わらず表示されます。

※Windowsのログイン時に制限アカウントで利用されているパソコンはUsbQuickStartのセットアップが必要です。セットアップされていない場合は、起動画面が必ず表示されます。

●起動時に利用回数、利用日数を表示する・・・利用制限を設定する場合に設定します。

●UsbStartの利用回数を指定する・・・利用回数制限を設定する場合は設定します。

●UsbStartの利用日数を指定する・・・利用日数を制限する場合は設定します。

●利用有効期限を設定する・・・固定日の利用期間を届けたい場合に設定します。

●自動更新チェック・・・USBメモリの自動更新機能をONにします。

新しいWindowsやWindowsUPDATEなどでUSBが利用できない場合に更新情報を配布します。

緊急性が少ない場合は自動更新データを配布していません。この場合は手動でバージョンアップを行います。

利用回数や日数の制限は副誤条件で設定ができます。

例えば、初回お試し期間は初回利用から30日間、最高10回まで ただし2025年を上限とするなどの設定ができます。

Contents Guard Ver7.0.0

【USB設定】SETUP/UsbSetting起動
自動起動の設定やバックアップを行う場合は SETTING をクリックして下さい。コンテンツを表示する場合は SKIP をクリックして先に進んで下さい。

SETTING SKIP

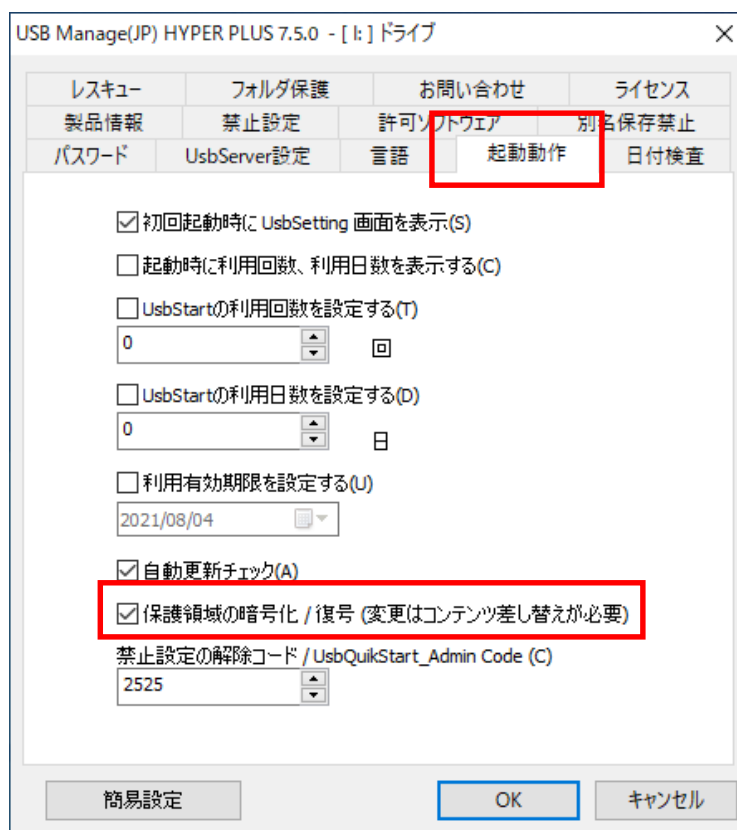
☐ このメッセージを表示しない。(再表示: Shiftキー起動)

☐ バージョンチェック 7.0.0



UsbManage／起動設定（暗号化）

.....
コンテンツの暗号化（UsbManageVer7.3以上が必要）



データファイルを暗号化する
保護領域へデータ保存する時に暗号化してファイルを保存します。データを強制的に抜き出しを行う行為に対してセキュリティを強化できます。

復号（ふくごう）とは、暗号化されているデータを元のデータに復元する事

●暗号化されないファイル
.EXE / .DLL / .OCX
実行形式（拡張子が
.EXE / .DLL / .OCX）のファイルは、暗号化すると動作ができませんので暗号化されません。
また、先頭がピリオドで始まっているフォルダもUSBのシステムファイルとして暗号化されません。

52

保護領域の暗号化/復号

配布するコンテンツを暗号化する事でより保護レベルを高める事ができます。暗号化を有効化した後に、保護領域へファイルを保存すると暗号化されて保存されます。許可ソフトで指定されているソフトでは暗号化を解除したデータ（復号データ）が自動で受け渡されます。

暗号化のチェックボックスを変更した場合は、コンテンツの入れ直しが必要

ご注意：ファイルを保存した後で暗号化を変更するとファイルが正しく読み取れません。

暗号化ON→OFF

暗号化ONの状態、保護領域へファイルを保存した場合は自動で暗号化されます。暗号化をOFFにした場合、複合（暗号化解除）せずにファイルを読み込む為、エラーになります。

暗号化を解除した場合は、コンテンツを再度上書きしてください。ファイルを上書きする場合は、「禁止設定」タブのファイルコピー禁止と保存禁止を一時的に解除してください。

暗号化OFF→ON

既にファイルが保存されている状態で暗号化をONにした場合も自動で暗号化ファイルには変換がされません。暗号化OFFでファイルを保存した場合は、暗号化されないでファイルが保存されています。暗号化ONにすると暗号化されていないファイルを複合するのでエラーになります。



暗号化でエラーになるケース

暗号化が原因でエラーが表示される形式

初期出荷では暗号化がONで出荷されています。

保存したファイルが開けない場合は、以下の除隊になっているか確認します。以下のケースになっている場合は暗号化をOFFにして、再度ファイルを入れ直して下さい。

暗号化が原因でトラブルになる形式	補足説明
メモ帳(NotePad.exe)の利用 仮想アドレス領域を使っているソフト	USBの暗号化を行っている場合、テキストファイルをメモ帳(NotePad.exe)で開く事はできません。これは、メモ帳が仮想アドレス領域を使っているソフトによる為です。 ※一般的なエディタソフトは仮想アドレス領域は使われておりません。他のソフトを利用するかPDFやリッチテキスト(.rtf)など他の形式で保存して下さい。
既に暗号化されている形式 電子キーの情報 パスワードで保護されているファイル	既に暗号化されている形式は2重暗号化になってしまいデコードが失敗し開けなくなる場合があります。 例) 電子入札のキー情報、パスワード付のPDF、Excel、Word、PPTX (PPTS)等 パスワードで暗号化されて保存される形式
圧縮ファイル ZIP形式など	暗号化するとZIP形式などを解凍せずに、ZIP直接の開いて表示や実行する事ができません。 例) Pythonのライブラリ等
実行形式 EXE / .DLL / .OCX以外の実行形式	拡張子がEXE / .DLL / .OCX以外の実行形式 上記の形式はシステムで予約されており暗号化されません。上記以外の実行形式は暗号化すると動かなくなります。 ・テキストファイルで供給されるスクリプトなどは動作します。

上記のファイル形式などUSBの暗号化が原因でファイルが開けない場合は、暗号化をOFFの状態でご利用下さい。この場合は、管理ソフトUsbManangeの「起動動作」タブの“保護領域の暗号化/復号”のチェックボックスを外して、暗号化を解除してファイルを入れ直して下さい。

●元ファイルがない場合の暗号化解除

管理ソフトの暗号化をOFFにしても既に保存されているファイルの暗号化は解除されません。暗号化OFFの状態、もう一度ファイルを上書き保存して下さい。

上書きする元ファイルが無い場合は、暗号化ONの状態のコピー禁止を解除して、ハードディスクにコピーして暗号化解除所状態のファイルを取り出して下さい。暗号化ONの場合、ファイルを開いたり、ファイルをハードディスクに戻した時に復号化（暗号解除、デコード）されます。

暗号化ONの状態でファイルを取り出すと暗号化は解除されています。この状態で一旦取り出したファイルを戻します。



UsbManage／解除コード

特定パソコンでコピーガードの解除

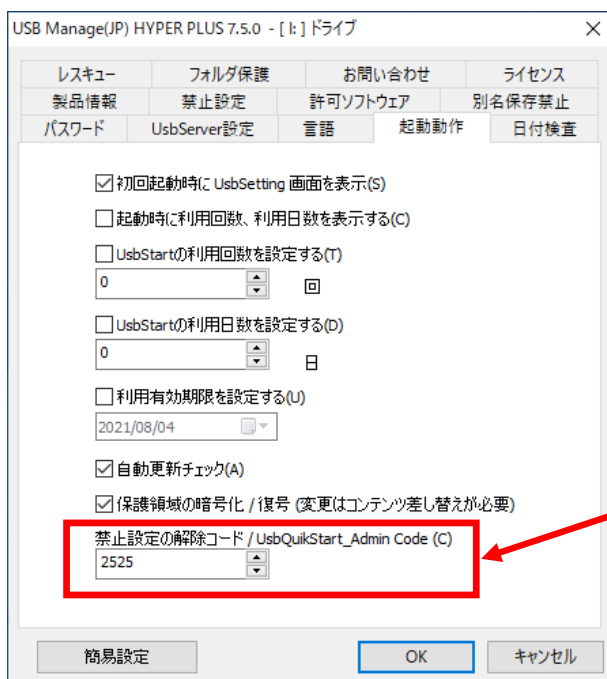
解除コードとは特定のパソコンでコピーガード機能を解除する機能です。

管理者のパソコンやデータを取り出すパソコンは、パソコン側に解除コードを設定するとUSBの設定を変更する事無く、コンテンツを取り出す事ができます。USBメモリに設定された解除コードが一致する場合は、コピーガードが解除されます。

■解除コードの設定手順

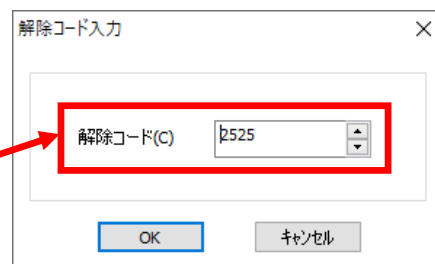
- ①コピーガードを解除したいパソコンでUsbQuickStar_Admin.exeをセットアップする。
- ②解除コードを設定する。(例：2525)
- ③管理ソフトUsbManageを起動して「起動設定」タブの解除コードを上記②で設定した数字を設定する。

パソコンに設定されている解除コードとUSBメモリに設定されている解除コードが同じ場合はコピーガードで設定されている禁止設定が解除されます。



■パソコン側の解除コードの設定

USBメモリ/非保護領域
Setupフォルダ/UsbQuickStar_Admin.exe



USBとPCに設定されている解除コードが同じ場合
禁止設定タブで設定したファイルコピー禁止などの設定が解除されます。

応用例

ハイパープラスでファイルコピーが禁止されている場合、中のファイルを取り出す事はできません。ただし、USBメモリ上であればデータの追加や修正を事はできます。例えば、Excelを自宅で修正して会社のパソコンで取り出したい場合は、社内PCに解除コードを設定しておく、ファイルの取り出しができます。また、ファイル追加を禁止しているUSBメモリで、特定のパソコンでは差し替えを行う事が出来ると便利な場合があります。



UsbManage／日付検査

USB Manage(JP) HYPER PLUS 7.5.0 - [I:] ドライブ

レスキュー	フォルダ保護	お問い合わせ	ライセンス
製品情報	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止
パスワード	UsbServer設定	言語	起動動作
			日付検査

☐ インターネットを使った厳密な日付検査を行う(NTP検査)(N)

NTP Server1 (InterNet Time Server 1)

NTP Server2 (InterNet Time Server 2)

☐ NTP検査を必須とする(M)

利用制限を設けた場合

日付の厳密検査を行う事ができます。

日付の検査はパソコンの内臓タイマーで行っています。

日付検査設定を行う事で、インターネット上の日付検査を行い厳密にチェックできます。

●インターネットを使った厳密な日付検査を行う・・・NTPという仕組みで日付の厳密検査を行います。通常はパソコンの内臓タイマーでチェックを行います。日付を変更された場合は、日付チェックを回避する事ができます。(NTP:Network Time Protocol)

●NTP Server 1、2・・・日付検査を行うインターネット上のNTP Serverを指定します。通常は変更不要です。外国での利用の場合は、その国で公開されているNTPServerを指定した方が反応が早い場合があります。

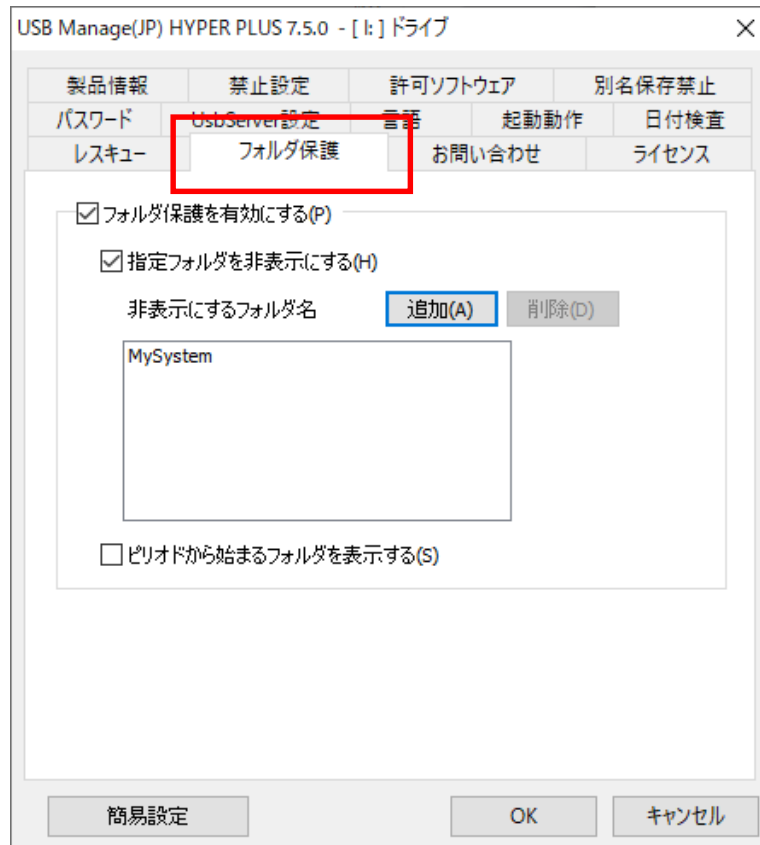
●NTP検査を必須とする・・・インターネット環境が利用できないケースが予想される場合はOFFにしてください。ONにするとNTP Serverに接続できない場合はコンテンツが利用できません。日付制限を設けて且つインターネット接続が必須のコンテンツの場合はONにします。

●テスト・・・NTP Serverの接続テストを行います。



UsbManage／フォルダ保護

見えないフォルダの設定



フォルダ保護機能を使うと指定フォルダを見えなくすることができます。

フォルダ保護で設定したフォルダは、エクスプローラーに対してフォルダ名を渡さない方法で見えなくしています。エクスプローラーとは、Windowsの操作画面の事です。

フォルダが見えないとフォルダ選択ができませんので、コピーなどは行えません。ただし、エクスプローラー以外のソフトでは参照が可能なのでファイルコピー禁止などの設定は行って下さい。

フォルダを見せない設定を行った場合は、フォルダが存在はしているが見えなくなっている状態です。同じフォルダ名をコピーすると上書きの確認メッセージが表示されます。

- フォルダ保護を有効にする・・・見えないフォルダ機能を利用する場合はONにします。通常はONのままにご利用下さい。指定フォルダを指定していなければ動作は変わりません。フォルダを差し替えたい場合は、一時的にOFFにして表示させます。
- 指定フォルダを非表示にする・・・利用者に見せたくないフォルダを設定します。
- ピリオドから始まるフォルダを表示する・・・USBの言語データが入っているシステムファイルを非表示にします。通常はOFFのままご利用下さい。
USBのシステムフォルダが無い場合または改ざんされた場合、エラーメッセージが表示できません。

マニュアルの緑色の文字はHyperシリーズのみの機能です。



UsbManage／お問い合わせ

USB Manage(JP) HYPER PLUS 7.5.0 - [!:] ドライブ

製品情報	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止
パスワード	UsbServer設定	言語	起動動作
レスキュー	フォルダ保護	お問い合わせ	日付検査
		ライセンス	

お名前 your name

宛先のメールアドレス
 support@abroad-sys.com

返信先のメールアドレス your E-Mail

添付ファイルリスト

CCのメールアドレス

質問のカテゴリ
 (100) エラー対応

質問内容 *同時にUSBの設定内容も送信されます

お問合せ機能

USBの製品サポートへ質問する場合はこのお問合せ機能をご利用下さい。この画面から問い合わせを行うと、管理者からのご質問という事で優先的に応答されます。

この機能でお問合せができない場合は以下のメールアドレスにお問合せ下さい。
 support@abroad-sys.com

※ご利用製品名「ハイパープラス」とバージョン情報「Ver7」をお知らせください。
 ※電話サポートは行っておりません。

- お名前・・・お客様の会社名、お名前などを入力します。
- 返信先のメールアドレス・・・お客様のメールアドレスを入力してください。
 ※できるだけパソコンやタブレットのメールアドレスをご記入下さい。スマートフォンのメールアドレスは避け下さい。
- CCのメールアドレス・・・質問の内容を他にも送りたい場合はメールアドレスを入力します。
- 質問のカテゴリ・・・任意設定 該当の質問がわかれば設定してください。設定された方が応答が早くできます。
- 添付ファイルリスト・・・画面の写真など添付ファイルなどがある場合は添付してください。
 ※別に送信されたい場合は、お名前を記載の上 support@abroad-sys.com に送りください。
- 質問内容・・・ご質問内容を詳しくご説明ください。

解答は平日の営業時間内にいただいたご質問はできるだけ当日に回答をしています。
 営業時間 平日（土日祝日、年末年始を除く） 10:00～18:00
 営業時間を超えた場合は翌営業日に回答をしています。



UsbManage／ライセンス(利用台数の制限)

ライセンス管理機能を利用する場合は「製品情報」の登録が必要です。→P.41

バックアップと復元

UsbSettingの復元処理では、バックアップを行った時点に戻すことができますがライセンスの利用PC情報はリセットされません。フォーマットでも、登録されているPC情報には影響ありません。初期化できるRESETボタンのみです。

ライセンス管理機能

ライセンス管理は、**最大50台**までの利用台数を設定できる機能です。

ご利用用途

①特定のPCのみでの利用

例えば、経理部門のみで利用させたい等 他部門の利用禁止、持ち帰りを禁止しない等にも利用できます。

②コンテンツの転売や譲渡の禁止

ソフトウェア販売の場合、利用する権利を販売している場合が多いので転売防止の目的で利用台数を制限する事ができます。

③製品価格のバリエーションを設ける。

販売コンテンツの場合は、利用台数制限版、無制限版などを分けて提供する事ができます。

●利用許諾文章の表示・・・UsbStart実行時に、あらかじめ用意したドキュメントを表示する事ができます。→詳しくはP.58を参照してください。

●利用台数を制限する・・・ライセンス管理機能を利用する
この機能は「製品情報」タブの登録が必要です。製品情報には、利用者に対して公開する追加ライセンスの発行先についての問い合わせ先を登録して下さい。

●設定したPCを除外する・・・USB設定を行ったPCは利用台数の登録を行わず無条件で許可されます。これ以外に、利用者に表示される「追加ライセンス」の入力項目に**USBの管理パスワードを入力した場合は**、同様に利用PCの登録は行わずに許可されます。

●利用可能台数・・・1～50台までの許可台数を設定します。50台以上は設定できません。

有料コンテンツの場合はパソコンの買い替えなども考慮し2台以上の発行を推奨します。お試し利用や特定PCのみでの利用は1台にします。台数を少なくすると追加ライセンス発行の手間が増えますのでご注意ください。

●RESETボタン・・・USBメモリに記録されている利用パソコンの情報を削除します。

■追加ライセンスコードの発行

一度、利用台数を設定したUSBメモリに対して追加でライセンス許可台数を発行する事ができます。この場合、利用者パソコンに表示されているAX-XXXXXのマシンコードの入力が必要です。

追加ライセンスコードは、管理パスワードと入力されたマシンコードを使い**数字11桁**で生成されます。

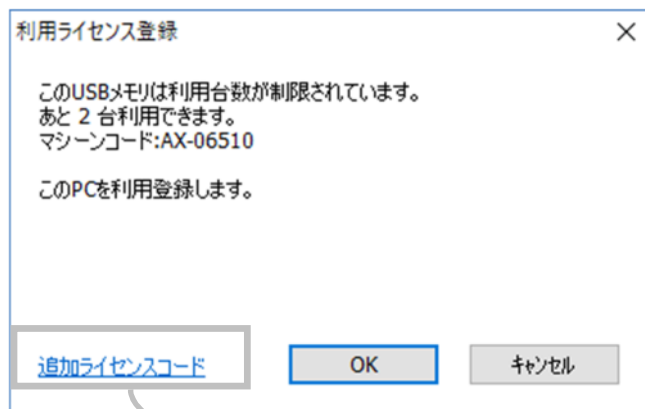
■利用台数の追加

追加ライセンスコードの発行には、配布したUSBメモリと同じ管理パスワードが設定されているUSBメモリが必要です。追加台数は最大50台を超えて登録はできません。例 利用台数10台のUSBに追加+50台を行った場合は、最大設定値の50台になります。利用台数が10台登録されている場合はあと40台追加できます。



UsbManage／ライセンス(利用台数の制限)

この機能はVer7.1以降の機能です。Ver7.1以降のUSBとUsbManageV7.1が必要です。



利用台数を設定されているパソコンではUsbStartを実行後に「ライセンス登録」画面が表示されます。

利用台数を制限されていないUSBメモリや一度、ライセンス登録を行ったパソコンは「ライセンス登録」画面は表示されません。

●追加ライセンスコード

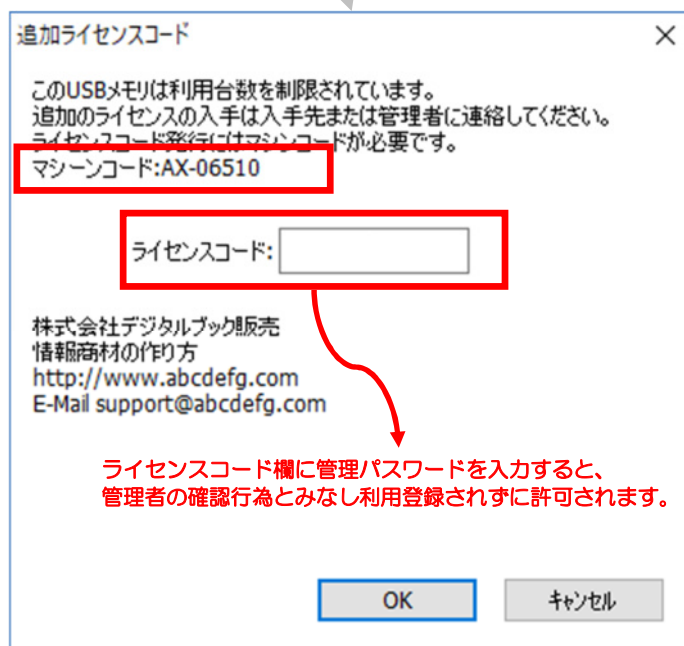
利用台数を追加する場合や管理者の確認の場合は、追加ライセンスコードのリンク設定をクリックします。

■追加ライセンスコードの発行の流れ

- ①利用者からの追加ライセンスコードの発行依頼
- ②追加ライセンス画面に表示されているAXから始まるマシンコードの連絡を依頼する
- ③利用者が持っているUSBと同じ管理パスワードのUSBメモリを使い追加ライセンスコードを発行する。
- ④数字11桁のライセンスコードを連絡する。

追加ライセンスコードは追加利用台数を設定できます。

利用台数：1～50台
(追加数を加えて50を超えた場合は最大値の50になります)



■マシン情報

利用登録したパソコンは以下の4つのPC情報がUSBメモリに記録されます。

- ①パソコンのマザーボード型番、②ハードディスク型番（シリアル番号）、③Windowsバージョン（シリアル番号）、④CPU型番

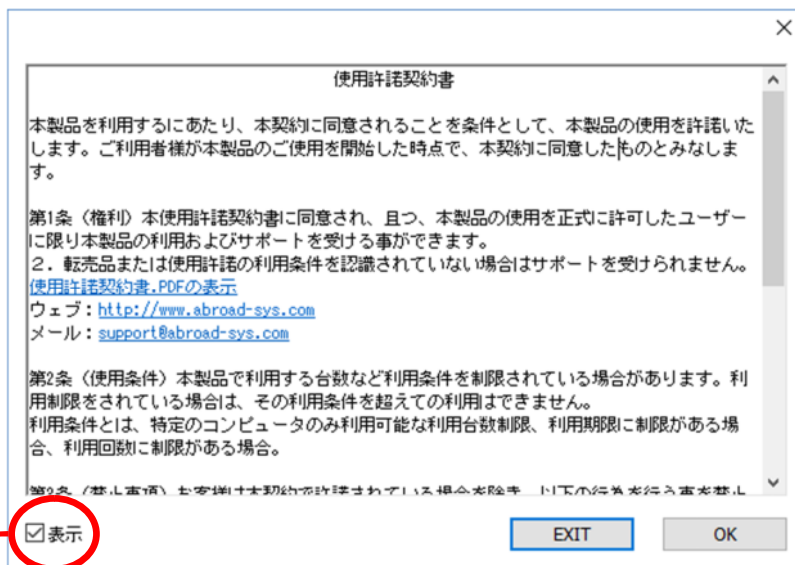
このうち3つが同じ場合は同じパソコンと認識します。例えば、CドライブをHDDからSSDに交換した場合でも同じパソコンと認識されます。**マシン情報の内2つが変更されると違うパソコンと認識します。**

グラフィックボードや他の機器の変更や増設は関係がありません。同じ構成のPCでもシリアル番号が異なるので違うパソコンとして認識します。同じハードウェアのPCにハードディスクを移設した場合は、同じパソコンと認識される場合があります。これらのUSBに記録されている情報は管理ソフトの「ライセンス」タブで確認できます。現在登録されている情報はsetupフォルダのLicense.logという名前のテキストファイルで参照ができます。ただし、License.logはUSBの管理情報には使われておらず、あくまで確認用のログファイルで削除も可能です。WindowsバージョンはWindowsUPDATEなどには影響されません。



UsbManage／利用許諾文書の表示

この機能はVer7.1以降の機能です。Ver7.1以降のUSBとUsbManageV7.1が必要です。



表示フラグをOFFにした場合の再表示

①setupフォルダにあるusbSettingの”UsbStart起動”メニューがあります。ここから実行すると表示フラグをONにして実行します。
②管理ソフトUsbManageのデータ保存時に表示フラグを強制的にONにしています。UsbManageを実行して何も修正せずにOKで終了すると表示フラグがONになります。

●表示・・・チェックを外すと次回「利用許諾書」を表示しません。この情報は、パソコン側のレジストリに登録されます。一度チェックを外しても他のパソコンでは表示されます。

●EXIT・・・USBの利用を中止し終了します。

●OK・・・次のステップへ進み、コンテンツを表示します。

■利用許諾書

1. USBメモリに付属している、License.rtf（リッチテキスト）又はLicense.txtは本製品の利用許諾書です。実際にお客様のコンテンツを入れる場合は、新たに作成するか、現在入っている利用許諾書を元に作成してください。USBを2次配布する場合、最初に入っている利用許諾書は付属しなくても結構です。
2. License.rtf 又はLicense.txt SETUPフォルダに入れて下さい。
3. 利用許諾書表示欄は、画面タイトルを表示していませんので、他の利用目的、例えばマニュアルや免責事項説明など他の参照文書にする事もできます。ただし、License.rtf 又はLicense.txtの名前は固定で変更できません。

■リッチテキストのPDFリンクを推奨しない理由

リッチテキストでPDFにリンク設定を行う事ができますが、PDFのリンクは全てのパソコンでは表示できない場合がありますので注意が必要です。USBメモリに入っているPDFを表示している場合、USBが利用中になっている為、PDFを終了するまで保護領域が表示できません。
PDFを終了して画面が消えている状態でもAcrobatのバージョンによりUSBをすぐに開放しない場合があります。また、PDFを表示するAcrobatが入っていない場合はリッチテキストでのリンク表示ができない場合があります。この為、USBメモリ内にあるPDFへのリンクは推奨していません。PDFを表示する場合は、httpリンクでPDF文書を表示する方法もあります。

Setupフォルダに利用許諾書を入れるとUsbStartを実行したときに表示する事ができます。設定前で**管理パスワードが”admin”になっていると初期設定されているLicense.txtが表示されます。管理パスワードを変更する又はLicense.txtを削除すると表示されません。**

1. オリジナルの利用許諾を表示させる場合は、「ライセンス」タブの「利用規格文章の表示」にチェックを入れます。⇒P.58

2. SetupフォルダにLicense.rtf（リッチテキスト）又はLicense.txt（テキストファイル）を入れます。ファイル名License.xxxは固定
License.rtf があった場合は優先して表示されます。
License.rtf が無い場合はLicense.txtが表示されます。

■リッチテキスト(.rtf)

リッチテキストは、テキストに色を付けたりリンク情報を設定したいときに使います。リッチテキストの作成はMS-WORDなどリッチテキストに対応したソフトを使います。

MS-WORDの場合は、別名保存の種類をリッチテキスト形式(RTF)で保存します。

※Windowsアクセサリ内のWORD-PADでもリッチテキストは作成できますが、リンク情報の設定が異なるためリンクが正しく動きません。

付属ソフト その他の設定について



UsbPw／ユーザーパスワード変更



保護領域/TOOL/UsbPw.exe

ユーザーパスワード設定

新しいパスワードを設定して下さい。

パスワード(P)

再入力(C)

☐ 表示(V)

パスワードを忘れた時のためにヒントを設定して下さい。

ヒント(H)

OK キャンセル

ユーザーパスワード

利用開始前にパスワード画面を表示する事ができます。
ユーザーパスワードは管理パスワードと別に管理されています。

パスワード画面の表示

ユーザーパスワードを設定します。設定はUsbPwで利用者が設定するか事前にUsbManageで設定します。利用者にパスワード変更を許可しない場合はUsbPwを削除してください。

パスワード画面の非表示

ユーザーパスワードを消して登録してください。何も設定されていないとパスワード画面は表示されません。

62



UsbStart.exe

HYPER PLUS Ver7.3.2

【UsbSetting】自動起動/バックアップ設定
自動起動の設定やバックアップを行う場合は SETTING をクリックして下さい。コンテンツを表示する場合は START をクリックして先に進んで下さい。

SETTING START

☐ このメッセージを表示しない。(再表示: Shiftキー起動)

☐ バージョンチェック 7.3.2

この画面は設定状況によっては表示されない場合もあります。

ユーザーパスワードが設定されている場合に表示

HYPER PLUS Ver7.3.2

パスワード(P) 1234

☒ 表示(V) ☒ 保存(S)

OK キャンセル

SETUP

ユーザーパスワードを入力
(管理パスワードでも許可されます)

- ユーザーパスワードの設定はUsbPwで行う。
- ユーザーパスワードは管理ソフトでも設定・修正ができます。
- ユーザーパスワードを削除するとパスワード画面は表示されません。(初期値)
- UsbPwは保護領域内から実行して下さい。非保護では実行できません。
- UsbPwは保護領域/TOOLフォルダにあります。移動可能
- ユーザーパスワードを忘れてしまった場合、利用者が調べる方法はありません。

管理ソフトUsbManageのLostPassword機能で管理者へ設定内容をお知らせする事はできます。
UsbManageで再設定も可能です。



UsbRemove/Usb安全な取り外し

USBを取り外す時の注意事項

USBメモリの取り外しは操作が必要です。
右下に「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBを取り外して下さい。

USBメモリにアクセスしていると取り外しができません。利用していた場合は利用しているソフトを終了させてファイルを閉じて下さい。この状態でUsb安全な取り外し.exe又はUsbRemoveを実行します。

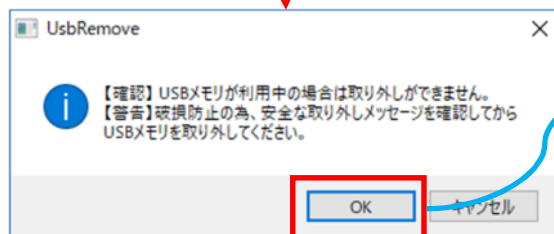
UsbRemove

UsbRemoveとUsb安全な取り外し.exeは名前が違いますが同じソフトウェアです。複数の場所に保存されています。

※Usb安全な取り外し.exeは日本語Windows以外では文字化けをしてしまうので正式名のUsbRemoveで保存されています。



非保護領域/setup/UsbRemove.exe
保護領域/TOOL/UsbRemove.exe
保護領域ルート/UsbRemove.exe (非表示)



右下に「安全に取り外せます」のメッセージを確認してからUSBメモリを抜いてください。

●画面が消えていても取り外せないケース

利用していたソフトの画面が消えた状態でも しばらくの間書き込み処理が終わっていないケースがあります。この場合は、USBメモリを利用している旨のエラーが表示されます。少しまってもう一度Usb安全な取り外し操作を行って下さい。

●強制取り外し

エラーがどうしても消えない場合は、パソコンをシャットダウンして電源の切れている状態でUSBメモリを取り外すか、Windowsの標準機能で操作を行って下さい。
USBを選択して右クリック→「取り外し」→エラー表示→「続行」ボタンをクリックする。

●イメージバックアップの実行

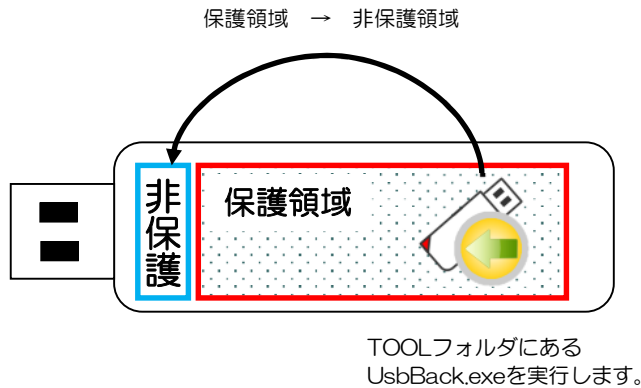
書きこみ中にUSBを取り外すとタイミングによりUSBのインデックス部分が不完全になり全ての保存データがアクセスできない状態になります。復帰方法はイメージバックアップの復元処理しかありません。書き込みが必要なコンテンツの場合は特に注意が必要です。
利用開始前には必ず1度はイメージバックアップを実行して下さい。



UsbBack/非保護領域の切り替え

設定を行うときは非保護領域を表示する

管理ソフトUsbManagerは、保護領域を表示していると設定できません。設定を行う場合は、TOOLフォルダにあるUsbBackを実行して非保護領域を表示します。UsbBack見つからない場合は、“USB安全な取り外し”を実行してUSBを取り出します。再挿入すると非保護領域になります。「しばらくお待ちください」の表示がされる場合は「キャンセル」してください。



UsbBackと手作業の操作

UsbBackは、USBメモリを取り外して再挿入する動作ソフト的にしています。手作業で抜き差しをしても非保護領域を表示する事ができます。

UsbQuickStartのアンインストール

自動起動のUsbQuickStartがセットアップされている場合は、USBが挿入されると自動でUsbStartが実行され「しばらくお待ちください」の表示になります。「キャンセル」ボタンで中止をしてからsetupフォルダにあるUsbQuickStartを実行してアンインストールをしてください。既にUsbQuickStartがセットアップされているパソコンで実行するとアンインストールモードになります。⇒P.67

TOOLフォルダの削除

UsbBackは設定を行う場合に保護領域と非保護を切り替えるので便利ですが、設定後は利用者ではそれほど使いません。

この場合はTOOLフォルダやUsbBackを削除してもかまいません。

UsbBackは手作業で行うか、保護領域のルートに同じものが非表示で保存されています。パソコンの設定を変更（⇒P.71 非表示フォルダを表示する）してから非表示のUsbBackを利用する方法もあります。

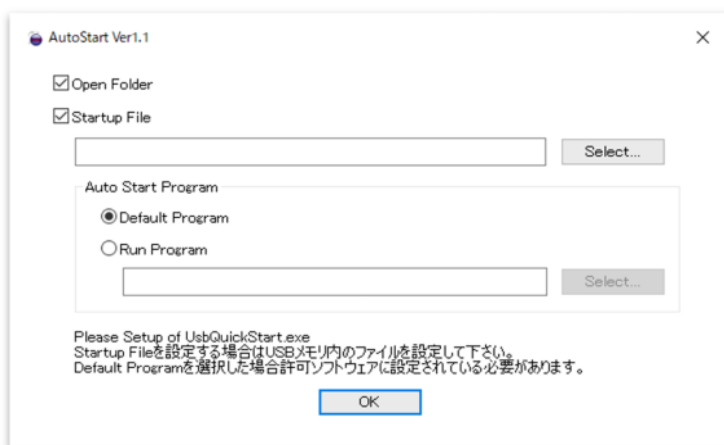


AutoStart/自動実行 (Ver7で廃止)

UsbQuickStartをセットアップしているパソコンでは指定のソフトやファイルを自動で開くことができます。設定はAutoStartで行います。

※AutoStartは必ず保護領域のルート（先頭フォルダ）に配置してください。

※UsbQuickStartをセットアップしていないパソコンでは自動起動はできません。



自動でフォルダを開かせない設定

UsbStartが実行され保護領域が認識できるとフォルダを表示されます。USBメモリ側の機能とWindowsの自動再生機能の2つがあります。両方が設定されていると2回フォルダが開かれます。

1. AutoStartの設定をOFFにする場合

AutoStart.exeをダブルクリックで開きます。Open Folderにチェックが入っていると保護領域のフォルダが自動で開かれます。自動で開かれないようにするには、Open Folderのチェックを外して下さい。または、この機能をまったく使わない場合は保護領域に入っているAutoStart.exeを削除します。

2. Windowsの自動再生の設定 パソコン側の設定

Windowsの機能で初回に認識したUSBメモリの動作を記録させる「自動起動の設定」があります。この機能でも認識した保護領域のフォルダを表示しますので不要な場合は変更します。この設定はパソコン側の設定になります。
WindowsStartメニュー→設定→デバイス→自動再生→リムーバブルドライブの設定→「何もしない」に変更（Windows10）

●**Open Folder** UsbStartを実行後、保護領域に切り替わったときにフォルダを表示する。認識したUSBのフォルダを開く動作は、Windowsでも設定ができます。初回USBを認識したときの初期動作でWindowsで設定する事ができます。フォルダを開くを指定したパソコンでは2重にフォルダが開かれます。

●**Startup File** 自動で開くデータファイルを指定します。Windows標準機能のAutorun.infファイルの設置では、セキュリティの観点から自動実行指定（RUN=）の記述は書き換えのできるUSBメモリのようなメディアに対しては無効になります。本USBメモリでは、Autorun.infの代替機能としてAutoStartが提供されています。

●Auto Start Program/Default Program

ファイルを開く際に起動するソフトウェアを指定します。この設定はパソコンに設定されているソフトで開きます。例えば、コンテンツがHTMLの場合、ユーザーパソコンで標準ブラウザがWindows Edgeが設定されている場合は、Edgeで開かれます。

●Auto Start Program/RUN Program

ファイルを開く際に起動するソフトウェアを指定します。USBメモリ内にファイルを開くソフトを入れた場合に設定します。例えば、コンテンツがPDFの場合、配布可能なフリーソフトSumatoraPDFなどをUSBメモリに入れる場合などで、同じソフトで開くので操作の統一できる事や説明などが便利です。

⇒P.95-96 PDFの設定

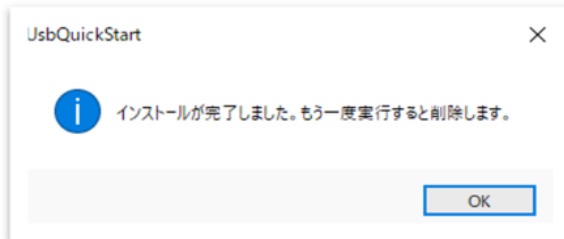


UsbQuickStartのセットアップ

非保護領域/setup/UsbQuickStart.exe

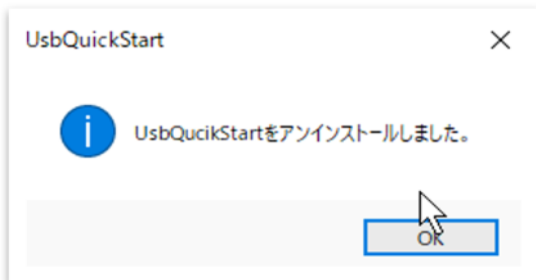
UsbQuickStartのセットアップ

setupフォルダ内のUsbQuickStartを実行するか、UsbSettingのメニューから実行します。(P.28)



アンインストール

既にUsbQuickStartがセットアップされているパソコンでもう一度、UsbQuickStartを実行するとアンインストールします。



UsbStartの自動起動

USBを挿入するとすぐに保護領域（コンテンツ側）を表示させたい場合は、UsbQuickStartをセットアップします。

コンテンツの自動実行

AutoStart(P.65)に自動的に開きたいファイルやソフトを設定すると自動で開くことができます。

制限アカウント（標準ユーザー）での利用

大きな会社や大学などでは、Windowsのログインに制限を設けて運営されている場合があります。この場合、管理者に許可されていないソフトの実行ができません。このような環境で本USBメモリを利用する場合は、制限のないパソコンでご利用になるか、事前に情報システム部門に、UsbQuickStartの設定をお願いして下さい。UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは制限アカウントでも本USBメモリを利用する事ができます。

制限のあるパソコンでUsbQuickStartを設定するには、管理者権でログインして設定を行うか設定時にパスワードの入力が必要が必要です。

UsbQuickStartのネットワーク一括設定

/Nオプションを付けて実行すると応答画面を表示しません。この場合はUSBメモリ以外でも実行できます。

UsbQuickStart.exe /N



UsbQuickStartの自動実行キャンセル

管理祖ソフトUsbManageで設定変更を行う場合は、UsbQuickStartがセットアップされていないパソコンで行うかUsbQuickStartのアンインストールが必要です。

UsbQuickStartをキャンセルする操作はいくつか用意されています。

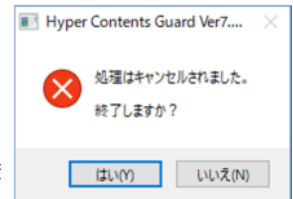
UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでは管理ソフトUsbManageが起動しませんので、管理者パソコンにUsbQuickStartがセットアップされている場合は、アンインストールをしてください。UsbQuickStartのセットアップ／アンインストールは何度も行う事ができます。運用によっては、設定変更時にUsbQuickStartのアンインストールを行い、普段はUsbQuickStartのセットアップをしている状態での運用もできます。

シフトキーを押しながらUSBメモリを挿入

UsbQuickStartをセットアップしているパソコンでは、USBが挿入されるとすぐにUsbStartが実行されます。設定変更や非保護側にある説明書を参照するときには、自動実行を一時的にキャンセルしたい場合があります。この場合は「しばらくお待ちください」の表示中にキャンセルボタンをクリックします。また、USBメモリを挿入するときにシフトキーが押されていると自動実行は一時的にキャンセルされます。

「しばらくお待ちください」で「キャンセル」ボタンをクリック

UsbStartが起動すると「しばらくお待ちください」のウィンドウが表示されます。このときに「キャンセル」ボタンをクリックすると「終了しますか？」が表示されます。「はい」を選択すると 非保護領域を表示します。



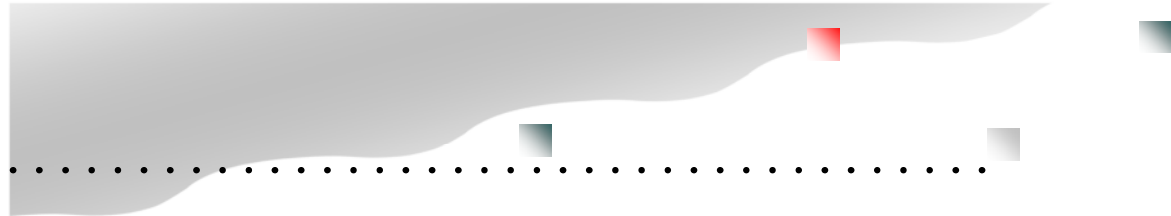
ユーザーパスワード画面でキャンセル

ユーザーパスワードが設定されている場合は、パスワード画面が表示されます。正しいパスワードが入力されるまでは、非保護領域を表示していますのでユーザーパスワード画面をキャンセルすると非保護領域を表示する事ができます。

UsbQuickStartのアンインストール

UsbQuickStartが入っているパソコンでは自動で保護領域を表示してしまうので設定変更ができません。TOOLフォルダのUsbBackで非保護領域を表示するか、UsbQuickStatを一時的にキャンセルして非保護領域にあるsetupファイルだを表示します。

UsbQuickStartがセットアップされているパソコンでもう一度、UsbQuickStartを実行するとアンインストールされます。



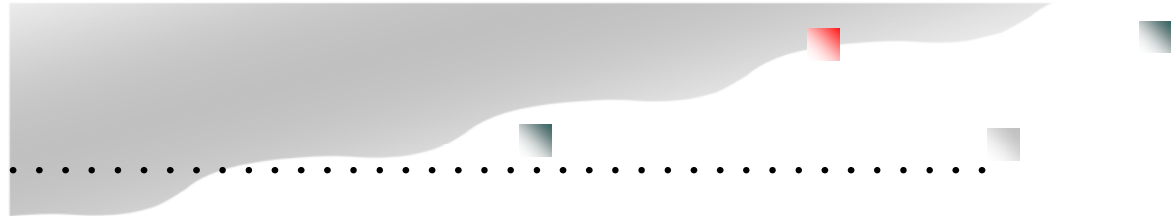
付属ソフトについて

附属ツール一覧

ハイパープラスには、幾つかのソフトが付属しています。設定に必要なソフトや配布コンテンツで利用者が使うソフトがあります。削除できないソフトはUsbStartのみになります。コンテンツ配布の際に付属されると便利なソフトもありますが、付属させる場合は説明が必要になると思いますので、付属の有無は任意です。UsbManageは管理ソフトですが、社内配布コンテンツでは付属させる場合もありますが、通常は設定後に削除します。

保存場所	名前	説明	削除可否
非保護領域	UsbStart.exe	保護領域を表示するソフト 非保護領域→保護領域へ切り替えるソフトです。	×
非保護領域/setup	UsbQuickStart.exe	USBメモリが挿入されると自動的にUsbStartを実行する。 制限アカウントログインでの利用 セットアップされている状態で実行するとアンインストールします。	△
デスクトップ等	UsbManage.exe	各種制限設定を行う管理者ツール http://www.abroad-sys.com/USB/V7/UsbManageV7.7.zip	○
保護領域	AutoStart.exe	保護領域側のコンテンツを自動的に開くソフト UsbQuickStartがセットアップされていると実行される。Shift キーを押しながら実行すると設定モードになります。	○
保護領域	Usb安全な取り外し.exe	UsbRemoveを日本語名に変更したもの	○
保護領域/TOOL 非保護領域/setup	UsbRemove.exe	WindowsのUSB安全な取り外し機能呼び出すソフトです。 Usbメモリを取り外す場合に実行します。Windowsの標準操作(右クリック→取り外し)で代行できますので削除してもかまいません。	○
保護領域/TOOL	UsbBack.exe	保護領域から非保護領域へ切り替えるソフトです。設定を行う場合は、非保護領域の状態で設定する必要がありますのでUsbBackで非保護領域へ戻る必要があります。	○

○：削除可 ×：削除不可 △：削除しない事を推奨



付属ソフトについて

保存場所	名前	説明	削除
保護領域	LOGIN.exe	MT4のterminal.exeをUSBメモリから探して最初に見つかったterminal.exeを実行します。 フォルダ保護機能でフォルダを非表示にした場合はLOGINを使って実行が必要になります。 LOGINでは自動更新の停止やMT4の作業用ファイルをCドライブ側に生成させないで実行する機能があります。 ●非表示フォルダのterminal.exeを起動する ●Cドライブに作業用ファイルを生成させない（EAをCドライブに残さない） ●terminal.exeの自動更新を行わない ●terminal.exeと同じ階層にあるREADME.txtを表示します。README.txtがない場合は表示しません。	○
保護領域	ClickView.exe Ver7.3以降付属	コンテンツビューワーソフト パソコン環境にかかわらずコンテンツを表示可能 P.103～	○
保護領域	UsbReset.exe Ver7.3以降付属	初期出荷ファイルの復元 簡易バックアップ/復元機能。利用者がバックアップを行っていない場合に有効 P.118	○

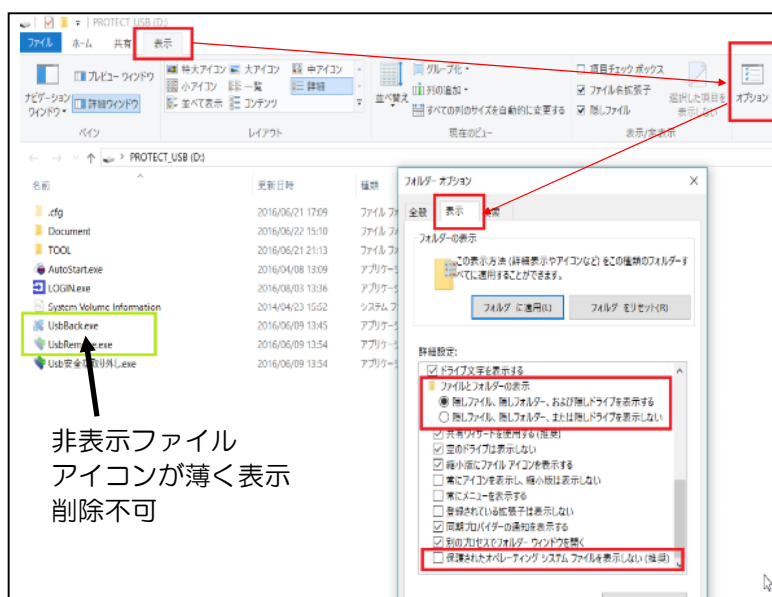
ご利用にあたっての注意事項

- 本製品はフォーマットの必要はありません。フォーマットを行うと動作に必要な管理情報が削除されますので注意が必要です。詳しくは「保護領域のフォーマット」についての解説をご参照ください。
- 本製品を電源のついているパソコンから取り外す場合は「USBの安全な取り外し」操作を行ってください。正しい手順で取り外されない場合はファイルの破損や次のアクセスができなくなる可能性があります。本製品をはじめてパソコンに挿入した場合、Windows標準の大容量ディスクドライバがセットされる為、XPなど古いパソコンでは認識に10秒程度時間がかかる場合があります。しばらくお待ち下さい。（この動作はWindowsバージョンによってセットアップ時間が変わります。新しいWindowsバージョンほど待ち時間が短くなります。）
ドライバセットアップは初回のみ動作です。2回目以降はこの動作はありません。
ドライバセットアップ中に取り外すと認識ができなくなります。
- パソコン側のドライバセットアップはUSBメモリの個体単位で行われます。同じ種類のUSBメモリでも個体が違う場合は毎回ドライバセットアップが行われます。
- 本製品の保証はハードウェア部分のみになります。製品の不具合により消失・破損したデータや間接する費用に関しては、当社は一切の責任を負いかねます。事前にイメージバックアップを行ってください。
- 本製品を湿気や埃の多いところで長時間使用しないでください。
- お手入れの際には乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
- 本製品にはデータの保持期間と書き換え回数に寿命があります。
- パソコン側のUSB接続口が緩い、または硬い場合があります。無理にUSBメモリを挿入すると接続不良や抜けなくなる場合があります。そのような場合は他のUSB接続ポートを使用して下さい。
- USB延長ケーブルやUSBハブを経由して接続する場合は発熱する場合があります。この場合、発熱する機器のご利用は中止して下さい。
- 本製品の部品や仕様は予告なく変更される事があります。
- 静電気などの影響で内部電気回路がショートする可能性があります。冬場の乾燥時期などで大量にUSBメモリを取り扱う場合は、イオナイザー（静電気除去装置）の利用や湿度などに注意して静電気対策を行ってください。
- 本製品は耐水製品ではありません。水濡れした場合は完全乾燥を確認してからご利用下さい。濡れたままの状態でご利用された場合は破損します。
- USBメモリとパソコンを接続する場合は、パソコン側のホストコントローラーと通信が行われます。
エトロン社製の一部のUSB3.0ホストコントローラードライバでは動作しない場合があります。
- 本製品はUSB2.0規格です。上位規格であるUSB3.0でも規格上はご利用可能ですが全てのUSB3.0で互換性が100%補償されている訳ではありません。パソコンにUSB2.0規格がある場合は、USB2.0側でご利用下さい。判別方法はUSB2.0は端子の内部が黒または白ですがUSB3.0は青になっています。ノートパソコンの機能で電源OFF時にスマートフォンの充電供給ができるなど特殊な機能がある場合はUSB3.0でも動作しない事があります。



非表示フォルダを表示する

エクスプローラーの表示オプション変更



エクスプローラ表示オプションの変更

以下の2か所を変更すると表示フォルダや非表示ファイルが見えるようになります。

オプション→表示オプションタブ
①「隠しフォルダ、隠しファイル、お
よび隠しドライブを表示する」に
チェックを**入れる**。
②一番最後の項目「保護されたオペ
レーティングシステムファイルを表示
しない（推奨）」のチェックを**外す**。

上記に加え管理ソフトの「フォルダ保護」機能が設定されていると“.cfg”フォルダは表示されていません。上記の設定を行い更に、管理ソフトのフォルダ保護設定→「ピリオドから始まるフォルダを表示しない」のチェックを外します。

非保護領域

システムに起動なフォルダとファイルは以下の3つです。

“cfg” フォルダ(ドットcfgフォルダ)・・・非保護側メッセージファイル
SETUPフォルダ・・・ 付属ソフト
UsbStart.exe・・・ USBシステム本体

保護領域

システムに起動なフォルダとファイルは以下の3つです。

“**.cfg**”フォルダ(ドットcfgフォルダ)・・・保護側メッセージファイル
UsbBack.exe・・・保護→非保護切り替え
UsbRemove.exe・・・Usb安全な取り外し

※ドットc f gフォルダは保護側／非保護側同じ名前ですが内容が異なります。

※UsbBack/UsbRemoveはTOOLフォルダと同じものを非表示で保護側ルートに入れてあります。
先頭のルートフォルダにある非表示のUsbRemoveはUsbBackupなどUSB付属ソフトで利用されますので削除しないようにして下さい。

輸出書類について

非該当証明書（輸出書類）

鍵長512bit以上の暗号化製品など軍事転用可能な高度な情報化技術の製品を海外に輸出する場合、政府の許可が必要な場合があります。本製品は暗号化を使っておらずアクセスコントロールでコピーガードを行っており規制対象の製品ではありません。

輸出する場合、輸出規制の対象ではない事を証明する為に税関または国際貨物取扱業者（フォワーダー）に「非該当証明書」の提出を求められる場合があります。

※ハイパープラスは、お客様でコンテンツを保存するメディア（入れ物）です。保存するコンテンツが一般流通される市販のコンテンツや通常のデータ形式であれば問題はありませんが高度な暗号化を行うソフトウェアや軍事転用可能な規制対象の設計図を保存して輸出する場合は「該非判定書」（パラメタシートや項目別対比表）に基づき確認や申請が必要という事になっています。

※自己使用での海外輸出は規制対象外です。

※規制内容につきましては産業経済省や安全保障貿易情報センター（CISTEC）シーテックにご確認下さい。

※ハイパープラスを輸出する場合は以下の「非該当証明書」をご利用下さい。

http://www.abroad-sys.com/USB/HP7_Export_document.pdf

http://www.abroad-sys.com/USB/HP7_Export_document.doc

輸出入の際に必要な国際的な分類番号(HSコード)

HSコード:8523.51.000 不揮発性半導体記憶装置

USBメモリバージョンと対応Windows

■USBメモリのバージョンと対応Windows

Ver7.6	利用者選択で言語表示を任意切替（外国利用）、ExeMaker追加（ClickView拡張機能）
Ver7.5	半角カナファイルまたは一度に大量なファイルを追加した場合のキャッシュオーバーフロー対策、別名保存の禁止機能に“ブラウザでの画像保存対策”を追加、Windows11対応
Ver7.4	Windows10 2004(20H1)/20H2対応/レスキュー画面追加(7.4.4)
Ver7.3	7/8/8.1/10 暗号化処理の追加/ClickView/UsbReset追加
Ver7.2	XP/Vista/7/8/8.1/10 Win10 (32) /Excel履歴コピーに対応
Ver7.1	XP/Vista/7/8/8.1/10 ライセンス機能追加（利用台数設定）
Ver7.0	XP/Vista/7/8/8.1/10 バックアップ機能追加、アイコン変更、他
Ver6.9	Ver6製品 Windows10 2004/20H2対応（2020/6公開） 保守対応バージョン
Ver6.8	旧バージョン出荷版/非保護領域15Miに拡張(Ver7と同じ)
Ver6.7	XP/Vista/7/8/8.1/10 安全な取り外し処理改善
Ver6.5	XP/Vista/7/8/8.1/10 設定コピー機能追加
Ver6.4	XP/Vista/7/8/8.1/10 Windows10 Anniversary Update対応
Ver6.2	XP/Vista/7/8/8.1/10 Ver1511対応
Ver6.0/6.1	XP/Vista/7/8/8.1/10
Ver5	XP/Vista/7/8/8.1
Ver4.5	XP/Vista/7/8
Ver4	XP/Vista/7

■新しいWindows10のバージョン 2020/6、Windows11

Windows10 Version2004(20H1)/20H2/21H1以降はWindowsの仕様が変更になりVer6.9又はVer7.4未満は無応答になりご利用できません。この場合はオンライン更新又は、手動でバージョンアップを行って下さい。
https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_20H2.html

■最新バージョンへの更新

Ver7は自動更新機能や更新ソフトを使ったバージョンアップは可能です。全てのUSBメモリはVer7.6への更新を推奨しています。自動更新はOS対応など大きな更新のみ配布されます。Ver4～5、Ver6.0～6.4のUSBメモリをVer7以降へ更新する場合、初期化作業が必要になりお客様側でのバージョンアップができません。修理扱いの有料のバージョンアップ対応になります。

Ver6.0～6.4は2021年6月以降の新しいWindows10を使うためのVer6.9に更新は可能です。Ver6.9は2020年に公開された新しいWindows10に対応させる更新用の配布バージョンですがWindows11には未対応です。全てのUSBメモリは修理対応で最新バージョンにする事ができます。詳しくは support@abroad-sys.comにご相談下さい。

■WindowsXP/Vista/7

マイクロソフト社のサポートが停止されているOSは、USBメモリのサポートができません。OSのサポート停止に伴いウィルスセキュリティソフトのサポートが停止され、これに関連したトラブル改定が行われませんのでWindows10以降のWindowsをご利用下さい。これに伴いUSBメモリのバージョンアップを行いWindows11対応版のVer7.5以降へバージョンアップを行って下さい。

トラブルの原因と対策

復旧方法について

FAQ（よくある質問と回答）

質問内容	原因と対応方法
データを保存する前にUSBメモリを抜いてしまった。	ハイパープラスでは、データベースなどの上書き保存は許可する事ができます。データを保存する前にUSBメモリを取り外した場合は、保存する方法はありません。 これらのミスが連続する場合は、Hyper SecurityまたはHyper Plusのご利用を推奨します。 Hyper SecurityやHyper Plusにはレスキュー機能があり、Excelなどのデータに関しては“別名保存の禁止”を一時的に解除する事ができます。
ウイルスには感染しませんか？	※Windows-XP(SP2)以降のパソコンでは、USBを介しての自動感染対策はとられています。 Windowsの機能やウイルスセキュリティソフトの導入で万が一混入があってもUSBメモリからは自動実行ができない仕組みになっています。 コピーガードUSBメモリでは更に以下の追加対策があります。 1. 空き容量をゼロにしてウイルスの混入やデータ持ち出しができない対策 2. 保護領域側の書き込み禁止 3. 暴露ウイルスによるデータ抜き取り（許可ソフト以外のアクセス排除） 4. 遠隔操作によるデータ抜き出し（コマンドラインによるアクセス排除）
パスワードは必ず必要ですか？	ユーザーパスワードは任意設定で何も設定されていない場合はパスワード入力画面は表示されません。パスワードは必須ではありません。 パスワードを設定してなくてもコピーガード設定は有効です。
ユーザーパスワードを入れても進まない	・全角半角、アルファベットは大文字小文字を確認して下さい。設定されているパスワードと完全一致が必要です。 ・ユーザーパスワード欄はユーザーパスワード以外に管理パスワードでも許可されます。 ユーザーパスワードを忘れた場合は、管理者であれば管理ソフトを使い再設定可能です。
別名保存が禁止されない	別名保存の禁止設定がされていない ・「保護領域に入っているコンテンツの別名保存を禁止する」がOFFになっている ・別名保存禁止の登録リストに登録されていない ・ソフトウェアによっては別名保存機能が停止できない場合があります。
メールでエラーになる	別名保存の禁止をした場合で「別名保存を許可ソフトウェアに限定する」がOFFの場合、メールや他のソフトで保存ができません。この機能をONにすると許可プログラムだけ指定形式の保存を禁止します。 USBメモリを抜いた後にメールの再受信を行って下さい。
特定のプログラムでファイルが開かない	実行を許可するプログラムに登録されていない。→UsbManage「許可ソフトウェアの登録」参照 ソフトの起動時に作業用フォルダを使うソフトは別名保存の禁止機能が働き、中間ファイルなどの生成ができずにエラー表示される事があります。別名保存機能を一時的にOFFにして確認して下さい。
フォーマットを行いたい	フォーマットは不要です。希望する動作ができない場合は、設定に関する事が多くフォーマットとは無関係です。フォーマットは可能ですが注意がありますので製品サポートまでご相談下さい。
コピー＆ペーストができない	UsbManageの保護設定で「クリップボードの禁止」がONになっている。 クリップボードの禁止はWindowsのクリップボード機能を禁止していますので 全ての操作でコピー＆ペーストが動きません 。制限はUSBメモリを取り外すと解除されます。
印刷ができない	印刷禁止を設定している場合は、USBメモリ内のコンテンツ以外でも印刷が禁止されます。許可ソフトウェア設定で登録リストに登録されている場合は、登録されたソフトの印刷が禁止されます。許可ソフトウェアを限定しない設定の場合は全ての印刷が禁止されます。

フォルダやファイルの文字化け

フォルダが“uuuuuu”などになってアクセスできない場合はフォルダ名やファイル名を管理しているインデックス領域が破損した状態です。この場合、以下の方法でフォーマット操作などをおこない復元して下さい。

フォルダ名破損の場合の原因と対応

USBメモリはFAT（File Allocation Table：ファイル・アロケーション・テーブル：ファット）というフォーマット形式で初期化されています。FATではデータ部とインデックス部があります。インデックスは本の目次にあたる情報が保存されています。このインデックスを書き込んでいる最中にUSBメモリを取り外すと、インデックスが破損しフォルダやファイル名が文字化けする事があります。これらの破損が起らないようにUSBメモリの取り外しでは、Windowsの取り外し操作（USBメモリを選択して右クリック→「取り外し」の操作）や付属ソフトのUsbRemove（Usb安全な取り外し）などの利用を推奨しています。UsbRemoveは、WindowsのUSBメモリ取り外し機能呼び出している便利ツールでWindowsの取り外しと同じ処理を行っています。UsbRemoveとUsb安全な取り外しは名前違いの同じソフトウェアです。インデックス破損は書き込み時に発生しやすいので連続してのマス作成は注意が必要です。

USBメモリ取り外しのポイント

USBメモリへのデータ書き込みでは、画面上で書き込みが終わったとしても、実際に書き込みが終了するまで1～2秒程度のタイムラグがあります。アクセスランプがあるモデルでは、アクセスランプが点灯していない事を確認してから取り外しを行って下さい。アクセスランプがないモデルでは、書き込みが終了して直ぐに取り外さずに一呼吸おいて取り外しをお願いします。フォルダやファイルを破損した場合はフォーマットを行うと修復する事ができます。

非表示フォルダのバックアップ

ハイパープラスには、管理用の非表示フォルダ“.cfg”が保存されています。フォーマットを行うと、この“.cfg”フォルダが消えてしまいますので事前にバックアップをとります。複数のUSBメモリを設定している場合は同じバージョンのUSBメモリから取り出す事もできます。管理用の非表示フォルダや保存されているファイルは同じバージョンでは共通です。

もし、破損したUSBメモリの“.cfg”フォルダも破損している場合で同じバージョンのハイパープラスをお持ちでない場合は、ご利用の製品名とUsbStart実行時に表示されているバージョンを当社製品サポート support@abroad-sys.com へご連絡下さい。

非表示フォルダの表示方法

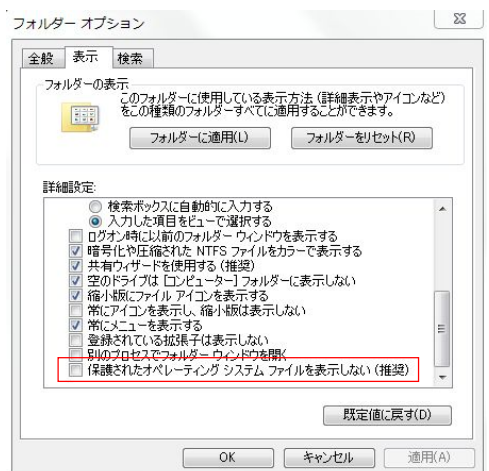
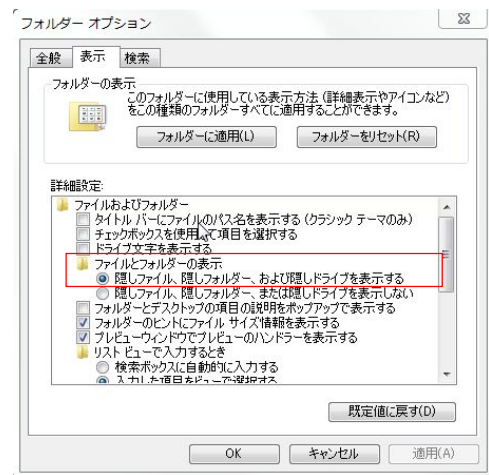
非保護領域、保護領域には管理用のフォルダ“.cfg”フォルダが保存されています。このフォルダには、エラーメッセージや動作に必要な情報が含まれています。通常は見えない状態になっていますので、パソコンの設定で非表示フォルダを見る様に設定変更して下さい。

<非表示フォルダを表示させる操作>

Windowsのファイル操作画面エクスプローラー）メニューより[ツール]→[フォルダオプション]→[表示]タブを選択し、詳細のチェックボックスやラジオボタンで以下の2つの項目の設定を変更します。

- ①「隠しフォルダ、隠しファイルを表示する」にチェックを入れる。
- ②「保護されたオペレーティングシステムを表示しない（推奨）」のチェックを外す。

上記2つの項目を設定すると非表示の“.cfg”フォルダを表示する事ができます。非表示フォルダは薄いアイコンで表示されます。



保護領域のフォーマット

フォーマット操作手順

①管理ソフトUsnManageを使い「禁止設定」タブの2つの項目を解除するP.42

- ・ファイルコピーを許可
- ・書き込みを許可

②「起動設定」タブの暗号化を解除する。P.51

③保護領域に切り替えてフォーマット

UsbStartを実行して保護領域に切り替えUSBを選択して右クリック→フォーマット

※エラーが表示される場合がありますがフォーマットは正しくされています。

④バージョンアップ用の更新ソフトをダウンロードする。
更新ソフトの中にHP7、X、Xフォルダ→DC7.X_ProtectArea
フォルダをUSBの保護領域にコピーします。

更新ソフト

https://www.abroad-sys.com/USB/2004/10_2004.html

又は、<https://www.abroad-sys.com/CG/support/>

初期化作業（フォーマット）

フォーマットは、フォルダやファイル名の文字化けの現象のみの操作で行って下さい。それ以外の理由でのフォーマットは必要ありません。設定がうまくいかない、思うような動作をしない等の理由ではフォーマットは行わないでください。Windowsでのフォーマットは論理フォーマットと呼ばれており完全に初期化できるものではありません。この為、フォーマットを行ってもUsbManageで設定している情報には影響がありません。完全に初期化を行うには、物理フォーマット（ローレベルフォーマット）を行いますが通常は不要な操作でWindowsの標準機能には付属していません。物理フォーマットを行うとお客様側での復元操作はできなくなります。

フォーマット手順

保護領域に切り替えてからフォーマットを行います以下順番で操作を行って下さい。

①保護機能の解除

UsbManageを使い禁止設定を全て解除します。

②UsbStartを実行して保護領域に切り替えます。

③USBメモリ（PROTECT_USB）を選択して右クリック→フォーマットを選択します。

クイックフォーマットのチェックを外して、設定値が右図のようになっているか確認して開始ボタンをクリックします。

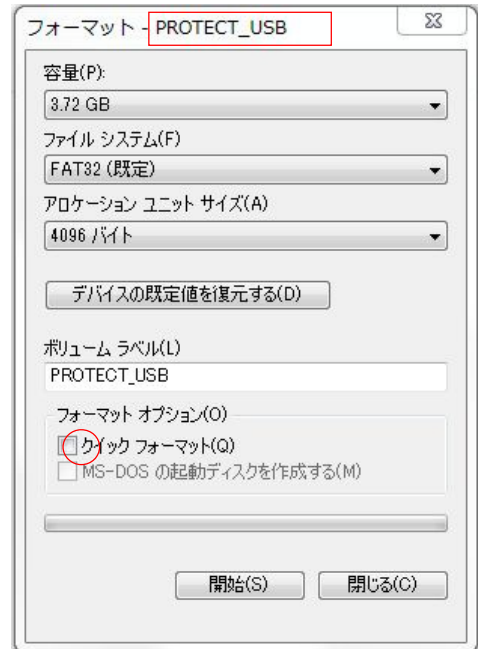
④管理用フォルダの“.cfg”フォルダのバックアップを戻します。
前ページでバックアップしてあった“.cfg”フォルダをコピーで戻せば作業は終了です。

フォーマット形式の選択

USBメモリはフォーマット形式は初期値はexFATです。

フォーマット形式に依存しませんので、FAT32でも動作します。

(FAT32は1ファイル4GBの制限があります)



アロケーション・ユニット・サイズ

通常は“セクタ長さ”と呼ばれている項目です。ファイルはセクタと呼ばれるブロック単位で管理されています。セクタ長さ4096でフォーマットした場合、100バイトデータでも1セクタ消費します。5000バイトのデータの場合は2セクタ消費されます。

小さなファイルが多い場合はセクタ長さを小さく設定します。動画など大きなファイルを保存する場合はセクタ長さを64Kなど大きな値を設定すると読み書きの速度も速く効率よく管理ができます。

※フォーマット終了時にエラーが表示される場合があります。この場合でもフォーマットはされています。

フォーマットで使われる用語と意味

フォーマット形式について

USBメモリはフォーマット形式は初期値はFAT32になります。ハイパープラスは、保護領域、非保護領域共に初期出荷状態ではFAT32フォーマットで出荷されています。ハイパープラスVer4以降は、フォーマット形式に依存しませんので、他のフォーマット形式でも動作します。

FAT32（出荷時）

USBメモリの標準的なフォーマット形式。1ファイル4G以下という制限がありますのでハイビジョン動画などで1ファイルで4G以上のファイルを保存する場合は、exFATなどのフォーマットにする必要があります。FAT32はXP以降のOSは全てサポートされています。

exFAT（1ファイル4GBを超える場合に推奨）

FAT32の容量制限を改善した新しいフォーマット形式です。FAT32の欠点である4G以上のファイル保存にも対応した最新フォーマットです。NTFSよりシンプルでUSBメモリのフォーマットに適しています。欠点は、WindowsXPで利用する場合は、exFATドライバのセットアップが必要です。exFATは汎用性が高くWindows以外のMacやビデオカメラなどパソコン以外でも利用できるのが大容量SDカード（SDXC）などにも採用されています。

USBメモリで1ファイル4G以上のファイルを保存する場合は、exFATでフォーマットを行います。exFATは初期値でアロケーションユニットサイズが32Kバイトになっていますので小さなファイルを保存する場合は非効率です。記録するファイルが大きなファイルがある場合や容量が少ない場合は、アロケーションユニットサイズが大きい方が読み書き速度が上がります。しかし、Jpeg画像等で小さな容量のファイルが多い場合はアロケーションユニットサイズを4K(4096)バイトにしてください。

NTFS

Windows専用で主にHDDやSSDで利用されています。高機能でUSBメモリでも利用ができますが構造体が複雑な為、USBメモリでの利用は推奨していません。

USBをNTFSでフォーマットした場合は、安全な取り外し操作を行って下さい。

※Windows7のNTFS(LFS1.1)とWindows8以降のNTFS(LFS2.0)バージョンが異なり、会社などで両方のパソコンを利用している場合、トラブルが発生する事があります。

※LFS（ログ・ファイル・システム）高速化や省電力を目的としたファイルの管理システム。Windows8以降で改良

された。

NTFSのメリットはXPでも標準でサポートされているので4GBを超えるファイルをXPでも利用する場合は採用される事があります。速度はexFATの方が構造がシンプルな為、早いとされていますが実測ではNTFSとの速度差はありません。

NTFSでのトラブル事例：Windows8/10は“高速スタートアップ”という機能があり、この機能に影響を受けます。USBメモリを挿入した状態でスリープ後に高速復帰できる機能ですが、スリープ中にUSBを取り外し、Windows7で利用後にスリープ中のWindows8/10に戻して電源復帰させるとUSBのインデックス領域が破損し、保存ファイルが読めなくなるという現象です。USBメモリで使う場合はデメリットの方が多く推奨していません。

フォーマットを行う場合の注意事項

フォーマットを行うとハイパープラスの管理情報が消えてしまいますので事前に管理情報のバックアップが必要です。（前頁参照）UsbManageで設定した保護内容はフォーマットなどには影響しません。

※初期化ツールなどを使ったローレベルフォーマットは行わないで下さい。ローレベルフォーマットを行った場合は、お客様側で復元処理はできません。

アロケーション・ユニット・サイズ

アロケーションユニットサイズとは、データを管理するブロックあたりのサイズです。

USBメモリやHDDでは、ブロック（箱番号）で管理されています。フォーマットではブロック単位のサイズを指定します。初期値では1ブロックで4096バイト（4K）です。小さなテキストファイルで100文字程度のファイルでも記憶容量としては1ブロックの4K（4096）バイト分が消費されます。

5000文字の場合は2ブロックの8Kが使われます。逆に映像データなど大きなデータを保存する場合は、64Kなどの大きなブロックの方が管理個数が減るので書き込み速度が速くなったり管理データ部も減るので効率的になります。

ハードディスクで表示されていた容量とUSBメモリへ保存したときに必要な容量に差がある場合があります。これは、フォーマット種類の違いやアロケーション・ユニット・サイズの違いによるものです。

USBメモリが急に認識しなくなった

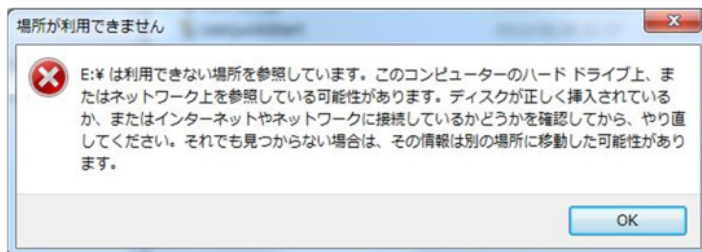
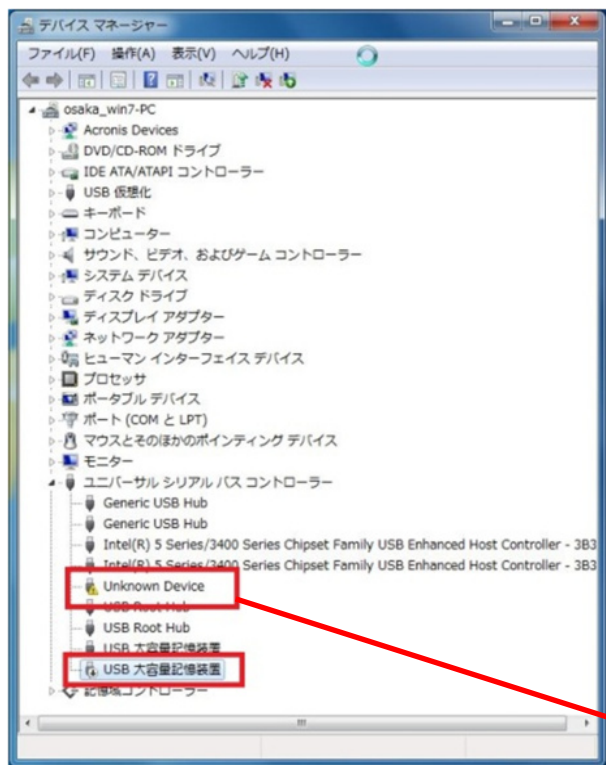
USBメモリの抜き差しを繰り返していると、タイミングによりWindowsのデバイスマネージャーで一時停止をされUSBメモリが認識されない場合があります。

この場合は、認識しないUSBメモリをパソコンに差し込んだ状態でデバイスマネージャーを確認します。黄色のアイコンが表示されている場合は、停止しています。この場合、黄色のアイコンを右クリック→プロパティ→「デバイスを有効にする」をクリックすると再開します。

この現象の確認

- ①特定のパソコンのみUSBメモリを挿入しても何も反応しない。
- ②他のUSBメモリは正常に利用できる。
- ③該当のUSBメモリは他のパソコンでは利用ができる。
- ④以前は利用ができていた。

上記の場合は、特定のUSBメモリがWindowsにより停止されています。



デバイスマネージャーの起動

マイコンピュータ→右クリック→プロパティ→ハードウェア→デバイスマネージャーを選択します。正しくセットアップされていない場合は黄色のマークがされています。右クリックメニューより削除後、USBメモリをもう一度挿入します。

※Windows8以上の場合はWindowsキーとXを同時に押すとデバイスマネージャーを選択できます。

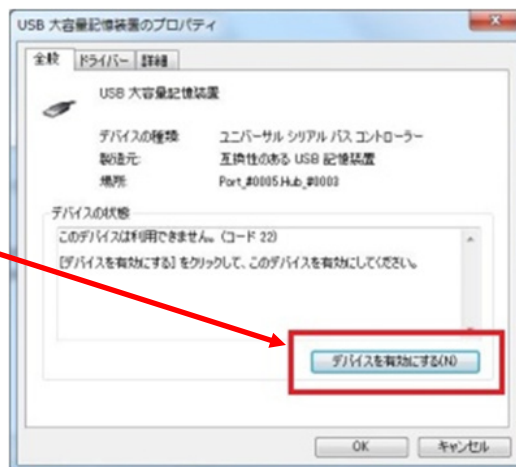
原因

①USBメモリを取り外す際に安全な取り外し操作を行わなかった。

タイミングによりWindowsのデバイスマネージャーがファイルの破損を防ぐ意味でUSBメモリの利用を停止している場合があります。プロパティで再開ボタンをクリックすると復帰します。

②はじめて、対象のUSBメモリを使ったときにWindowsが大容量ドライバの設定を行います。関係ドライバは3～4つ程度セットアップされますが、セットアップ途中でUSBメモリを取り外してしまうとこの現象になります。

この場合は、黄色になっているデバイスマネージャーを削除して、もう一度USBメモリを挿入すると再セットアップされます。→次ページへ。



USBメモリが急に認識しなくなった

USBメモリのドライバセットアップで失敗

パソコンにUSBメモリを挿入すると初めてのUSBメモリの場合は、USBメモリの大容量記憶装置ドライバがセットアップされます。このセットアップ作業中が失敗しているとUSBメモリが認識しません。

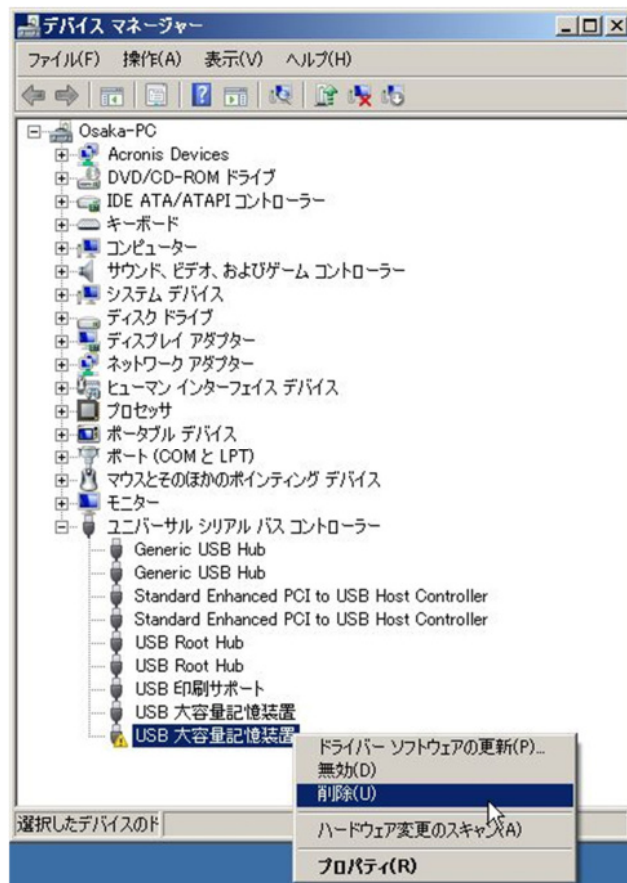
ドライバとはパソコンに接続する全ての機器に必要な、機器を個別に制御する為の管理ソフトです。USBメモリやマウス、キーボードなどはWindows標準ドライバが自動セットアップされてから利用する事ができます。削除しても再度セットアップされます。

USBメモリのドライバは1つではなく複数セットアップされます。通常は2～3つの程度のドライバがセットアップされますが、バックアップソフトなどを使っている場合は更に追加される場合があります。複数のドライバがセットアップされる場合、セットアップ中にUSBメモリが抜かれると完全にセットアップが完了されない為、デバイスマネージャーで停止されている場合があります。この場合は、デバイスマネージャーを開き、該当のドライバが黄色のマークがついていますので削除して下さい。削除した状態でUSBメモリを再挿入するとドライバが再セットアップされます。

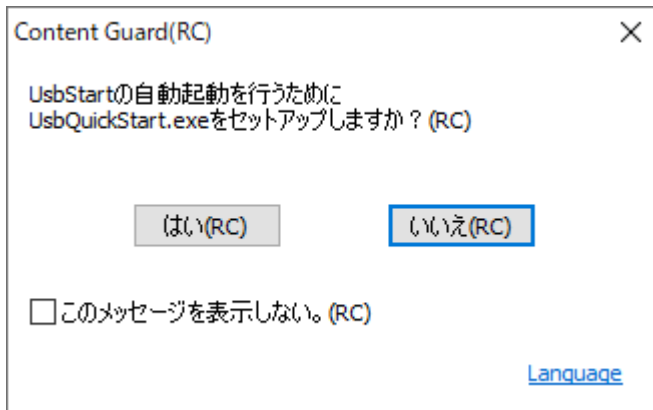
セットアップにかかる時間はパソコン性能やWindowsバージョンによって変わる。

USBメモリのドライバは個体ごとにセットアップされますので、同じ種類のUSBメモリを使っても個体が違えば毎回セットアップされます。

このセットアップ時間は新しいOS程短くなります。例えばXPパソコンの場合は30秒～1分程度かかりますがWindows7では10秒程度、Windows8やWindows10では2～3秒程度でセットアップされます。



エラーメッセージに(RC)が表示される



エラーメッセージや画面の表記に(RC)が表示されている場合は、USBメモリに保存されている言語表示ファイルが読み込めない場合です。USBのシステムフォルダが消えている。又は、ファイル破損があり読み込めない場合です。更新などでバージョン情報が確認できない場合も同じ原因です。

この場合は、システムの環境ファイルをダウンロードして上書きすると修復でいますが、言語設定ファイルがも読めない状況は他のシステムファイルが読めなくなっている可能性があります。USBの破損検査を行ってから操作を行います。

操作 1. USBの破損検査

USBに対してWindowsのチェックディスクコマンドで修復検査を行います。破損があった場合は同時に修復されます。

①Windows Power Shellの起動

該当のUSBを挿入して、左下のWindowsスタートアイコンを右クリックして” Windows Power Shell” を選択します。

②キーボード操作でコマンドの入力

Windows Power Shellが起動すると濃紺のウィンドウが表示されます。マウスで画面を1回クリックして前画面にカーソル点灯を確認します。キーボードより以下のコマンドを入力します。(仮にUSBドライブがE:ドライブとして説明します。ドライブ名はパソコンやUSB差込口で変わります。)

chkdsk E: /F

※英数半角で入力。大文字・小文字不問、スペースは半角で1文字以上空けてください。上記はE:ドライブを検査して破損が見つかったら修復 (/F) するという命令です。

「問題は見つかりません」または「修復されました」のどちらかが表示されます。

→次頁へ続く



USBの破損

USBアクセス中にUSBを抜いてしまうとタイミングにより保存されているファイルの破損が発生します。特に書き込み中または書き込みの最後のタイミングでUSBが抜かれるとファイルを管理しているインデックス情報書き込まれないまたは、不完全で記録される事があり全ファイルが読めなくなる場合もあります。chkdskはこの状態を調べて、インデックス情報の再構築を行います。取り外す時は、USBの赤のアクセスランプが点灯してない事を確認したり、USBの安全な取り外し操作をお願いします。

エラーメッセージに(RC)が表示される

操作2. パソコンの表示設定を変更する。 (非表示フォルダを見える様にする)

修復するフォルダで“.cfg”フォルダがありますが、削除されると動作ができなくなりますので非表示設定されています。通常は表示されていないので、パソコンの表示設定を変更して見える様にします。

エクスプローラ表示オプションの変更

以下の2か所を変更すると表示フォルダや非表示ファイルが見えるようになります。

オプション→表示オプションタブ

- ①「隠しフォルダ、隠しファイル、おおよび隠しドライブを表示する」にチェックを入れる。
- ②一番最後の項目「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない(推奨)」のチェックを外す。

詳しくは P.71 「非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

操作3. システムファイルのダウンロード

http://www.abroad-sys.com/USB/HP7.X.X_NON_ProtectArea.zip

(XXはリビジョン番号が入ります)

HP7.X.X_NON_ProtectArea.zipがダウンロードできたらZIPファイルを解凍して下さい。

※上記のバージョンはハイパープラスVer7.XXです。support@abroad-sys.com に適用の可否や最終バージョンかどうかを確認して下さい。

解凍したHP7.X.X_NON_ProtectAreaフォルダ

“.cfg” フォルダ

UsbStart.exe ファイル

“setup” フォルダ

(RC)のエラーは上記の“.cfg”フォルダが読めなくなっている場合に発生します。USBへ“UsbStart.exe”と“.cfg”フォルダの2つを上書きすると改善します。

“UsbStart.exe”と“.cfg”フォルダは対になっています。必ず一緒にコピーして下さい。

※書き込みができない場合：USBが空き容量がゼロになっている場合は、上書きができません。USBにある“.cfg”フォルダやUsbStart.exeを削除してから上記の2つをUSBへコピーして下さい。

※“.cfg”が見えない場合はP.71 「非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

●他のUSBへバージョン情報をコピーする

古いUSBが破損した場合、上記の方法で新しいバージョンへ更新すると改善されますが、複数のUSBを使っている場合は、他のUSBも同じバージョンにする事を推奨しています。バージョンアップは、個別にする方法もありますが、管理ソフトUsbManageの設定コピー機能を使うと便利です。設定コピー機能は、USBを2本差しの状態でシステムファイルや設定情報を転送する機能です。

詳しくは P.40 「同じ設定のUSBを作る」を参照して下さい。

ウィルスセキュリティソフトの誤検知

セキュリティ対策ソフトでファイルが削除される

お使いのウィルスセキュリティソフトによっては、本USBメモリのシステムファイルが削除されたり本システムの動作を抑制される場合があります。

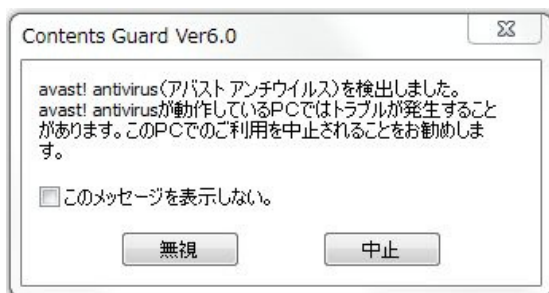
ウィルスセキュリティソフトには、ウィルスパターンでの検知方法と「ふるまい検知」と呼ばれるウィルス特有の動作を検知する機能があります。ふるまい検知はベンダーによっては「ヒューリスティック分析」や「ジェネリック検知」と呼んでいる場合もあります。「ふるまい検知」の精度を高くしている場合や自動更新される更新パターンのミスで本USBメモリの付属ソフトがウィルスセキュリティソフトで誤検知され削除される事があります。

誤検知で附属ソフトのUsbStartなどのソフトが削除される場合、当社側から対象のウィルスセキュリティソフトメーカーに誤検知の報告を致します。当社からの報告が受理されると次回ウィルスセキュリティの更新処理で反映され誤検知が修正されます。もし、ファイルが消えてしまう事がありましたら当サポートまでご連絡下さい。申請が反映されるまでは、ウィルスセキュリティソフトを一時停止してご利用下さい。

セキュリティソフトでの不具合(Avast)

セキュリティソフトのAvast（有料版）での障害が報告されています。Avastでも正しくお使いの場合はご利用になれますが、重大なトラブルの可能性があるので、当社では推奨しておらず製品バージョンVer5.0以降でAvast警告を表示しています。

当社で把握している現象は検査時間が長い（15秒）、ミス操作を誘導しやすい（検査中にUSBメモリをはずすとファイルが消える）、他社製の何らかのソフトとの組み合わせでブルーバックスクリーンになりフリーズする等の報告があります。



Avast警告

AvastをセットアップしているパソコンではUsbStart実行時に警告メッセージを表示しています。

検証バージョン:Avast!アンチウイルス、Avastプレミアム
AvastでUSBメモリ内のプログラムを実行する場合、仮想空間(avastSANDBOXフォルダ)に移動され仮実行し検査が終わると復元される動きがあります。初期値では「**アバスト ディープスクリーン**」という機能が有効になっています。毎回、15秒程度検査時間がかかりますが終わるまではクリック操作等は行わないで下さい。

〈現象〉 処理中に処理を止めるとファイルが消える又は名前が復元されていない等の現象になる。

UsbStartやUsb安全な取り外し(UsbRemove)を実行するとブルーバックでフリーズする等の報告があります。（当社では確認はできておりません）Avastに関しての**情報はネット検索で“avast ブルースクリーン”などのキーワードで検索**を行って下さい。

※当社で検証を行っているavastは2015年版ですが障害は過去バージョンでも確認しています。2014年など旧バージョンのavastをご利用の場合は、誤操作でトラブルになりやすいので2015年度版など新しいバージョンに更新して下さい。

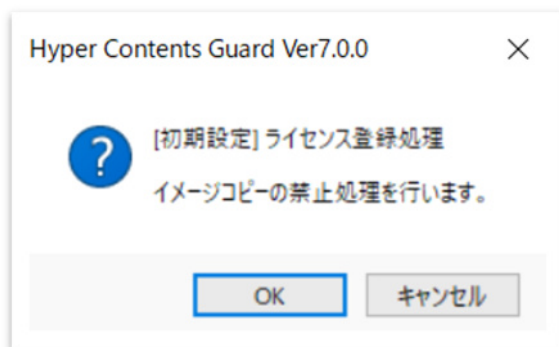
McAfee マカフィー 2017/10以降

期限切れのマカフィーをご利用の場合、2017/10以降に公開されたWindows10のWindows Updateを適用するとパソコンが不安定になりUsbStartでエラーが発生する事を確認しています。この問題は、旧McAfeeがレジスタードライバ（古い手法で作られている）という方法で作られていたためWindows10 バージョン1703（Creators Update）以降に対応していない事が原因です。多くの場合、パソコン購入時に付属していたMcAfee が期限切れになっており、そのままの状態でご利用されている事で発生しています。ライセンス期間が残っているMcAfee マカフィーをご利用の場合は2017/8月後半に対応版に更新されていますのでこの問題は発生していません。

期限切れのセキュリティソフトは、セキュリティ更新がされずに新しいウィルスを検知できません。**逆に悪影響がありますのでアンインストールをするかライセンスを購入して最新版にバージョンアップして下さい。**

セキュリティソフトをアンインストールした場合は、マイクロソフト社製のセキュリティソフトであるWindows Defenderに切り替わります。無料で利用できるライセンス期限もない事、誤検知が少ないので推奨しています。

ライセンス登録操作画面



初回UsbStartを実行した時にライセンス登録処理の画面が表示される場合は[OK]ボタンをクリックして下さい。ライセンス登録は、USB個体単位に対して行われます。多くの場合、この画面は表示されませんがUSBの利用登録がされていない場合は表示されます。表示された場合はOKをクリックして先に進んで下さい。キャンセルした場合は、[OK]がクリックされるまで毎回表示されます。

ライセンス登録は出荷履歴を管理する為や個体承認の開始に必要です。OKをクリックするとインターネット経由で出荷履歴が登録されます。

※この画面はOEM契約でUSBデュプリケーターで大量生産を行いたい場合やカスタマイズ製品等で表示される場合があります。

デバイス更新エラー

UsbStartを実行したときに、保護領域が表示できない場合「デバイス更新エラー」が表示される事があります。この場合は、手動切り替え画面が表示されますので指示に従って下さい。デバイス更新エラーが表示されるのは、非保護領域と保護領域の切り替え動作が遅かった場合に表示されます。

■デバイス更新エラーについて

UsbStartを実行したときに保護領域を表示する為に、USBメモリの取り外しと再挿入をソフト的にを行っています。一定時間がたってもソフト的な取り外しができなかった場合にデバイス更新エラーが表示されます。



■デバイスの更新エラーの原因

USBメモリのソフト的な取り外しに時間がかかっている場合に表示されます。原因はご利用パソコンによって様々で特定した原因はありません。一例ではパソコン側のUSBホストコントローラの問題やはじめてUSBメモリをパソコンにUSBメモリを挿入した場合、USBメモリ個体単位でドライバセッアップが行われます。この動作が完了していない場合にも表示されます。また、セキュリティソフトや仮想OS等の他のソフトウェアの影響でUSBメモリの動作が遅い場合に発生します。ハードウェアが原因ではない場合、2回目以降はデバイス更新エラーが表示されない場合もあります。

■デバイス更新エラーの対応



エラーが表示される場合は、ソフト的にUSBメモリの取り外しができないので手動でUSBメモ

リの取り外しを行って下さい。取り外しは画面の指示に従って下さい。



上記の画面が表示されたら「OK」をクリックしてください。

他のソフトの影響など原因がわかっている場合は、「キャンセル」をクリックして影響を与えているソフト終了させてからUsbStar実行して下さい。



手動切り替えを選択した場合は、「USBメモリを取り外して下さい」のメッセージが表示されます。

上記のメッセージが表示されましたらUSBメモリを抜いて下さい。

すぐに「USBメモリを接続して下さい。」のメッセージが表示されますので取り外したUSBメモリを再挿入して下さい。

手動切り替えが毎回表示される場合は、ハードウェアの問題があります。影響を与えている原因が他のソフトウェアが原因の場合は該当ソフトのバージョンアップやパソコン側のUSBホストコントローラが原因の場合はファームウェア更新で改善する事があります。

Macでの利用

本製品はWindowsで動作するように設計されていますのでWindows以外のOSでは動作しません。

MacにWindowsをセットアップすると本製品をご利用可能です。

Intel版のMacにはWindowsをセットアップできるBootCamp（ブートキャンプ）という仕組みがあり、切り替えてMacOSとWindowsを利用する事ができます。※WindowsはIntel社製のCPUのOSです。M1 マックはCPUが異なりWindowsは動作しません。

また、Parallels Desktop（パラレルズ デスクトップ）等の仮想OSの利用するとMacOS内でWindowsを動かす事ができます。

- MacにWindowsをセットアップすると利用可能
- MacでWindowsを動かす場合は標準のBootCampを使う方法とParallels Desktop を使う方法がある
- Windowsが動作できるのはIntel版マックのみ。M1マックはWindowsが動作しません。
- Windows11は原則Mac未対応（PC本体にTPM2.0のセキュリティーチップが必要）Parallels で仮想TPM2.0がサポートされる可能性があります。

■BootCamp（ブートキャンプ）

Boot Camp を使って、Mac に Windows 10 をインストールし、Mac を再起動する際に macOS と Windows を切り替えることができます。この場合は、純粋なWindowsとしてご利用がサポートも受ける事ができます。

■仮想OS（サポート対象外）

パラレルズ社のParallels Desktop for Mac を利用するとMacOSとWindowsを同時に起動できます。

1台のMacでMacOSとWindowsを起動した場合、主メモリが8G以上(16GB推奨)が必要です。
また、USBメモリ内のファイルを開くソフトはWindows側にセットアップする必要があります。
例えば、USBメモリのコンテンツがパワーポイントやExcelの場合、Mac側のOfficeでは開く事ができません。Windows側にOfficeをセットアップする必要があります。
USBメモリを初めて挿入した場合、Mac側で認識するかWindows側で認識するか決める必要あります。この場合、Mac側で認識させるとWindowsでは認識できなくなりますので、必ずWindowsで認識させるようにしてください。

Macの仮想OSソフトはParallels社以外に VMware Fusion（VMware, inc） /

Virtual BoX（Oracle）があります。

※仮想OSでトラブルの場合、問題特定が困難なので製品サポートを提供していません。このため、各仮想OSバージョンの検証確認を行っておりません。

●Mac対応が必要な場合

クローンブロッカーというUSBメモリ製品が対応しています。クローンブロッカーはコピーガードの仕組みがありWindows/Mac/Android/iOSに対応しています。ただし、動画や写真など対応コンテンツの種類に違いがあります。本製品はファイル形式は概ね対応していますが、Windows専用になります。

フラッシュメモリの寿命

ハイパープラスはフラッシュメモリという部品が使われています。フラッシュメモリは、USBメモリやSDカードなどでも使われており、スマートフォンやタブレットの記憶装置として広く使われています。

フラッシュメモリは、データ保持期間や書き換え回数に寿命があり無限ではありません。ご紹介するフラッシュメモリの寿命は一般的なUSBメモリの寿命に関する情報です。書き換え回数が少ないと寿命が長くなるとされていますので、閲覧専用のハイパープラスUSBメモリは書き込みが少ないので寿命は長くなります。

■寿命は正確にはわからない

フラッシュメモリメーカーから個々の正確な製品寿命値の値が公表されていません。また、メモリは利用状況や生産ロットによる差がある事や利用状況によって差が大きすぎる為、正確な寿命利用回数や年数といった値はわかりません。

■データの保持期間

フラッシュメモリはデータ保持に電力を使いませんので長期間にデータを記録できますが無限にデータを保持できるわけではありません。データ保持期間は利用状況や保管温度などの利用環境にも影響されますが約10年～数十年とされており、いつかは失われます。また、書き換え回数が多い場合は、データ保持期間も短くなります。データ書き込みが少ないハイパープラスUSBメモリはこの点において有利です。

■フラッシュメモリのエラー

フラッシュメモリが寿命などでエラーが増える場合は、メモリ容量全体が使えなくなる状態ではありません。

もし、全体が使えなくなっている場合は、パソコン側の問題で一時的に利用できなくなっていたり、静電気や水没での回路ショートなど物理的な破損でフラッシュメモリの寿命とは無関係です。ただし、書き込みを激しく行うソフトウェアの利用などはフラッシュメモリの消耗を早め短期間で寿命に達し全体が読めなくなる事があります。

フラッシュメモリが寿命に近づいている場合、

記憶素子の1つづつが読み込み不良になり徐々にエラーが増える状態になります。例えば、ある1つの写真やPDFが途中から切れてしまう現象があり、他のファイルはその時点では問題なく表示できますが時間の経過とともに読めなくなるファイルが少しずつ増えるという現象になります。

■書き換え回数

USBメモリには上書きして書き換える事ができ何度も利用ができます。繰り返しの書き換え回数には寿命があります。条件により1,000～1万回程度になりますがこれは実用的には十分な回数です。新規に書き込む「書き込み回数」ではなく、削除や上書きして書き換える「書き換え回数」です。フラッシュメモリには分散書き込み機能が備わっており、同じ箇所に記録が集中しないようになっています。(※2)

例えば、4Gのメモリに1Gのデータを4回書き込んだ場合は、書き込み数は1回としてカウントします。この計算ですと1,000回の寿命は、記憶容量4GのUSBメモリに毎日、記憶容量いっぱい4Gのデータを書き込んだ場合に約3年で寿命に達するという計算になります。

同じデーターを容量が2倍の8GのUSBメモリに書き込んだ場合は、寿命も倍の6年になる計算です。

バックアップなど毎日大量データを書き込みする用途には適していませんが一般的な利用では、容量いっぱい書き込みをする事はありませんので実用的には十分です。同じファイル名を上書きした場合、空き容量がある場合は、書き換えではなく新規の追記書き込みになります。この動作は採用しているUSBコントローラチップによっても違いがあります。

■コンテンツカードUSBメモリの寿命

ハイパープラスUSBメモリは、閲覧専用で書き込み回数が少ない為、通常の場合1,000回の寿命に達する事はありません。

ただし、中間ファイルを多く使う科学計算ソフトやWindowsのキャッシュ機能であるReadyBoostは寿命を極端に短くする為、USBメモリを消耗品と割り切った使い方になります。

※1) Windows ReadyBoost(ウィンドウズ レディブースト)は、Windows Vista以降の機能の一つ。フラッシュメモリなどの外部メモリーを、キャッシュとして利用することで、ソフトウェアなどの読み込みを高速化する機能のこと。Windows ReadyBoostはメモリ寿命を極端に縮めるのでUSBメモリは消耗品としての利用となります。ハイパープラスUSBメモリはReadyBoostやキャッシュ目的の利用はできません。※これらの使い方は保証対象外になります。

※2) 分散書き込みは不要ハードディスクにはデフラグという処理があります。1つのデータが分散して書き込まれると回転しているディスクでは読み込みが遅くなってしまうので整列させる為の機能です。USBメモリに関してはデフラグは不要です。回転をしていない事とデフラグを行っても分散書き込み機能がある為効果はありません。また、書き込み回数を発生させるだけで寿命が短くなるだけです。

フラッシュメモリの寿命

■読み取り回数

読み取り回数には公表値がなく制限は設定されてはいませんが、接続端子部の磨耗やUSB筐体の耐久回数の目安として抜き差し回数10,000回としています。

これらの寿命に対する値は、実際にはメモリのタイプ（種類）や製造ロットの問題、利用環境に大きく左右され固体によって違いがある為、目安という事でご理解ください。

メモリの種類 SLC/MLC/TCL

フラッシュメモリには3つの種類があり寿命に関係します。ただし、各タイプで品質やエラー補正機構などが日々改善されていますので一概に品質を確定できるものではありません。

■SLC

フラッシュメモリはデータを1ビット単位で記録する記録素子が使われています。最初に開発されたフラッシュメモリでは1ビット記録するのに1素子が使われていました。この1素子の単位をセルといいます。このタイプのメモリはSLC（シングル・レベル・セル：Single Level Cell）といい寿命が長く高品質です。

現在のMLC/TLCと比べ10倍以上の価格差があり、現在のUSBメモリでは使われていません。出始めのUSBメモリが容量が少なく高価だった理由はSLCが採用されていたからです。

■MLC/TLC

現在、主流なタイプは1素子に複数ビットを記録できるMLC（※1）というメモリです。最近では1素子に3ビットを記録できるTLC（※2）というメモリが主流です。

同じ面積に沢山の情報を記録できるという事は、フラッシュメモリの低価格化に大きく影響しています。低価格で普及が進み大量生産で更に価格が安くなっています。ただし、高かった時代のSLCメモリと安くなった最近のTLCメモリでは同じ物ではなく耐久性には違いがあります。

現在、一番小さな容量は8Gになります。8G以下のメモリは8Gのメモリを工場出荷段階で小さな容量として設定され出荷されます。ハードウェア

的には同じものです。（※3）

この為、4Gと8Gのメモリではあまり価格差がありません。価格差が小さな場合は、分散書き込み機能により容量の大きな方が寿命が延びる傾向にありますので大きな容量の方がメリットが大きくなります。

年々メモリ自体の品質の向上や補正機構の向上でエラーに対する状況が改善されています。このため、最近ではTLCが主流になっており価格面で不利なMLCの流通量が少なくなっています。

ハイパープラスUSBメモリ

4G/8G/16G	MLC
32G/64G	TLC

■寿命に関する補足情報

製品寿命が正確にはわからない事は、利用方法や利用環境の影響以外に、日々改良されているフラッシュメモリの開発速度にもより変わります。明らかに品質が劣っていた数年前のTLCと品質が良くなった最近の寿命公表値が同じです。

公開されている情報は特定の実験環境での値なので実際の利用環境ではありませんが目安としては使えます。これらの状況で寿命に関する情報は不明で正確にお伝えできる事が出来ておりません。

デジタルコンテンツの販売を考えられている方へ 名入れとパッケージ



コンテンツの販売

.....

デジタルコンテンツを販売する方へ

ハイパープラスUSBメモリは、情報漏えい防止の目的以外に有料コンテンツを販売する事ができます。個体承認方式のハイパープラスUSBメモリは、サーバー承認などを必要としないデジタルコンテンツの著作権保護ツールです。ハイパープラスUSBメモリにデジタルコンテンツを入れて販売する場合は名入れやパッケージングを行い商品価値を高める事ができます。

■コンテンツとは

コンテンツとは、内容や中身の意味します。文書、映像、音楽、プログラムなどのファイル等はデジタルコンテンツと呼ばれています。コンテンツを作成するにもコストがかかりますがコピーができる為、採算分岐点を超えると利益率が高いというメリットがあります。

刷る事ができます。USBメモリへのロゴ、社名などの印刷は「**名入れ**」と呼んでいます。名入れは他には無いオリジナルコンテンツという事をアピールし、企業ブランドや商品価値を高めます。

■プリスターパック

プリスターパックとは、透明なプラスチックシートを真空成型で品物の形状に包み込むような形状で作られる包装パッケージの一つです。プリスターとは“水ぶくれ”の意味で薬の個別包装などでよく使われています。安価で商品を衝撃や傷などから守ることができます。

■名入れとは

USBメモリの外装ケース（筐体：きょうたい）は金属製またはプラスチック製です。紙以外の印刷になりますので、特殊な印刷が必要です。

■レーザーマーキング

ハイパープラスUSBメモリの外装ケース（筐体）は、アルミ製とプラスチック製があります。アルミ製の場合は、レーザーマーキングで刻印を行います。レーザーマーキングとは着色や防汚加工をするためにアルミにアルマイト加工をしています。このアルマイトを熱で剥がす（焦がす）方法でマーキングを行うものです。版が不要で小ロット印刷に適しています。色は白1色になります。データは2階調の黒100% (RGB:#000000)にしか反応しませんので、カラーやグレー階調は印刷する事ができません。

■違法な海賊版対策

デジタルデータはコピーが簡単で海賊版を作りやすく商品価値を下げて機械損失につながります。

オークションなどでは、コンテンツの共同購入という名目やシアー販売、ソフトの中古販売という事で悪質な海賊版が販売されています。コピーガードをかけて販売したり会員サービスや紙の資料などをつけるなど、海賊版対策も必要です。

■デジタルコンテンツの製品価値を高める

映像やドキュメントなどのデジタルコンテンツは、情報なので形がなく物理的なものではありません。手渡しすることもできず販売するには面倒です。ダウンロード販売やストリーミング放送といった方法では、オンラインでのDRM（デジタル著作権管理）の仕組みが必要で維持管理にもランニングコストが発生します。高額コンテンツの場合は、メディアで所有したいというニーズもあります。

ハイパープラスUSBメモリは、物理的なメディアとして以外に有料コンテンツ販売の為のコピーガード機能やパッケージ化や名入れサービスを提供しています。

USBメモリケースにはロゴや社名、製品名を印

※1）ネット共有ソフト
Napsta/Gnutella/
WinMX/BitTorrent/
Winnyなどのフリーソフトを使うと、同じソフトをもっているパソコン同士でファイル共有が行われます。

動画、写真、音楽、ソフトウェアなど著作権を無視した違法コンテンツがインターネット上に流れています。ユーザー数が多いため、一度拡散してしまうと削除する事ができません。日本では海賊版コンテンツのダウンロード行為は禁止されており違法です。

ハイパープラスUSBメモリでは、ネット共有ソフト対策がとられており解除する事はできません。



コンテンツの販売

.....

USBケースへのマーキング（名入れ）

レーザーマーキングはインクを使っていませんので揮発性のクリナーでも刻印がきえないというメリットがあります。短納期対応やシリアル番号印刷も可能です。

定色の緑色のインクを作ってペイントしますが、インクジェット方式では黄色50%、青50%の細かな粒点を塗り色を表現します。

■溶剤系インクジェット印刷

プラスチック製の筐体の場合は、溶剤系（ソルベント）のインクジェット印刷を行います。メリットとしては数十本単位の小ロット印刷が可能な事、製版が不要、短納期対応、シリアル番号を印刷できる事です。デメリットとしては、溶剤系のインクジェット印刷ではカラー印刷ができますが4色印刷なのでカンパニーカラーのような厳密な色指定には対応できません。有機溶剤を含んだクリーナーで色落ちする事があります。金属にも印刷は可能ですがUSBメモリの場合は、表面に傷や汚れがつかないようにアルマイト加工を行っており定着性が悪いのでインクジェット印刷は適していません。

■シルク印刷

シルク印刷は、主に紙以外のプラスチックや金属などに文字などを印刷する方法で広く使われています。シルク印刷は、固定治具の作成や色ごとにシルク版が必要なので初期費用が発生します。この為、小ロットには適しておらず1000本以上の比較的大きなロットの印刷に適しています。納期は2～3週間程度かかります。

色ごとに版が必要なので写真などのフルカラーも不得意ですが、メリットとしてはDIC指定などの厳密な色指定ができる事、大量の場合はコストが安くなる事、溶剤系インクジェットよりインク強度がありマーキングが落ちずらい事です。溶剤系インクジェットでは、製版が不要ですがあらかじめ決まっている4色（CMYK）で重ね塗り印刷を行いますので、写真などはきれいに発色できますが、企業ロゴなど厳密な色指定はできません。

例えば、緑色を表現する場合、シルク印刷では指



コンテンツの販売

生産時のコンテンツコピー

■生産時のコンテンツコピー

ハイパープラスUSBメモリは、製品の特長であるコピーガード機能があり保護領域側のコピーを行う事ができません。同じものを作る場合は、コピー禁止を解除してからコピーを行い1本づつ禁止設定を行って下さい。大量の作成が必要な場合は、工場出荷段階で設定と指定コンテンツを入れて出荷依頼をします。

手作業で1本づつ同じコンテンツを入れて同じ設定を行うのは20本以下が推奨数です。20本以上の場合やファイル数が多い場合はミスが発生する確率が高くなりますので推奨していません。手作業でファイルコピーをした場合は、完全にファイル書き込みを終了させる為に完全に書き込みが終わった段階でも、アクセスランプがあるUSBメモリの場合はアクセスランプ点灯がない事を確認するか一呼吸置いてから取り外しを行って下さい。

コンテンツコピーは専用のコピーツール（SaftyCopy）のご利用か工場でのコンテンツを入れた状態での出荷サービスをご依頼下さい。工場でする前にコンテンツを入れる作業にはボリュームコピーの禁止前段階で専用の機械で複製と検査が自動的に行われます（有料オプション）。手作業より効率的で時間が短縮できる、費用が安くなるメリットがあります。機械での複製作業が終わった段階で1本づつの検査とライセンス登録作業を行い出荷されます。

※コンテンツを入れて出荷する場合は有料になります。

※SaftyCopyは標準付属ソフトではありません。

大量のファイルをコピーする場合は正しくコピーされているかどうかの補償がありません。実際一度に1000ファイル以上など大量にコピーを行った場合はコピーでファイル破損が見受けられる場合があります。CD/DVDのライティングソフトでは、ベリファイやコンペアといった書き込み検証機能がありますが、USBメモリに対しては利用できません。

フリーソフトなどのファイルコピー専用のソフトでは、ベリファイなどの検証機能がありますので、これらのツールを利用する方法もあります。Windowsではコマンドラインでのファイル比較は可能ですが、ハイパープラスUSBメモリの場合、コマンドラインで実行する機能は排除されますのでWindows標準機能での比較検査はできません。

※1)巡回冗長検査

Windowsのファイルコピーでは、巡回冗長検査（CRCチェック）という検査が行われます。CRCチェックでは、不良セクターなどの物理的に書き込みができなかった場合の検査は行われています。ハイパープラスUSBメモリは、出荷時の検査で不良セクターの検出は行っておりますのでCRCエラーになるような事例は過去ありません。

■Windowsのコピー&ベリファイ

Windowsのコピーは検証機能（ベリファイ）がありません。（※1）



コンテンツの販売

.....

利用事例

■USBメモリでのコンテンツ販売メリット

- ・1本でも設定可能なので小ロット生産が可能
- ・大容量コンテンツでも1本のUSBに入れて持ち運べます。
- ・コンテンツを選ばない。ソフトウェアからデータコンテンツまで幅広い対応

■教材（映像、音声）

MP4やWMVといった映像コンテンツをそのまま配布できます。

音声データの配布にはMP3等の形式も配布可能です。オンラインでのストリーミング配信を行っている場合でも脱退会員に映像コンテンツを提供できるケースで利用されています。

■プログラムとスクリプトファイル

プログラム配布では、セットアップなしですぐに利用できる事がメリットです。また、複数パソコンでの利用やライセンス管理も不要でパソコン買い替えでもUSBを差し替えるだけです。

オンラインの著作権管理では、1人が複数のパソコンを利用しているのか？複数人で利用するのかを判断する事ができません。

物理的に配布できるUSBメモリは、ライセンス管理がシンプルでわかりやすいのがメリットです。

■商品カタログの配布

PDFやHTML、JPEGファイルなどで作られる商品カタログの配布で利用されます。大量な写真や商品情報などは、ネット流出や同業者への流出などは避けたいものです。ハイパープラスUSBメモリへ保存するだけでコピーガードを付けた状態で配布する事ができます。USBメモリですので書き換え可能で新製品の追加や差し替えなども可能です。

USBメモリならノートブックパソコンなどCDドライブをもっていないパソコンでも閲覧できます。

■設計図などの配布

生産工場への設計図や指示書、保守マニュアル、設計図の配布に利用されます。例えば、造船など大型の製造物でゼネコン構造で関係業者が多く国籍や派遣登用などが管理できない場合が増えています。近年、設計図や保守マニュアルは電子化されておりコピーが簡単です。

ホームページ作成で使われているHTMLの基になっているSGMLやXMLなどは元々、航空機や軍事で利用される保守マニュアル用の電子文書からはじまっています。従来は膨大な紙資料でしたので物理的な持ち出しは、逆に管理ができましたが、最近ではPDFなどで電子化がすすみUSBメモリに大量データをコピーできるので機密性を保持するのが難しくなっています。ハイパープラスUSBメモリは、色々なコンテンツに対応できるので保守マニュアルの配布には最適です。

■社内用途、作業マニュアル

業務用の作業マニュアルを配布する場合に利用されません。

社員教育用ビデオ、惣菜チェーンの動画レシピ、営業マニュアルなどノウハウが詰まった社内用の資料はコピーを禁止したいニーズです。また、原価が入っている見積積算システムの営業マン配布用でも利用されています。

ハイパープラス

設定例

PDF



PDFの設定

許可ソフトウェアの設定

■PDF Portable Document Format（ポータブル・ドキュメント・フォーマット）

1993年にアドビシステムズ社が開発、提唱した電子文書の形式。2008年にアドビ社が特許を無償としてISOで国際的な規格として標準化された。Windowsを発売しているマイクロソフト社ではXPSという独自の電子文書形式を公開していた為、PDFを閲覧できるPDFビューワーを標準付属したのはWindows8以降です。XPS自体は認知度が低く、それほど普及しているとは言えない状況です。

PDFはPDFを生成できるソフトをセットアップすると印刷メニューにPDFが登録されます。PDFを作る場合は、印刷メニューからPDFを選択します。PDF形式に標準で対応しているソフトでは別名保存でPDF形式を選択できる場合もあります。

■印刷禁止はPDFセキュリティで行う

PDFでコンテンツを配布する場合、PDFのセキュリティ設定で印刷を禁止する事ができます。印刷禁止を行うとPDFから印刷機能でPDFを生成されません。USBメモリの機能にも印刷禁止がありますが、USBメモリ利用中は保護コンテンツ以外の全てのユーザーPDFも印刷ができなくなります。これを防ぐためには細かな設定ができるPDFセキュリティで印刷禁止の設定を推奨しています。

■別名保存の禁止でPDFを設定する

簡易設定では許可ソフトとしてAdobe PDF Reader以外にWindows Readerも登録されます。Adobe PDF Readerをセットアップする事が前提条件にできる場合は、Windows Readerを削除します。

許可ソフトウェア：Adobe PDF Reader

別名保存の禁止：PDF

禁止設定：印刷禁止ON

※PDFセキュリティで“印刷を許可しない”で作成された場合は、印刷禁止をOFFにしてください。

※Adobe PDF Readerをセットアップしていない場合は、Adobe社のホームページからAdobe PDF Readerのセットアップを行う様にご説明ください。

※PDF ReaderはAdobe社以外にフリーソフトなどがあります。中にはPDFセキュリティを無視するようなPDF Readerもありますが、これらのソフトは許可ソフトで登録されていなければ保護領域にアクセスはできません。



PDFの設定

.....

許可ソフトウェアの設定

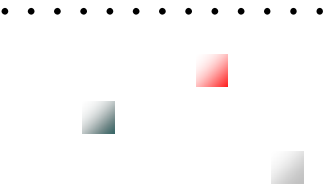
■WindowsバージョンとサポートされているPDFビューワソフト
PDFを閲覧するのは、基本的にはAcrobat Readerのダウンロード・セットアップが必要です。
Acrobat Readerをセットアップしていないパソコンは、USB設定で許可ソフトウェアの登録が必要です。

Windowsバージョン	PDFビューワソフト
Windows XP/Vista/7	Windows標準では付属されていない Acrobat Readerが必要
Windows8/8.1	Windows Reader XPSビューワソフトWindows Reader でPDFがサポートされていま す。Windows Reader はWindowsストアアプリ（タブレットモード） として提供されていますのでPDFが全画面になります。他のデスクト ップアプリと同時表示がしづらいので別にAdobe PDF Readerのセッ トアップを推奨します。Windows10では標準付属は廃止されています。
Windows10	Windows Edeg （エッジ）Windows10標準ブラウザ ※保護コンテンツのPDFをWindows Edeg で閲覧する事は推奨してい ません。許可ソフトウェアとしてEdegを登録すると、コピーガードの 終了条件で登録されているEdegの終了を促される事があります。 Windows Edeg でPDFを閲覧していない場合は、違和感がありますの で許可ソフトでWindows Edeg を設定しない事を推奨します。

■PDFの配布
利用するWindowsバージョンによってPDF Readerが異なるので、Acrobat Reader をセットアップするよ
うに指定してください。利用者によりPDFビューワが違っていると操作に違いがあり説明やサポートが困難
です。

配布コンテンツに関しては、PDFビューワソフトをUSBメモリ内に保存するかAcrobat Reader のダウ
ンロード、セットアップを推奨します。

■USBメモリ内にPDF Readerを付属させる場合
USBメモリ内に付属できるPDF Readerは “Sumatra（スマトラ）PDF Reader” があります。100%フ
リーソフトとして提供されおり商業利用でも無料で使う事ができます。Sumatra PDF は日本語も対応で高速
で動作します。Adobe PDF Reader XIの容量320Mに比べ SumatoraPDFは 6M程度とUSBメモリに入れ
ても起動が早い事が特徴です。



ハイパープラス

設定例

User Application



User Application

許可ソフトウェアの設定

ユーザーソフトの場合の許可ソフトウェア登録

ハイパープラスは、保護領域をアクセスするソフトを事前登録する必要があります。
USBメモリの保護領域内からユーザーソフトを起動する場合は設定は必要ありません。
一般的に利用されるソフトウェアに関しては、選択リストに登録されていますので選択して登録してください。お客様の作成したソフトウェアまたはリストにないソフトウェアはユーザーソフトとして**追加リスト**に登録する必要があります。

■USBメモリから起動するソフトは設定不要

USBメモリ内から起動するソフトは自動的に許可ソフトに登録されます。設定の必要はありません。

■実行形式(.exe)のみ登録

許可ソフトウェアに登録が必要なケースは、USBメモリ以外から起動されるソフトウェアです。USBメモリの保護領域から実行されるソフトは許可ソフトとして自動登録されています。

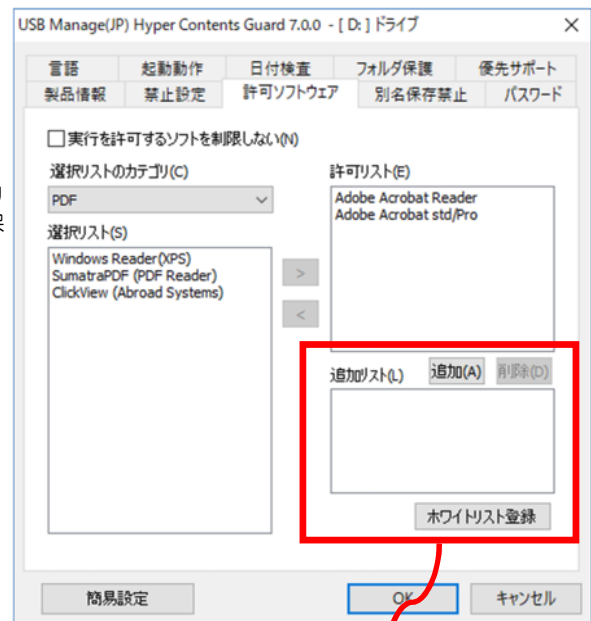
Cドライブ等から実行されるソフトは、許可ソフトとして登録されていないと保護領域のファイルにアクセスできません。また、**登録が必要なソフトは拡張子が“.exe”のファイルのみです**。スクリプト、ADD-INソフトやDLLなどは、単体では動作しませんので追加リストに設定する必要はありません。

スクリプトやDLLは、それら呼び出している本体ソフトを登録してください。

■ホワイトリスト登録（追加リストの拡張）

ホワイトリスト登録は、登録したい許可ソフトが沢山ある場合に利用します。許可リストと追加リストに設定できるソフトウェア数は20個程度と制限があります。ホワイトリストは、許可リスト、追加リストと便利に管理され、ホワイトリストで追加できる上限は100程度です。ゲームやCADで付属ソフトが多く、どれが本体ソフトか不明な場合は、拡張子“.exe”を全て登録します。

「実行を許可するソフトを限定しない」でも動作はできますが
この場合、コピーを目的としたソフトも許可されてしまいます。
許可ソフトが限定できる場合は、一覧から登録できる「許可リスト」
「追加リスト」に登録を行った方が複製されるリスクが減ります。
追加リストは登録できる数が少ないので、ホワイトリストを併用してください。



ユーザーソフトの登録
USBメモリ以外にセットアップしているソフトは、許可ソフトとして追加リストまたはホワイトリストに設定します。USBメモリ内から起動するソフトは既に自動登録されていますので設定は不要です。



User Application

..... ファイルやフォルダの非表示化 ATTRIB (アトリビュートコマンド)

ATTRIBコマンドを使ってファイルやフォルダを表示属性を変更する

コマンドプロンプトの命令でファイルやフォルダの表示属性を変更することができます。

コマンドプロンプトはWindowsスタート→Windowsシステムツール→コマンドプロンプトを選択します。※Windows10の場合、Windowsスタートを右クリック→WindowsPowerShellでも同じ操作が行えます。

事前準備

USBの保護領域に対してはコマンドプロンプトの命令が動きませんので、Cドライブや他のUSBメモリで設定してからUSBへコピーして下さい。フォルダは深い階層ですと操作がやりずらくなります。CドライブやDドライブ等HDDやSSDのルート（先頭フォルダ）へコピーして下さい。また、操作前にパソコンの表示設定を非表示ファイルやフォルダが見えるようにして下さい。先に表示設定を行わないと設定したファイルが見えなくなります。→P.71非表示フォルダを表示する

ATTRIBコマンドによる表示属性設定

EドライブのDATAフォルダの例 ATTRIB +S +H E:\DATA /S /D

スイッチ +S	System属性を設定する。
+H	Hide(非表示)属性を設定する
/S	サブフォルダ以下全てのファイルを対象とする
/D	フォルダ（ディレクトリ）も対象にする

全て半角でキーボードより入力します。

ピリオドから始まるフォルダで見えなくする

ハイパープラスではピリオドから始まるフォルダは非表示になります。Windowsの操作画面（エクスプローラー）でピリオドから始まるフォルダは作れません。コマンドプロンプトのメイク・ディレクトリ（Make Directory）を使います。

ディレクトリとはWindowsのフォルダの事です。

`MKDIR E:\.folder` Eドライブに “.folder” フォルダを作成する。

このフォルダに非表示属性を設定をする場合は

`ATTRIB +S +H E:\.folder /S /D`

※保護領域に保存する場合はピリオドから始まるフォルダは非表示になります。許可ソフトで直接非表示フォルダを開くことはできますので、その場合でも見せたくない場合は非表示設定をします。

管理ソフトのフォルダ保護機能（P.56）

管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」機能を使うと指定フォルダを非表示にできます。

「フォルダ保護」機能ではWindowsの操作画面（エクスプローラー）に対して指定フォルダ名を渡さないという方法で利用者に見えなくしています。上記の属性変更はWindowsの設定変更で見えてしまう可能性はありますが通常は非表示になります。「フォルダ保護」機能は、エクスプローラーのみに有効で許可したソフトからはフォルダやファイルが見えてしまいますので属性変更で非表示化を行うとより保護レベルを高めることができます。



User Application

..... ファイルやフォルダの非表示化

先頭がピリオドのフォルダは非表示

管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」機能で先頭がピリオドから始まるフォルダは非表示にする機能があります。しかし、通常のエクスプローラー操作では先頭がピリオドのフォルダ名は作ることができません。

先頭がピリオドから始まるフォルダを作る方法

① コマンドプロンプトのMD(MKDIR)コマンドで作成する

MD .folder

※この方法はコマンドプロンプトの操作に慣れている方に推奨しています。コマンドプロンプトの操作が不明な場合は次のエクスプローラーで作成する方法が簡単です。

② **エクスプローラーで先頭と最後にピリオドを入れる**方法

フォルダの名前変更で先頭と最後にピリオドを入れます。 .folder. → .folder. が作られます。

このフォルダを保護領域へコピーすると非表示になります。ただし、非表示フォルダ内のファイルを閲覧するにはメニューやリンクソフトが必要になります。メニューは簡単な例ではPDFでメニューを作成し、リンク設定で非表示フォルダ内のファイルを開く事ができます。

書き込み禁止USBへ強制書き込みを行う

書き込み禁止USBへ対して 強制書き込みを行う場合は DLLを組み込みます。

■UsbWriteProtect.dll (無料)

UsbWriteProtect.dllはソフト開発で利用させるソフトウェア部品です。単体では利用できません。DLLが利用できる言語で利用可能です。

入手方法は support@abroad-sys.com に “UsbWriteProtectについて” としてご質問下さい。



VBのサンプルプログラム(ソース)付き

■UsbWriteProtect の利用用途

配布コンテンツの更新

保護設定済みのファイルにシリアル番号などの書き込み

バックアッププログラムの作成など



動画の設定例

.....

WMV/MP4

Windowsで再生できる動画形式は WMV(ウィンドウズ・メディア・ビデオ)形式です。
これ以外の動画形式は、パソコンにコーデックという動画形式に対応したソフトのセットアップが必要です。
Windows7以降であればMP4も再生ができます。
WindowsXPなどでMP4が再生できない場合は、コーデックパックをセットアップするか、MP4対応の動画再生プレイヤーをセットアップして下さい。

動画形式	
再生に適している形式	WMV、MP4
Windowsでの再生に適していない形式	MOV Macの動画形式、Windowsで再生するにはApple Quick Time又はiTunesのセットアップが必要。MOVは全てのWindowsで再生できる訳ではありません。逆にMacはMOV形式が標準です。

その他の動画形式も再生するには対応した映像コーデックのセットアップが必要です。
同じ組織内や特定のパソコンで再生する場合は、どの動画形式でも問題はありませんが不特定多数に配布する動画形式としてはWMV、MP4のみです。これ以外は例えばFLVなどは、再生ソフトをしているするかUSBメモリに動画再生ソフトを入れる事を推奨しています。

動画は形式が複雑 コンテナとコーデック
動画は1つのファイルに映像ファイルと音声ファイルの2つが入っています。この1つにまとめた形式を“コンテナ”と呼んでいます。通常、動画ファイルと呼ばれているのはコンテナ形式の事です。

動画を再生するには、その動画で使われている映像コーデックと音声コーデックと呼ばれる圧縮を復号(元に戻す)するソフト部品が必要です。
WindowsXP/Vista/7などのパソコンではMP4で使われているコーデックがセットアップされていない場合があります。WMV(Windows Media Video)形式はマイクロソフト社の動画形式なのでWindows/パソコンであれば再生可能です。

特定のパソコンで動画再生ができない
再生できない、音声のみ聞こえない、動画のみ再生できない場合は、コーデックがセットアップされていない場合があります。また、USBの設定で許可されているソフト以外を利用した場合も再生できません。映像ファイルを選択して右クリック→プログラムから開く→Windows Media Playerを選択します。この操作でも再生できない場合は、コーデック

がセットアップされていないパソコンです。
この場合は、フリーソフトで“コーデックパック”を探してセットアップするようにご案内ください。
USBの管理ソフトで設定の見直しができる場合は、許可ソフトの設定にコーデック内蔵の動画再生ソフトGOM PLAYER、VLC media playerなどを加えて、閲覧ができないユーザーにはGOMやVLCを紹介する方法もあります。

MP4
DVDビデオの動画形式であるMPEG-2などに比べて圧縮率は2倍も高くMP4が人気です。ただし、MP4は形式が沢山ありますので注意が必要です。

.mp4は以下の組み合わせのコーデック圧縮が使えます。動画を作成(変換)するときはご注意下さい。
推奨コーデック H.264/AAC
動画：H.264・Xvid・Divx・MPEG-4 など
音声：AAC・MP3・Voribis・AC-3 など

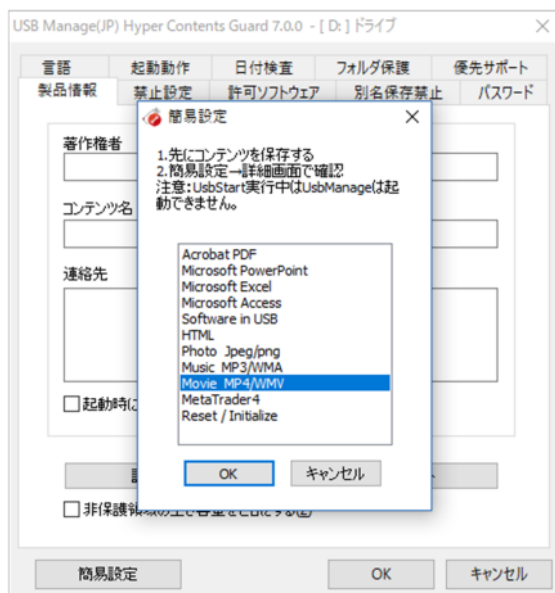
MP4(H.264/AAC)の動画が映らず音声しか再生できない場合は、そのパソコンにH.264コーデックが無い場合です。



動画の設定例

WMV/MP4

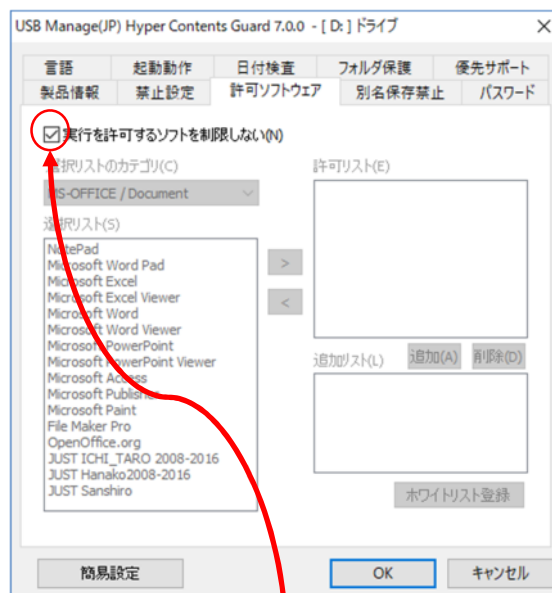
動画の場合は「簡易設定」をクリックして “Movie MP4/WMV” を選択します。
推奨値の保護設定が設定されます。



詳細設定／許可ソフトの確認

動画ファイルでWMV/MP4を再生するときには、「実行を許可するソフトを制限しない」の設定を使うか
“Windows Media Player” と “GrooveMusic/ Movies&TV (Win10)” が設定されている事を確認して下さい。他の動画ソフトを許可しても問題はありません。

Windows10では、MP4をクリックすると映像&テレビ (Movies&TV) という再生ソフトで再生されます。許可ソフトに登録されていないとWindows10でエラーになります。既に配布したUSBメモリでWindows10でエラーになる場合は、映像ファイルを選択して右クリック→プログラムから開く→Windows Media Playerで再生します。



「実行を許可するソフトを制限しない」

どの動画再生ソフトでも閲覧させたい場合は、「許可ソフトウェア」タブの「実行を許可するソフトを制限しない」にチェックを入れて下さい。

ただし、ダビングを目的としたソフトもアクセスができるようになりますので保護レベルは若干下がります。
※Windowsの標準的な動画再生ソフトで閲覧ができます。

※通常、保護されている動画をコピーする場合、動画キャプチャーソフトが利用されます。動画キャプチャーソフトを防止するには、別名保存の禁止で “Movie Format” を選択します。簡易設定で設定されているので再設定は不要です。「実行を許可するソフトを制限しない」に設定しても、ある程度の保護機能が働いています。



ClickView クリックビュー

USB内蔵 コンテンツビューワソフト

103

■ClickViewのダウンロード

USBメモリバージョン7.3は標準付属しています。Ver7.0～Ver7.2をお使いの場合は以下よりダウンロードしてください。

<http://www.abroad-sys.com/USB/V7/ClickView.zip>

ClickView.zipを解凍すると

“ClickView” フォルダ、ClickView.exeがあります。

“ClickView” フォルダはUSBの保護領域へ保存すると見えなくなります。フォルダ保護機能で非表示になっていますが存在はしています。

※ClickViewはコピーガードUSBメモリ専用です。一般的なUSBメモリでは動作しません。

ClickView クリックビュー



ClickViewを使う事で利用者のトラブルを軽減、設定も簡単

ClickView（クリックビュー）はUSBメモリに付属させるビューワーソフトです。

1クリックで動画、画像、音楽、テキスト、パワーポイントやExcel（※1）を表示できます。

ClickViewを使うメリット

1. フォルダを非表示にするとコンテンツの保護を高める
2. ビューワーソフトによるトラブルを軽減（※1）
3. ClickViewには印刷や別名保存といった機能がない（完全に関覧専用）
4. 1クリックでメニューが自動作成される。
5. 様々な便利機能

例）音声再生では スロー再生や早聞きが標準でサポート。動画ではシンプル画面で全画面再生、リピート再生を出荷設定が可能。画像ビューワーでは連続で1クリックで大きな画面で表示等、ばわーぽいんとやExcelなども対応可能

ClickViewの自動メニュー作成機能

起動するとUSBメモリ内のファイルから自動でメニューが作られます。

No.	Category	Title	Type
1	Document	D0002021137_00000_V_000	Movie
2	Document	コピーガードUSBメモリ7簡易説明(要削除)	Document
3	Document	付属ソフトについて(要削除)	Document
4	illustration1	illustration1000	Image
5	illustration1	illustration1001	Image
6	illustration1	illustration1002	Image
7	illustration1	illustration1003	Image
8	illustration1	illustration1004	Image
9	illustration1	illustration1005	Image
10	illustration1	illustration1006	Image
11	illustration1	illustration1007	Image
12	illustration1	illustration1008	Image
13	illustration1	illustration1009	Image

画面の大きさや項目幅はマウス操作で自由に設定ができます。
手動設定を行うと、カテゴリやタイトルも自由に設定ができます。

（※1）様々なトラブル

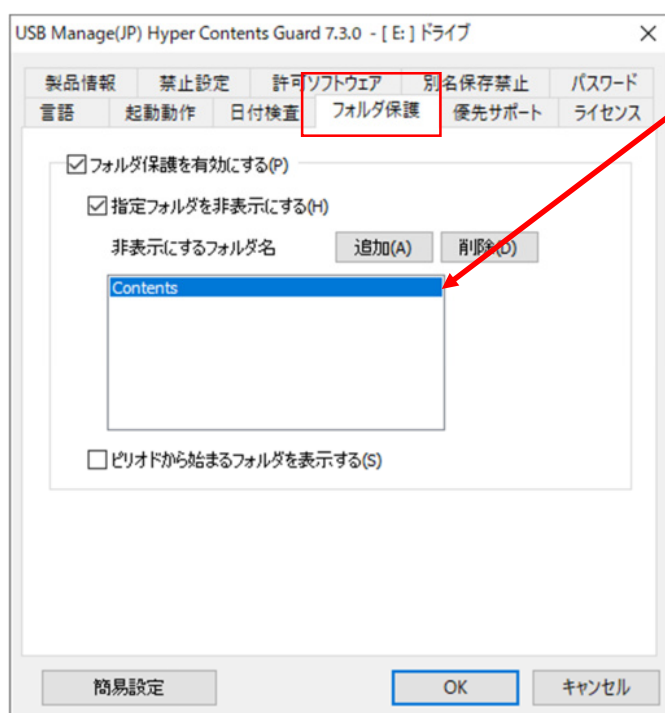
PDFの例：Windows10では、標準ブラウザのMicrosoft Edge（エッジ）が使われます。Microsoft Edge（エッジ）でUSBメモリ内のPDFを参照するとUSBの取り外して、Edgeを終了していないとUSBの安全な取り外しができない。Acrobat Readのバージョンにより、クラウドコンテンツを送信する機能がある、USBのPDFを参照した後に安全な取り外しができない等の問題が発生する事があります。

ClickView クリックビュー



設定方法

1. 1つのコンテンツフォルダを作り、その中にサブフォルダ毎にコンテンツを入れる。
2. コンテンツフォルダをフォルダ保護機能で見えなくする。例（Contentstフォルダ）
3. ClickViewを起動する



¥Contentst ← 非表示

¥動画教材

¥教材 1 .mp4

¥教材 2 .mp4

¥資料

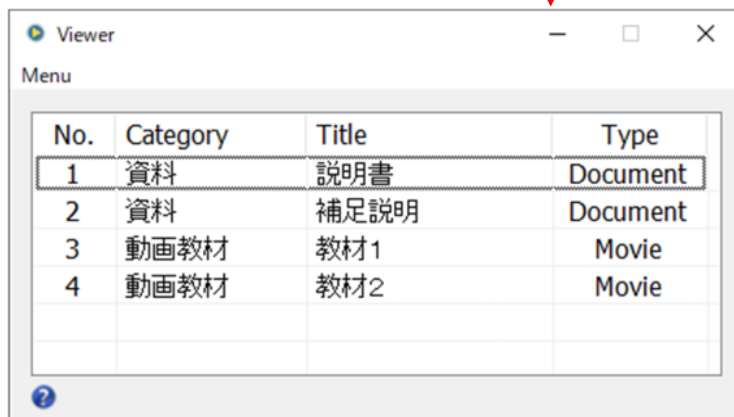
¥説明書.pdf

¥補足説明.pdf

※Contentstフォルダを「フォルダ保護」機能で見えない設定にします。利用者からコンテンツは選択できない状態になります。

自動でメニューが作られる
ファイルは見えない
1クリック再生

カテゴリはコンテンツファイルの
入っているフォルダ
名が表示されます。





ClickViewで利用者トラブルの軽減

.....

ClickView（クリックビュー）はUSBメモリに付属させるビューワースoftwareです。

動画、画像、音楽、テキスト、パワーポイントやExcel（※1）を表示できます。

ハイパープラスではコンテンツを見えないフォルダに入れて保護を高める事ができます。

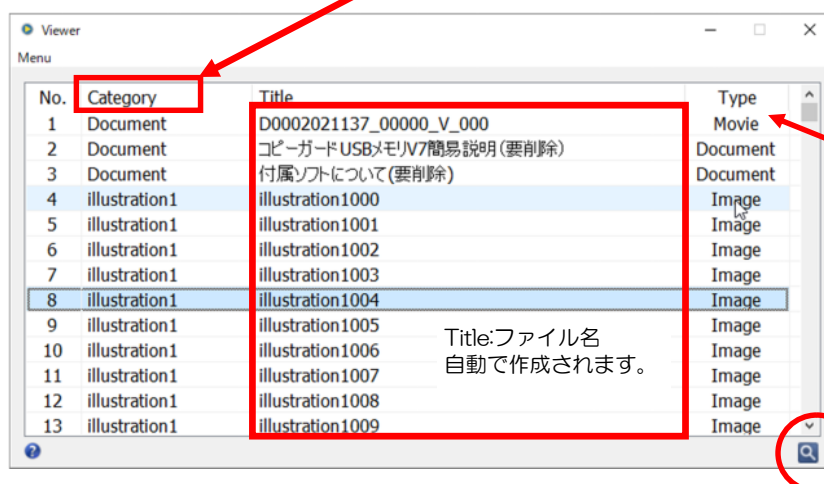
（参照：フォルダ保護 P.56）

フォルダが見えない場合、利用者はファイルを選択してクリックする事ができません。ClickView（リックビュー）を使ってコンテンツを表示させます。

ClickViewの自動メニュー作成機能

起動すると自動でメニューが作られます。

Category:コンテンツの入っているフォルダ名
フォルダ階層が深い場合は、ファイルの1つ上のフォルダを表示します。



Type: コンテンツ種類
又は、設定で拡張子表示
にもできます。

検索機能

USBメモリの保護領域内にフォルダに入ったコンテンツをドラッグ＆ドロップ操作で保存します。

ClickViewはUSBメモリ内のデータファイルから自動でメニューを作成します。

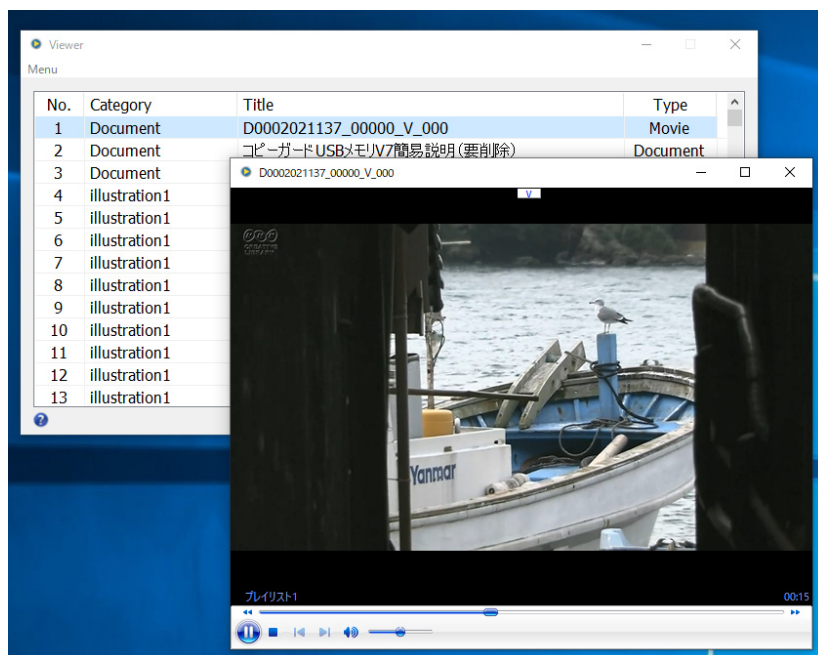
管理ソフトUsbManage「フォルダ保護」でフォルダの非表示設定を行う事もできます。

※1）パワーポイントは、USBメモリ内にPowerPoint Viewer を付属させるか
パソコン内にPowerPoint がセットアップされている必要があります。ClickView単体に
PowerPointを表示させる機能はありません。

ClickViewで動画を再生する



動画形式をクリックすると動画ビューワーソフトで再生します。



107

ビューワーソフトはUSBメモリ内蔵のビューワーソフトです。
USBメモリ内から起動するソフトは自動で許可ソフトに登録されますので許可ソフトの設定は不要です。

動画形式は、WMV、MP4、Mpgに対応しています。
対応していない動画形式はメニューに表示されません。他の動画形式の場合は、Setting画面で動画拡張子を登録します。ただし、未対応の動画形式の場合は、再生するパソコンに動画コーデック（P.101）がセットアップされている必要があります。

[ESC]・・・終了

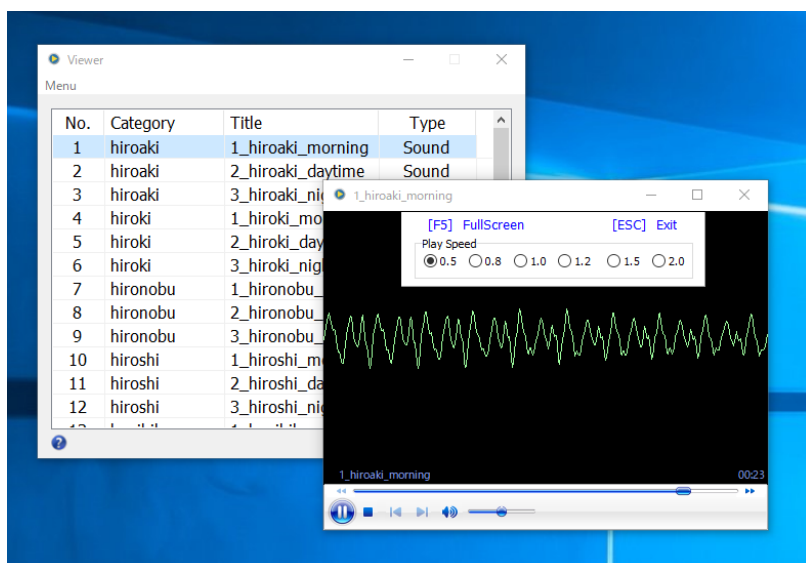
[F5]・・・全画面（フルスクリーン）表示

※Setting画面で最初に表示する状態を フルスクリーン表示、リピート再生の設定できます。

ClickViewでMP3を再生する



Sound形式をクリックするとSoundビューワーソフトで再生されます。



Sound再生

再生速度パネル・・・MP3の再生速度を調整できます。

標準再生できるSound形式は、MP3/WMA/WAVです。

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Attribute→Soundで再生速度パネルの表示/非表示が設定できます。（初期値：表示）

MP3/WMA/WAV以外を再生させる場合は、Attribute→Soundの画面で拡張子を追加設定します。

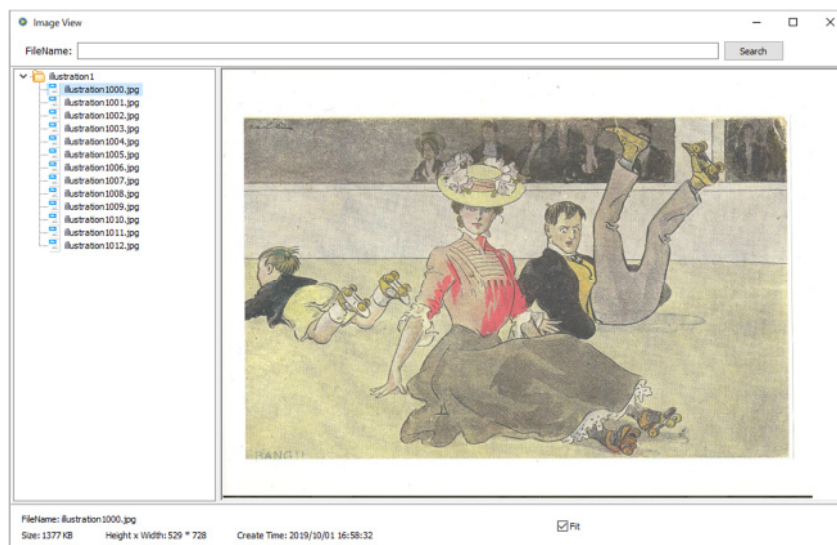
標準サポートされている形式以外は、コーデック内蔵の音楽プレイヤーソフトを指定するかパソコンに追加した形式のサウンドコーデックが入っている必要があります。

ClickViewでJPEGを表示する



.....

画像をクリックすると画像ビューワーソフトで表示します。



写真を閲覧する場合

選択した写真が表示されます。

選択した写真のあるフォルダの一覧が左側に表示されます。クリックすると連続で写真を表示します。

ビューワーソフトはUSBメモリ内蔵のビューワーソフトです。

USBメモリ内から起動するソフトは自動で許可ソフトに登録されますので許可ソフトの設定は不要です。

写真はJPEG/TIFF/PNG に対応しています。

Fit 写真サイズを画面サイズに拡大または縮小して表示します。

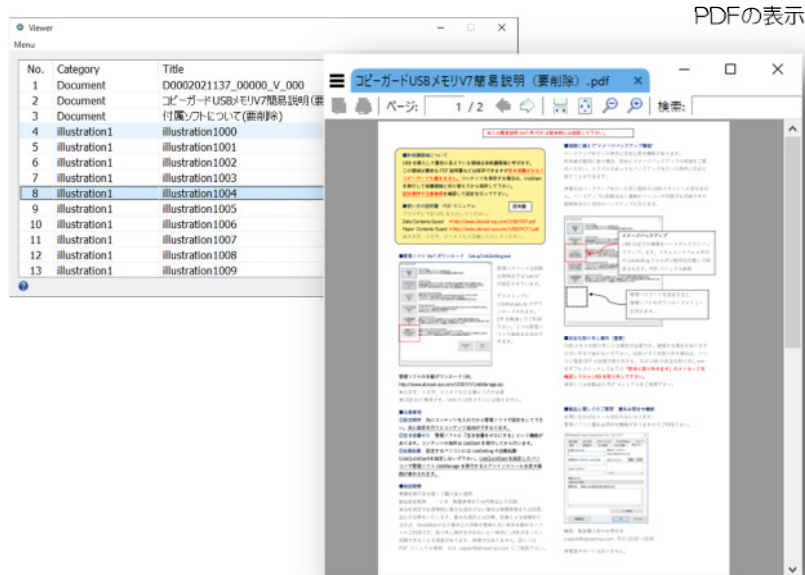
ファイル名、ファイルサイズ、写真の大きさ、ファイル日付を表示します。

検索機能：ファイル名の文字検索を行う事ができます。部分一致検索

ClickViewで PDFを表示する



メニューでPDFをクリックするとPDFビューワーソフトで表示します。



PDFの表示

ClickViewのPDF表示機能は、印刷や別名保存の機能がありません。

USBメモリ内のPDFビューワーで表示されますのでパソコン内のPDFビューワーは使われません。

PDF表示中のキー操作

次ページ：PageDown

前ページ：PageUp

拡大表示：+

縮小表示：-

終了：Q

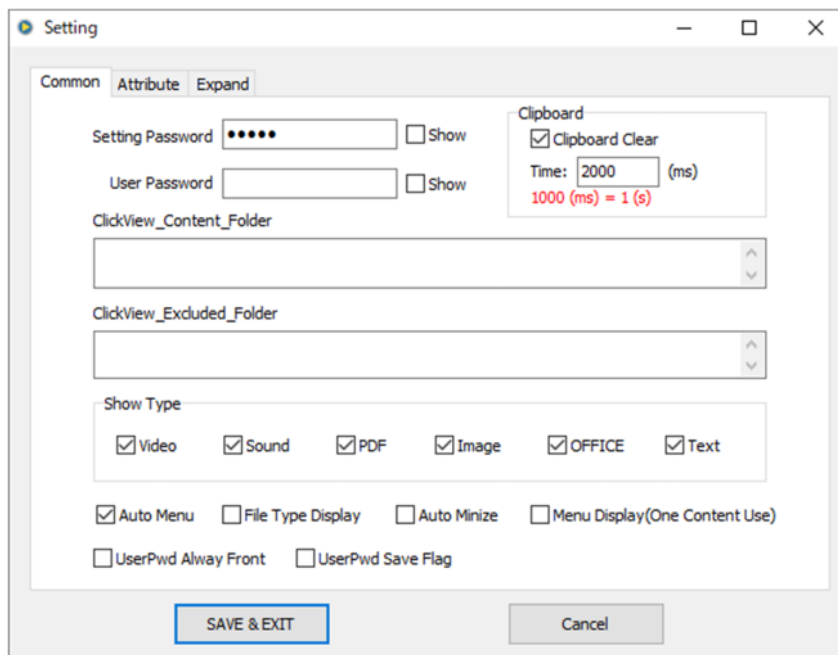
ツールバーの表示/非表示：F8

PDFの表示は、GPLV3ライセンスのソフトウェアSumatoraPDFを表示部品として採用しています。

ClickView クリックビューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力

USBメモリの管理パスワード、個別に設定されるSetting/パスワード（初期値 “admin”）いずれかを入力します。



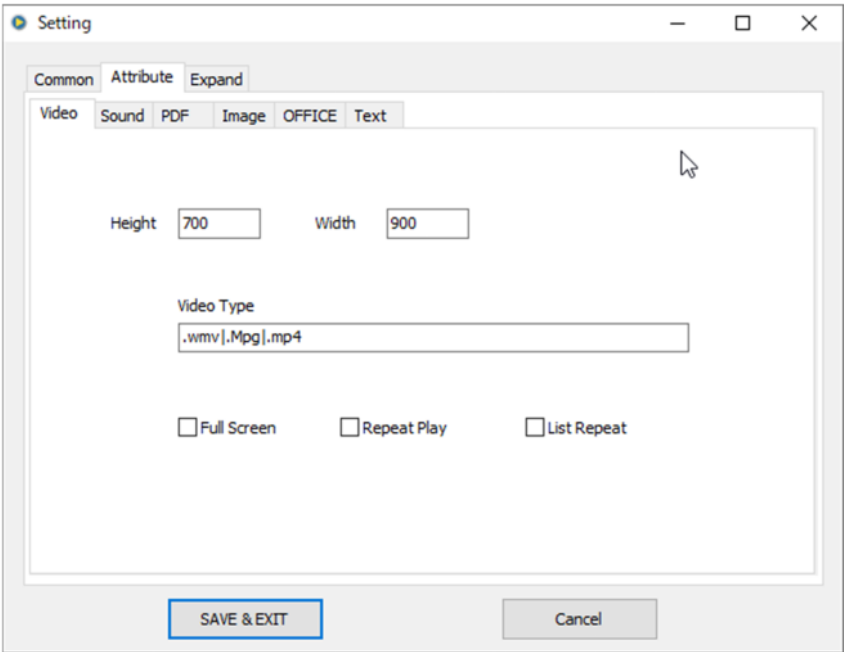
- SettingPassword : 個別で設定する管理パスワード（USBの管理パスワード可）
- UserPassord: ClickView起動時に閲覧/パスワードを設定する事ができます。（初期値OFF）
- Clipboard Clead: コピー＆ペーストを禁止する為に、クリップボードをクリアします。
- Time (ms) : 指定の時間をミリセカンド（1000ms=1秒）間隔でクリアします。
- ClickView_Content_Folder : 自動メニュー生成時に指定したフォルダのみ対象とします。
- ClickView_Excluded_Folder : 自動メニュー生成時に指定したフォルダを除外します。
- ShowType : 自動メニュー生成時に指定のファイル形式を対象とします。
- Auto Menu : メニューを自動作成します。手動でメニューを作成する場合は、Expandタブで行います。
- File Tipe Display : ファイル拡張子を表示します。
- Auto Minize : メニューが選択された場合、コンテンツを表示しメニューはタスクトレイに入ります。
- Menu Display : コンテンツが1つでも必ずメニューを表示します。通常は、表示するコンテンツが1つの場合はメニューを表示せずにコンテンツを即表示します。
- UserPwd Always Front : ClickViewを起動したときにユーザーパスワード画面を表示します。
- UserPwd Save Flag : ユーザーパスワード画面を表示したときにパスワード保存機能を表示します。
- ユーザーパスワードはパソコン内に保存されます。はじめて利用したパソコンは必ずユーザーパスワードの入力が必要です。2回目からパスワード入力を軽減させる事ができます。

ClickView クリックビューの設定/表示属性

.....

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Attribute（表示属性）

Attribute（属性）はコンテンツを表示する時に細かな設定を行う事ができます。



- Video
- Height/Width

動画の表示画面の大きさ指定
- Video Type

動画として表示する拡張子 他の拡張子は各PCに動画コーデックのセットアップが必要です。
- Full Screen

動画を全画面で表示する
- Repeat Play

動画をリピート再生する
- List Repeat

メニューに表示されている動画を順番に再生し繰り返す
- Sound
- Height/Width

Sound再生画面の大きさ指定
- Video Type

Soundとして表示する拡張子 他の拡張子は各PCに音楽コーデックのセットアップが必要です。
- Full Screen

Sound再生画面を全画面で表示する
- Repeat Play

Sound再生画面をリピート再生する
- List Repeat

メニューに表示されているSoundListを順番に再生し繰り返す
- Ctrl Panel DisplaySound

再生画面上部に 速度調整パネルを表示する。低速再生～2倍速再生ができます。
- (次ページへ続く)

ClickView クリックビューの設定/表示属性

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Attribute（表示属性）

Attribute（属性）はコンテンツを表示する時に細かな設定を行う事ができます。

■PDF

Height/Width 動画の表示画面の大きさ指定

User Fixed App PDFを表示するソフトを内蔵PDFビューワーに固定する（パソコンに入っているPDFビューソフトを使わない）

List View 右横にPDF一覧を表示する（実行には管理者権限が必要です）

■Image

Height/Width Image再生画面の大きさ指定

画像表示を行う拡張子の選択： jpg/png/jpeg/tif/tiff

■OFFICE

ExcelやPowerPointを表示させる。

OFFICEで指定した拡張子は、ClickViewに内蔵されていません。表示させるにはパソコン内にExcelやPowerPointをセットアップされている必要があります。

■TEXT

テキストファイルを表示します。

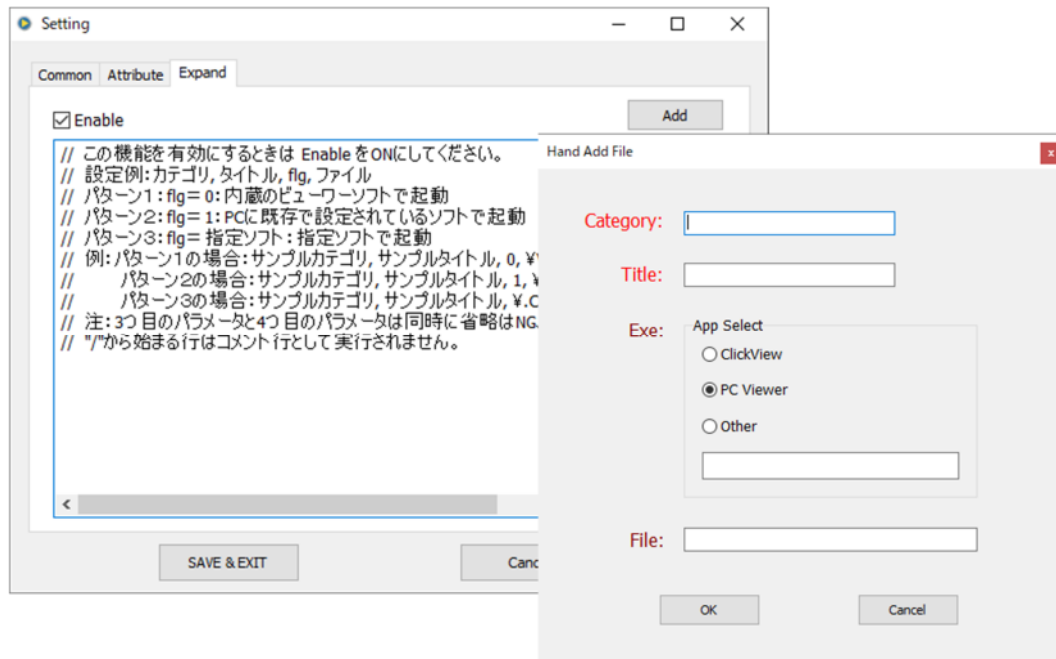
Text Type .txt/.csv/.tsv

TEncoding テキストエンコードタイプの指定

ClickView 手動メニューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Expand（拡張メニュー）

Expand（拡張メニュー）はメニューを手動で作成します。自動メニューで対応できない細かな設定を行います。



Expand（拡張メニュー）

Enable 手動メニューを有効にさせる場合はONにします。OFFは自動メニューが優先されます。

手動でメニューを記述するには、テキストボックスに記述します。[ADD]ボタンで設定する事もできます。

手動設定のパラメタ例

```
// 設定例：カテゴリ、タイトル、flg、ファイル
// パターン1：flg=0：内蔵のビューワーソフトで起動
// パターン2：flg=1：PCに既存で設定されているソフトで起動
// パターン3：flg=指定ソフト：指定ソフトで起動
// 例：パターン1の場合：サンプルカテゴリ、サンプルタイトル、0、¥Video¥10082020.mpg
//      パターン2の場合：サンプルカテゴリ、サンプルタイトル、1、¥Video¥10082020.mpg
// 注：3つ目のパラメータと4つ目のパラメータは同時に省略はNG、カンマの必ず3つ入れる必要がある。
```

"/"から始まる行はコメント行として実行されません。

ClickView 手動メニューの設定

MENU→Setting→USBの管理パスワードの入力→Ex

Attribute（属性）はコンテンツを表示する時に細かな設定を行う事ができます。

USBメモリに以下のフォルダがあるとしてします。

¥図面¥建築図面¥1FBlueprint.pdf

¥図面¥建築図面¥2FBlueprint.pdf

表示カテゴリ名、タイトル名、起動ソフト指定、ファイル名（フルパスで指定）

建築図面, 1Fの仮図面, 0, ¥図面¥建築図面¥1FBlueprint.pdf

建築図面, 2Fの仮図面, 0, ¥図面¥建築図面¥2FBlueprint.pdf

Usbメモリのフォルダ保護機能で“図面”フォルダで見えなくします。（フォルダ保護機能 P.56）

表示カテゴリ名、タイトル名はメニューで表示される文字を入力します。

カンマは半角で入力します。

起動ソフトの指定は数字の“0”または“1”で指定します。“0”は、ClickView内蔵ビューワーで再生します。

1はパソコン内のソフトで起動します。PDF/画像/動画/音楽などは“0”で指定します。ExcelやPowerPointは“1”を指定してください。

ADDボタンで簡易入力ができます。作成するメニューが多い場合は直接入力の方が簡単に設定ができます。

EXE(エグゼ)メーカーについて

ClickView(クリックビュー)はPDFや動画、音声、Office系の文書表示の機能ができますがHTMLファイルは表示ができません。HTMLをUSB内蔵ビューワで表示するにはClickViewの拡張機能ExeMaker(エグゼメーカー)を使います。ExeMakerはHTML以外にPDFや音声、画像、テキストファイル、動画形式の場合は、WebM形式(※1)を表示する事ができます。

ClickViewやExeMakerを使うとパソコンの環境によって生じるトラブルを大幅に軽減する事ができます。例えば、PDFを表示する場合はAcrobatのセットアップが必要です。WindowsではPDFを表示する際にブラウザのMicrosoft Edgeが使われている為、AcrobatがセットアップされていないパソコンではUSBの設定によってはUSBメモリ内のPDFが表示できない場合があります。また、HTMLで動的な仕組み(※2)がある場合、利用しているブラウザによって正しく動かない場合があります。USB内蔵のプレイヤーソフトを使う事で多くの利用者がスムーズにコンテンツ表示をする事ができます。

■ExeMakerの対応形式 EXEとは？

ExeMakerはPDFやHTMLコンテンツを表示する為のEXE(エグゼ)を生成します。EXEとは実行形式(Executable format)から来ている言葉ですが拡張子が“.exe”のファイルです。拡張子が“.exe”の場合、ダブルクリックすると実行する事ができます。元のコンテンツは、そのまま残す事もできますが、USBのフォルダ保護という機能で見えないフォルダに設定し元のファイルを見えなくする事もできます。

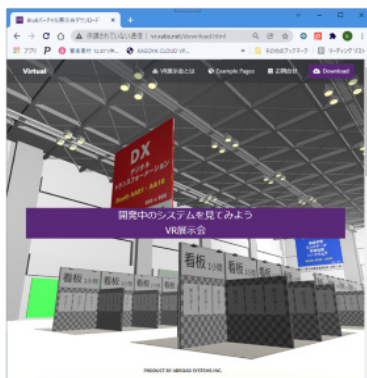
※1) ExeMakerでの動画対応

動画はWebM形式のみ対応です。ライセンスの問題でMP4のEXE化には対応していません。ExeMakerで動画のEXE化を行う場合は、動画変換ソフトなどでWebM形式に変換する必要があります。WebM形式は米Google社が開発した動画形式でYoutubeなどGoogle社のサービスで使われています。MP4と同等な圧縮率でライセンス料が不要なオープンな圧縮方式です。

※2) 動的な仕組み：

JavaScript等を使うクラウド提供のAPIサービスやローカルディスクのファイル操作など何らかの動く仕組みがある場合

HTMLのindex.htmlをダブルクリック
パソコンに設定されているブラウザで表示
使われるブラウザによって見た目や動きに違いがあります。



ExeMaker



Index.html→VR展示会.exeに変換

VR展示会.exeをダブルクリック
USBに設定されている内蔵ブラウザで表示
どのパソコンでも同じ表示になります。



注意事項：MP3/MP4/AAC 未対応

USBメモリに内容しているブラウザのChromium(クロミウム)には、ライセンスの関係でMP3/MP4/AACを再生できるコーデックが含まれていません。ExeMakerを使って生成したソフトではChromiumが使われている為、これらの再生ができません。

ExeMakerの画面を表示する

ExeMakerの実際の動き

ExeMakerの実際の動きはPDFやHTMLを直接EXE化している訳ではありません。指定されたコンテンツを表示するビューワソフトを作るイメージになります。USBメモリ内蔵ブラウザはGoogle Chrom のWEB表示エンジンであるChromium(クロミウム Ver 89.0.4389.114)を採用しています。HTML/PDF/画像/音声/テキストファイル/WebM形式の動画の表示ができます。動画形式については前ページ(※1)を参照して下さい。Chromiumは新型のMicrosoft Edgeでも採用されており一般的な作りのHTMLであれば高い再現性があります。大きな違いは、Chromiumはライセンスの問題でMP4がサポートされていない点です。

ExeMakerの起動

ClickViewをダブルクリックで起動します。

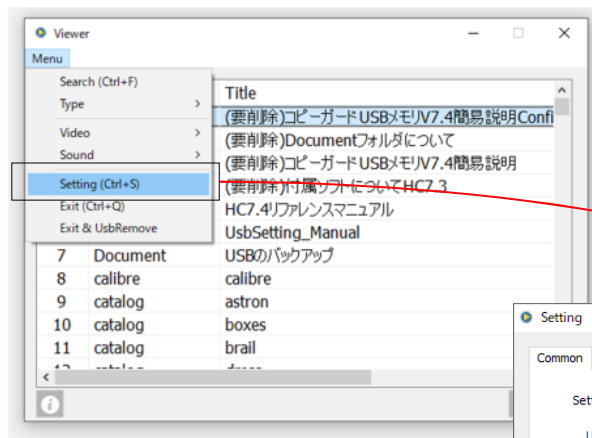
左上の[MENU]→“Setting (CTRL+S)” を選択します。

初期パスワード” admin” を入力します。

画面が表示されましたら「ExeMaker」タブをクリックして開きます。

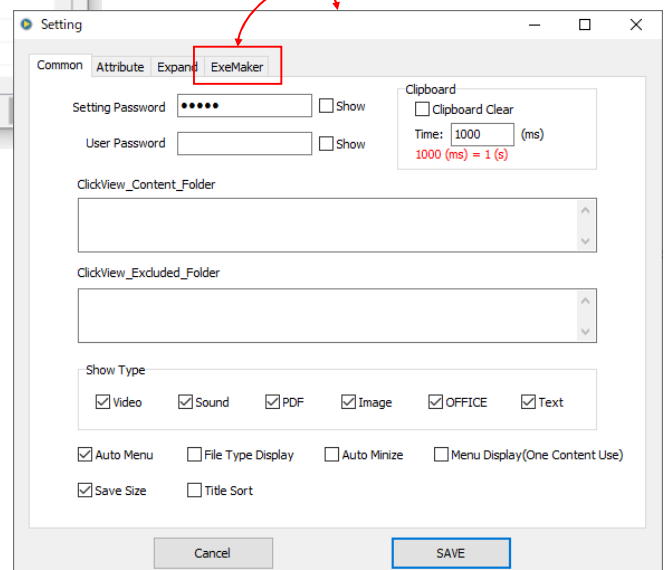
ClickViewにメニューが表示されない

ClickViewのSetting項目にメニュー非表示化設定があります。メニューが表示されていない場合は、シフトキーを押しながらClickViewを起動すると表示する事ができます。



Password : admin

Setting画面が表示されたら
ExeMakerタブを選択



ClickViewの画面が表示されない・・・

MENU非表示が設定されていたり、表示するファイルが1つしかない場合は、即再生が設定されている場合があり、この場合は上記の画面が表示されません。この場合は、シフトキーを押しながらClickViewを起動するとMENUを表示する事ができます。

EXEメーカーをVer7.6未満で使う

Ver7.0～7.5→Ver7.6へのバージョンアップ

利用できるUSBメモリのバージョン

ExeMakerはUSBメモリのバージョンVer7.6(2022/1公開)以降の機能です。Ver7.6以降のバージョンをご利用の場合は標準付属されていますがVer7.0～7.5場合は、手でClickView7.6をダウンロードし解凍後USBへ上書きコピーします。

ClickView7.6のダウンロード

<http://www.abroad-sys.com/USB/ClickView7.6.zip>

ClickView7.6.zipを解凍します。

ClickView7.6.zip

.CEF4Chromium
.ClickView
ClickView.exe

下記の3つをUSBの保護領域へ上書きコピーします。

.CEF4Chrominm	USB内蔵ブラウザ(Chrominm)本体
.Clickview	ClickView本体
ClickView.exe	ClickView起動ソフト

他のUSBメモリのExeMakerで生成されたEXEファイルのみを使う場合は、Clickviewは必要ありません。この場合は、内蔵ブラウザの“.CEF4Chrominm”フォルダのみコピーします。

書き込みができない場合：保護領域とはUsbStart.exeを実行して表示される領域です。ファイルコピー禁止、書き込み禁止が設定されていると上書きできません。事前に管理ソフトUsbManageの「禁止設定」タブで禁止項目を一時的に解除して下さい。

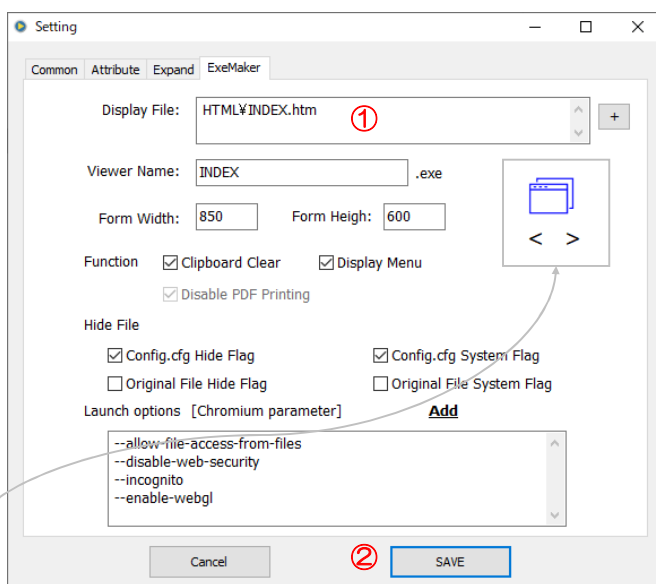
USBへ保存すると見えなくなる：上記の“.CEF4Chrominm”フォルダと“.Clickview”の2つは非表示設定されています。USBの保護領域へ保存されるとUsbManageの「フォルダ保護」タブの設定により見えなくなります。USBへ保存すると表示されていない古いバージョンの上書きになり上書き確認の画面が表示されます。許可して進めて下さい。

HTML/PDFをアプリ化する

ClickView→左上の[MENU]→“Setting (CTRL+S)” →初期パスワード” admin” を入力します。
画面が表示されましたら「ExeMaker」タブをクリックして開きます。

2アクションでアプリ (EXE) 生成

①のアプリ化したいファイルを設定する ②[SAVE]ボタンをクリックするとexeが5秒程度で生成されます。



アイコン変更・・・[<]>キーで アイコンを変更する事ができます。

[SAVE]ボタン・・・・ EXEを生成します。

初期値でコピペが禁止されています。
アプリ起動中はコピペ操作ができません。

詳細設定と設定項目について

Display File・・・・ アプリ化するファイルを指定します。USBメモリ内にあるPDF又はHTMLファイルのみ指定できます。[+]ボタンで追加します。
パソコンによりUSBのドライブ名が変わりますのでドライブ名(“E:¥” 等)は入れない様にして下さい。
Viewer Name・・・・ 生成するEXEファイルの名前を指定します。初期値で元ファイルの名前が使われます。
FromWidth・・・・ 画面横サイズ 横ピクセル指定
FromHeigh・・・・ 画面縦サイズ 縦ピクセル指定

●Function (機能設定)

Clipboard Clear・・・・ 生成されたEXE実行中のクリップボードの使用を禁止します。(コピペ禁止)

DisplayMenu・・・・再生したEXEにMENUを表示するかを指定します。メニューは“EXIT/終了”と“EXIT&Remove” 終了してUSBメモリを取り外す]が追加されます。

Disable PDF Printing・・・・ 印刷メニューの表示有無PDFの印刷を許可するとPDFが作られてしまいます。通常は印刷OFFでご利用下さい。

Hide File・・・・ 動作環境ファイルの非表示化

Permission・・・・ セキュリティーで禁止されている処理を解除する、起動オプション設定

※非表示属性の解説は次ページを参照して下さい。

アプリ (EXE) の生成

必要事項を設定して[Create]ボタンをクリックします。

Viewer Nameで指定した名前でEXEを生成されます。同時に動作指定環境ファイルConfig.cfgが生成されます。
動作指定環境ファイルConfig.cfgは、Hide Fileの指定で非表示化されます。詳しくは次ページを参照して下さい。

生成したアプリ (EXE) を他のUSBへコピーする

設定したEXEを他のUSBメモリでも使う場合は、生成したEXEを他のUSBへコピーする事ができます。

この場合Hide Fileの使い方に注意する必要があります。Hide Fileとはファイルを非表示化するスイッチです。

アプリ化したファイルのコピー

ExeMakerで生成されたファイルをコピーする

複数のUSBメモリを設定する場合、個々に設定する事もできますが沢山のUSBメモリに同じ設定を行う場合、設定ミス避ける意味や作業効率を高める為に生成されたEXEをコピーする方法があります。

EXEメーカーで生成されたファイルは、実際のEXEファイル以外にクリップボード消去（コピー禁止指定）や印刷禁止などの各動作条件を保持している環境設定ファイルがあります。この環境設定ファイルもコピー先にコピーする必要がありますが非表示になっています。

他のUSBへのコピー

EXEメーカーで生成したアプリの表示は以下のファイルが必要です。

- ①表示するHTMLまたはPDFファイル
- ②ExeMakerで生成したEXEファイル
- ③動作指定環境ファイルConfig.cfg
- ④.CEF4Chrominm フォルダ(USB内蔵) ブラウザ (USBメモリVer7.6以降は標準付属なので不要)

同じ設定で複数のUSBメモリを利用する場合は上記4つを他のUSBへコピーします。

例 他のUSBに以下の4つをコピーすると動作します。

- ¥ContentIndex.html ① 元コンテンツファイルのあるフォルダ/フォルダ保護機能で非表示可能
社内マニュアル.exe ② ExeMakerで生成された実行形式のファイル
社内マニュアルConfig.cfg ③ 動作環境設定ファイル 非表示
.CEF4Chrominm フォルダ ④ 内蔵ブラウザ 非表示

●非表示化オプション

③の動作環境設定ファイルは動作には必要ですが利用者に見せる必要はありません。見えないファイルにすると他のUSBへコピーするときに不便な為、2段階の非表示オプションを用意しています。

Hide File

<input checked="" type="checkbox"/> Config.cfg Hide Flag	<input checked="" type="checkbox"/> Config.cfg System Flag
<input type="checkbox"/> Original File Hide Flag	<input type="checkbox"/> Original File System Flag

※ExeMakerで指定できる動作環境設定ファイルの非表示化オプション

Config.cfg Hide Flag (初期値ON)

生成される動作環境設定ファイルConfig.cfgを非表示化する

Config.cfg System Flag (初期値ON)

同ファイルにシステム属性フラグを設定する（強力な非表示化）

Original File Hide Flag (初期値OFF)

PDFやHTMLの元ファイルを非表示化する。ファイル単位

Original File System Flag (初期値OFF)

同ファイルにシステム属性フラグを設定する（強力な非表示化）

変換元ファイルの非表示化

Original File Hide Flag、Original File System Flagは、ファイル属性値によって元ファイルを非表示にする方法です。通常は元フォルダ内に入れてフォルダ非表示機能を使って元フォルダ全体を見えないように設定して下さい。元ファイルがUSBのルート（先頭フォルダ）にあるファイルを非表示化するときは、このフラグ設定で非表示にする事ができます。元ファイルの表示・非表示を設定するもので動作は変わりません。

※この非表示化フラグは、フォルダの非表示化ができない「データコンテンツガード」やルートにある元ファイルに対して設けられた機能です。フォルダの非表示化（フォルダ保護機能）設定ができるハイパープラスをご利用の場合はフォルダ指定での非表示化を推奨しています。

非表示化されたファイルのコピー

非表示化されたファイルをコピーする

ファイル属性を設定され見えなくなったファイルを表示するにはパソコンの表示設定を変更します。

ファイル属性は非表示化(hide)属性、システムファイル(system)属性の2つがあります。通常は非表示化のhide属性のみで制御しますが、非表示ファイルを見える設定にしているパソコンも多いのでより強力に非表示化するのは、本来はWindowsの重要なシステムファイルに付与されるシステム属性をONにします。この表示属性は表示の有無を指定するもので動作には影響しません。

3つの非表示化の方法

- ①ファイル属性に非表示フラグを設定する Hide Flag ON
- ②ファイル属性にシステムフラグを設定する System Flag ON
- ③USBメモリの見えないフォルダ（フォルダ保護）機能を使う

上記①②の表示属性を変更した場合は、パソコンの表示設定を変更して見えるようにする必要があります。方法は「非表示フォルダを表示」P.71を参照して下さい。

③はUSBメモリの見えないフォルダ機能（フォルダ保護機能）で見えなくなります。ただし、フォルダ指定なのでファイル単位での指定はできません。

主にフォルダに入ったコンテンツを見えなくする場合に設定します。見えなくするメリットは、USBの保護制限を緩和したり、重要なコンテンツをより強固に保護をする為です。見えないフォルダにあるコンテンツは、ファイルコピー禁止の設定をしなくてもファイル選択ができないのでコピーができます。また、利用者に動作に関係のない関連ファイルを見えなくしてシンプルにする事ができます。

フォルダ保護は、USBメモリの機能で非表示化しているので上記①②の方法とは違いファイルの非表示化属性で見えなくしているものではありません。パソコンの表示設定の変更では見る事ができません。設定は管理ソフトUsbManageの「フォルダ保護」タブで行います。指定したフォルダは見えなくなります。

エクスプローラ表示オプションの変更

以下の2か所を変更すると表示フォルダや非表示ファイルが見えるようになります。

オプション→表示オプションタブ

- ①「隠しフォルダ、隠しファイル、および隠しドライブを表示する」にチェックを入れる。
- ②一番最後の項目「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない（推奨）」のチェックを外す。

※詳しくは「P.71 非表示フォルダを表示する」を参照して下さい。

EXEメーカーの起動オプション指定

JavaScriptを使ったHTMLの起動オプション

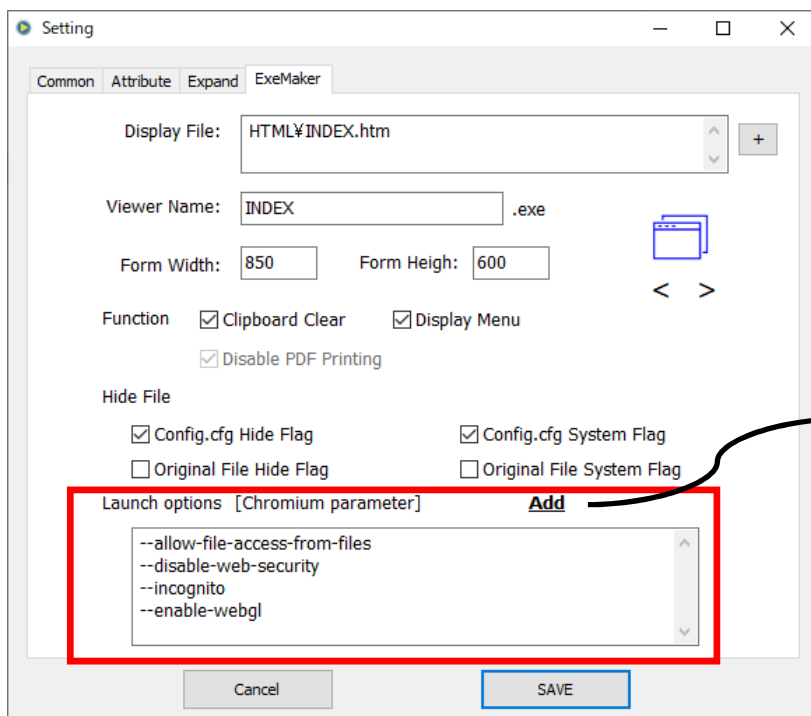
ExeMakerの起動オプション(HTML)

USBメモリ内蔵のブラウザはChromium(クロミウムVer 89.0.4389.114)が採用されています。Chromiumはセキュリティが強化されておりスクリプトを使った幾つかの動作が制限されています。しかし、正規の目的でアクセスするには起動オプションを設定してChromiumの初期セキュリティを解除する必要があります。ExeMakerではよく使われる制限を初期値で解除しています。このオプションは、表示するコンテンツがHTMLのみに有効です。

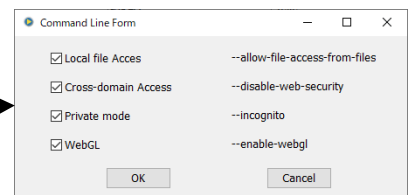
制限が解除されているオプション設定

Permission (許可)	起動オプション	内容
Local file Acces	--allow-file-access-from-files	ローカルファイルアクセス許可
Cross-domain Access	--disable-web-security	クロスドメインアクセス許可
Private mode	--incognito	クッキーやキャッシュファイルを保存しない
WebGL	--enable-webgl	WebGLを利用する

上記オプション以外は、起動パラメタ欄に直接入力します。Chromium(クロミウム)はGoogle Chromと同じWEBエンジンが使われている為、同じ起動オプションを設定する事ができます。

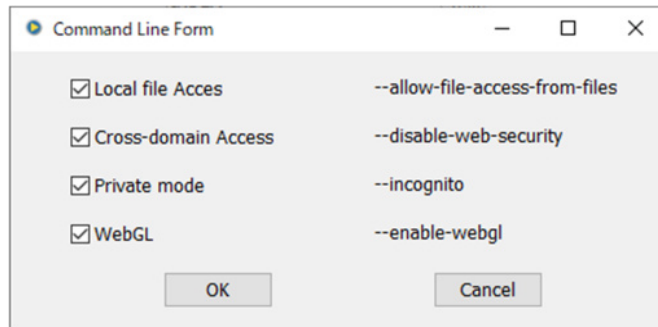


初期オプション設定
ウィンドウの表示



EXEメーカーの起動オプション指定

JavaScriptを使ったHTMLの起動オプション



ローカルファイルアクセス許可：スクリプトを使ってローカルファイルにあるファイルアクセスが禁止されていますのでこれを解除します。単純にローカルファイルにある画像などのファイルを表示する場合ではなく、JavaScript などの動的なスクリプトを使ってローカルファイルのアクセスが制限されています。初期値でこれを解除しています。

クロスドメインアクセス許可：ブラウザを使ってクラウドのWEBサービスを使う場合、**Ajax通信**（※1）が利用される場合があります。Ajax通信をつかうような仕組みはブラウザ策定基準の制限により、単一のドメインアクセスしか許していませんので動的な外部の仕組みが動かない場合があります。クラウドのWEBサービスを利用する場合、他のドメインからのアクセスになってしまいブラウザ制限で動作しない事があります。初期値でこれを解除しています。

※1）**Ajax通信(エージャックス)**：JavaScriptとXMLを使って非同期にサーバとの通信を行うこと。**非同期通信とは**データの一部分のみを都度サーバーから取得する方法です。例えばGoogle Maps APIなどを使い地図表示する場合に、非同期通信でデータのない地図の保管部分のみを受信できます。同期通信の場合は全部を再取得するのでデータ量が多くなる事や部分キャンセルができない、受信中は表示するデータがなく画面が白くなってしまいます。

WebGL：VRなどの3Dオブジェクトをブラウザで表示する場合、プラグインを使って表示する場合とWebグラフィックライブラリ（WebGL）というJavaScriptのAPI を使う方法があります。プラグインはUSB単位にセットアップが必要ですがUSB内蔵ブラウザには個別プラグインは入っていません。初期値でWebGLの利用を許可しています。

プライベートモード：USBメモリ内にあるコンテンツを表示する為、動作を早くするキャッシュファイルは必要ではありません。初期設定でクッキーの保存やキャッシュファイルの作成を無効にしています。

※一般的にはセキュリティを解除したGoogle Chromを起動する場合、ショートカットキーやバッチファイル起動を行います。この場合、先にGoogle Chromが起動していると新しいChromが立ち上がらない為、EXEメーカーで実行されるChromiumの方が取り扱いが楽になります。

PDFの表示 ClickViewとExeMaker

●USBを表示する最良の方法

USBを表示する方法は3つあります。それぞれ特徴がありますのでコンテンツの運用方法により選択してください。各方法は、1つを選ぶ必要はなく併用することもできます。

USBを表示する3つの方法

①ExeMakerでPDFを個々にアプリ化する

PDF表示するをアプリを生成します。1つのPDFファイルで1つの実行形式のEXEファイルを生成します。PDFファイルが少ない場合に有効です。

②ClickViewでPDFを表示する

ClickViewを起動するとUSBに保存されているPDFファイルが検索され自動でメニューを作成します。メニューよりタイトルを選択するとUSB内蔵のPDFビューワで表示します。沢山のPDFファイルが保存されている場合に有効です。

③Acrobat Readerで表示する方法

一般的なPDFを表示する方法です。PDFの表示方法は周知されていますので説明を省略しても問題はないでしょう。

※ただし、USBメモリに保存されているPDFをAcrobatやMicrosoft Edgeで表示すると不具合が発生する場合があります。トラブル対応を軽減するために上記①②と併用する事もできます。

●PDFが表示されない？

パソコンによってUSBに保存されているPDFファイルが表示できない場合があります。この対策のため上記①②が用意されています。

許可ソフトに登録されていない

USBの設定で「許可ソフトウェア」の登録があります。登録されていないPDFビューワソフトでは表示できません。

USBの取り外しができない？

使っていたアプリがUSBを利用していると、アプリがUSBをロックしている為、USBの取り外しができません。

特にブラウザでUSBをアクセスすると、先にブラウザを終了させる必要がありますが、ブラウザを閉じていても実際は終了していないのでUSB取り外しができない場合があります。この為、ブラウザでのUSBアクセスは極力避けるようにして下さい。

USBコンテンツがPDFやHTMLの場合は、USB内蔵ビューワの利用がオススメです。

USBには内蔵ブラウザ（Chromium：クロミウム）があります。PDFやHTMLは、トラブル軽減をすうるためにUSB内蔵ビューワClickViewで閲覧させる事を推奨しています。

ClickView（クリックビュー）はPDFを表示するPDFビューワがあります。また、ClickViewのオプション設定でPDFやHTMLをアプリ化する機能があります。

例）ClickViewのExeMakerメーカー機能を使う

カタログ.html	→	カタログ.exe
説明.pdf	→	説明.exe

PDFはClickViewの起動メニューからも表示ができます。

ClickViewはUSB内蔵のビューワソフトで動画や音声ファイル、PDFの表示が行えます。起動すると対応形式のメニューが表示され、メニューをクリックすると表示します。オプション機能で、未対応形式のパワーポイントを表示させたり、指定形式のPDFやHTMLなどブラウザで表示できる形式のアプリ化ができます。

アプリ化されたファイルはClickViewを起動しなくても目的のコンテンツを表示できます。



UsbStealth USBステルスの使い方

一時的に保存ファイルを見えなくする

UsbStealth (USBステルス)

UsbStealthは、保存されているファイルやフォルダに非表示属性を設定し一時的に見えなくするソフトです。USBを使ったファイルの受け渡しで他に見せる必要のないフォルダを見えなくできます。

UsbStealthを起動して“ON”をクリックすると現在保存されているファイルが非表示になります。
“OFF” をクリックすると再表示します。

■UsbStealthの仕組み

UsbStealthはファイルの表示属性を非表示に設定して一時的にファイルを見せなくできますが、パソコンの表示設定によっては表示される場合があります。

ただし、非表示化共にファイル名のスクランブル処理が行われている為、簡単には開く事ができません。

(ファイル本体を暗号化している訳ではありません。ファイル名のみを暗号化しています)

■Mac & UNIX Stealth

※常にONの状態でご利用下さい。
HYPER PLUSでは特に無関係です。
当社製の一般的なUSBメモリや非保護領域でUsbStealthを使う場合に機能します。

■Encryption(暗号化)

※常にONの状態でご利用下さい。
ファイル名を暗号化します。非表示状態でリンク先などに指定されたファイルがある場合は、ファイル名が変わるとアクセスができないのでOFFにします。

■パスワード設定

Passwordボタンをクリックするとパスワードを設定する事ができます。
パスワードが設定されている場合は、正しいパスワードが入力されないと画面が表示する事ができません。
※パスワードが設定されていない場合は、パスワード入力は表示されません。
※パスワード忘れにご注意
パスワードを忘れてしまった場合には調べる方法がありません。



フォルダ保護機能

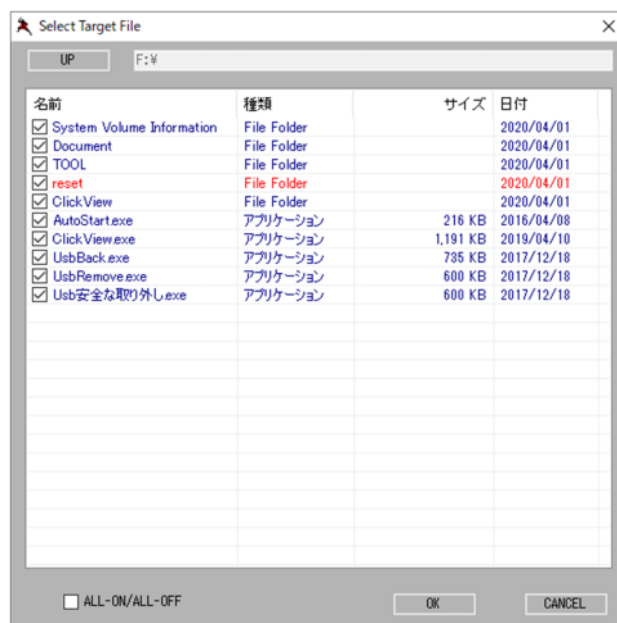
HYPER PLUSには、フォルダ保護という指定フォルダを見えなくする設定があります。
この機能はUSBメモリの独自機能で、UsbStealthとは違う仕組みで指定されたフォルダを見えなくします。このフォルダ保護機能はパソコンの表示設定に関わらず非表示にできます。
ただし、ファイル指定ができない事、予め管理ソフトで設定が必要なので簡易的に全てのファイルを見えなくしたい場合はUsbStealthが便利です。

UsbStealth (USBステルス)

■Select Target File

UsbStealthは全てのフォルダやファイルを非表示化します。

見せても良いフォルダやファイルがある場合は、非表示化を行ってからフォルダやファイルを追加するか“Select Target File”ボタンで非表示化させないフォルダやファイルを選択します。





UsbReset USBリセットの使い方

出荷時点のコンテンツに復元

128

■UsbResetのダウンロード

USBメモリバージョン7.3は標準付属しています。Ver7.0～Ver7.2をお使いの場合は以下よりダウンロードしてください。

http://www.abroad-sys.com/USB/V7/HC7.3_UsbReset.zip

UsbReset.zipを解凍すると

“.reset” フォルダ、UsbReset.exeがあります。

この2つをUSBの保護領域へコピーしてください。

“.reset” フォルダはUSBの保護領域へ保存すると見えなくなります。

フォルダ保護機能で非表示になっていますが存在はしています。



UsbReset

.....

UsbResetは、出荷時点の保護領域に入っているUSBシステムファイルを復元するソフトウェアです。
実行するだけで初期状態のUSBシステムを復元できます。

- ・保護領域のシステムファイルのみ復元されます。
- ・復元データを作成するとお客様コンテンツも復元ができます。（4GB以内）
- ・フォーマットを行った場合のシステム復元ができます。

用途

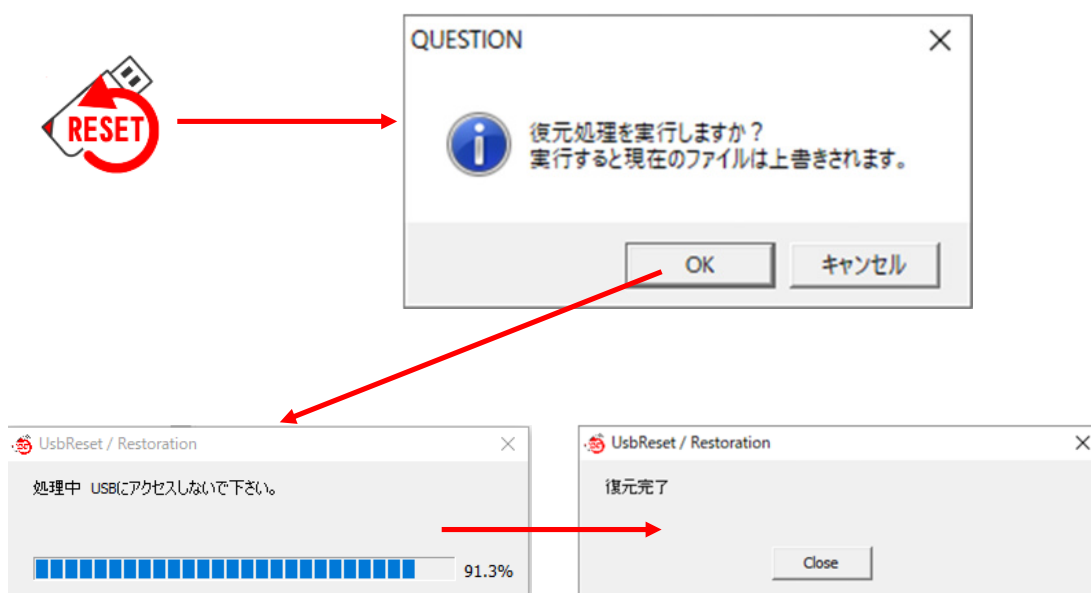
- ・利用者が誤ってファイルを削除してしまった。
- ・USBの安全な取り外しを行わずにファイルの破損があった。
- ・保護領域をフォーマットしてしまった。

復元できないケース

- ・後で追加されたデータファイル等（復元データの再作成が必要）
- ・USBメモリ全体が読めなくなったケース（USB内のバックアップデータが破損）
- ・非保護領域をフォーマットしてしまった。（UsbResetでは復元できません。バックアップの復元が可能です。事前に利用者がバックアップを実行している必要があります。）

129

復元は1クリック

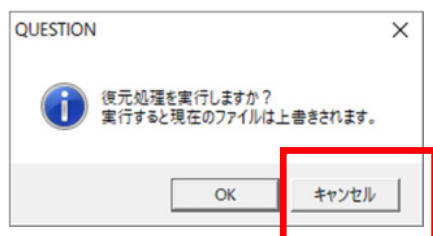




UsbReset 復元データの再作成

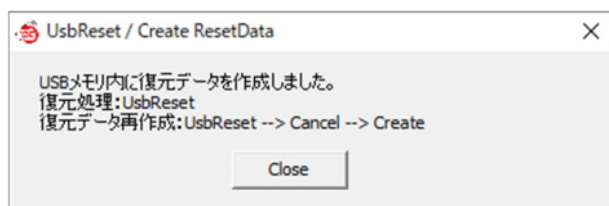
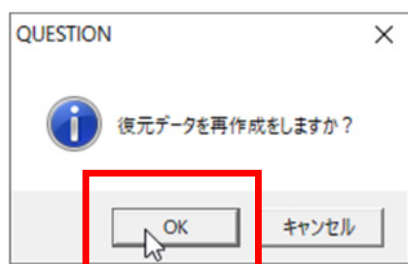
標準設定ではUSBメモリのシステムファイルのみが復元できます。お客様コンテンツを復元データに含めたい場合は復元データの再作成が必要です。

保護領域内のコンテンツを入れた後に、復元データの再作成を行ってください。
コンテンツの全体が4GBを超える場合は、exFATにフォーマットする必要があります。
 詳しくは次ページを参照してください。



UsbResetを実行したときに「復元処理を実行しますか？」で「キャンセル」を応答してください。

復元データの作成モードになります。



保護領域内にあるデータをバックアップして復元データが作られます。

復元データはUSBメモリ内に圧縮保存されます。
 USBメモリの空き容量にご注意下さい。
 ※通常版のUSB2.0はフォーマットがFAT32で出荷されています。
 FAT32は1ファイルのサイズ制限が4GBになります。次ページ参照

設定でお困りの場合

.....

1. **トラブルがあった場合や設定をやりなおす場合は、バックアップの復元を行って下さい。**
復元を行うには、あらかじめUSBメモリのバックアップを行っている必要があります。

2. **USBメモリは安全な取り外し操作が必要です。**

特に書き込みが終わった直後は、書き込み処理が終わっていない場合があります。取り外し操作を行わないでUSBを抜いた場合は、USBに保存されているフォルダやファイルが全部読めなくなる場合があります。安全な取り外し操作は、これらのトラブルを未然に防ぎます。

設定を戻したい

- 管理ソフトUsbManageの簡易設定に” Reset / Initialize” という項目があります。選択すると禁止項目が初期設定に戻ります。
- バックアップをとっている場合は、復元処理を行います。
- フォーマット処理を行う。設定はフォーマットでは初期化されませんので推奨していません。また、フォーマットを行う場合は、USBメモリ内のシステムで利用しているエラーメッセージファイルも消えてしまいますので復元処理が面倒になります。フォーマットで改善できる症状はファイル名の文字化け P.76 の場合です。

UsbStartのエラーが改善できません。

- USBを一旦取り外し、パソコンを再起動してください。
- 他のソフトウェアの影響で動作ができない場合があります。期限切れのセキュリティソフトがパソコンに残っている場合は契約を更新するかアンインストールを行って下さい。
- 規格上の問題。HUBや変換アダプタを使わずにパソコン側USB2.0規格のUSBポート（差込口）をご利用下さい。USB3.0規格のポートは規格上、下位互換性がある事になっていますが全ての製品でUSB2.0の完全互換ではありません。USBホストコントローラードライバの更新で改善する場合があります。詳しくは support@abroad-sys.com にご相談下さい。

管理ソフトUsbManageでエラーが表示される。実行ができない。

- 設定するUSBが見つからない場合にエラーが表示されます。
- UsbStartを実行して保護領域を表示しているとエラーになります。詳しくは P.6 をご参照下さい。
- 管理ソフトUsbManageとUSBメモリのバージョンが違っている。

設定がまったくわからない

本製品は設定が必要な製品です。基本的にはPDFマニュアルをご参照の上、設定を行って下さい。

●**お急ぎの場合やコンテンツ内容が複雑な場合はマスタ作成サービス（有料）をご利用下さい。**

※マスタ作成サービスは主に複数本数を作成するときに必要なサービスですが1本でも設定可能です。

info@abroad-sys.com アブロードシステムズ 営業部

- はじめての場合P.2又は「設定の流れ」P.8～P.12を参照下さい。
- 保存するコンテンツ種類やご利用用途をご連絡の上、管理ソフト内にある優先サポート機能でご相談下さい。何らかの理由で優先サポート機能を利用できない場合は、管理ソフト「製品情報」タブにある“設定レポート”ボタンで出力できるUsbSetting.txtをメール添付でsupport@abroad-sys.comに送信して下さい。